



Syllabus

平成16年度

薬学部授業計画

< 共通教養科目 >



< 外国語科目 >

近畿大学

Table of Contents

Introduction	1
Chapter 1: The History of the Book	10
Chapter 2: The Structure of the Book	25
Chapter 3: The Language of the Book	40
Chapter 4: The Style of the Book	55
Chapter 5: The Content of the Book	70
Chapter 6: The Impact of the Book	85
Chapter 7: The Future of the Book	100
Index	115

共通教養科目

科目名： 人権論 1				
英文名： Human Rights 1				
担当者： 熊本 ^{クマモト} 理抄 ^{リサ}				
単 位： 2単位	開講年次：	開講期：	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

国内外でどんな人たちが反差別運動にとりくんでいるのか、世界や日本の人権はどのような歴史的展開を歩んできたのか、そのとりくみのなかから、どのような人権基準が生み出されてきたのか、そして生み出された人権基準は日本のわたしたちの生活にどのような影響を与えてきたのか。具体的な事例をもとに、グローバル社会で、日本社会で、地域社会で、いかに人と人とのつながりの中で生きていくか、日本をどのような社会にしていく必要があるのか、を考えていきたいと思えます。

■到達目標

歴史的・社会的存在である「わたし」がどのような「わたし」を引き受けて生きていくのか、そんな「わたし」が他者とのようなつながりをつくりだしていくのか、そんな「わたし」を受け容れる社会をどのようにつくりだしていくのか、一人ひとりが自分自身に引きつけて考えましょう。

■教科書

特に指定しません。

■参考文献

阿部浩己・今井直・藤本俊明『テキストブック 国際人権法 第2版』（日本評論社）
山崎公士『国際人権 知る・調べる・考える』（解放出版社）
授業中に指示します。

■試験方法

定期試験

■成績評価基準

定期試験（60%）、コミュニケーションカード（25%）、レポート（15%）

■授業評価実施方法

各授業の際にコミュニケーションカードを配布します。ただ名前だけを書くのではなく、その授業の疑問点、意見、感想、質問などを書いて提出していただきます。内容に関しては、一部を授業で紹介したり、質問に答えたりしていきたいと思えます。

■研究室・E-mailアドレス

研究室（本館5階・507号室）
E-mailアドレス（kumamoto@msa.kindai.ac.jp）

■オフィスアワー

随時、受け付けます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

授業計画について

第2回 国際人権の歴史的展開

「すべての人」の人権保障をうたった世界人権宣言が生まれるに至った背景、各地域で生まれてきた人権宣言の限界について

第3回 日本における人権の歴史的展開（1）

近代日本の人権思想と運動の歴史について

第4回 日本における人権の歴史的展開（2）

第5回 公民権運動

1950年代からの人種差別に反対する運動の高まり、1960年代の、マーティン・ルーサー・キング牧師を指導者とした、市民としての平等な権利を要求する公民権運動の広がりについて

第6回 ブラック・フェミニズムの主張

アメリカにおける白人至上主義のフェミニズム運動や、男性中心の黒人解放運動の中で、黒人女性たちは、何を問題にしてきたのか

第7回 先住民族の運動 (1)

近代における植民地支配主義の中で、先住民族はどのような権利保障の闘いを進めてきたのか

第8回 先住民族の運動 (2)

日本の近代国家形成とアイヌ民族の権利保障の闘い

第9回 インドのダリット解放運動

カースト制度下における、「ダリットとして」「女性として」の複合差別

第10回 国際人権保障システム

国連が生まれるまでの背景、国際人権保障システムとしての国連の役割・機能・活動、国際人権規約について

第11回 国際人権条約と国内法の関係

憲法、条約、国内法の関係と条約の国内的実施について

第12回 女性差別撤廃条約と日本

女性差別撤廃条約の締結が日本における労働や教育のあり方に与えた影響について

第13回 人種差別撤廃条約と日本

「外国人入店拒否訴訟」判決と人種差別撤廃条約

第14回 予備

第15回 予備

科目名： 人権論 2			
英文名： Human Rights 2			
担当者： 熊本 ^{クマモト} 理抄 ^{リサ}			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	区 分： 必修選択の別： 選択科目

■授業概要

わたしたちが「常識」「当たり前」「普通」だと思ってきたものを、人権という視点からもう一度見直してみたいと思います。わたしたちの「常識」「当たり前」「普通」が、誰かを苦しめ、傷つけているかもしれません。そうした人々の視点に立つて、わたしたちの社会を、生き方を、考え方を、もう一度考えてみましょう。わたしたちの生き方や生きている社会は、そういう人々と深く関わっているのですから。そこから、わたしたちがいろんな人々との共生をいかに築いていくことができるのかを考えていきたいです。

なお、「人権論2」を受講するには「人権論1」を履修しなければなりません。

■到達目標

日本の法制度、教育、労働、結婚、福祉、社会意識や社会のしくみなどを、マイノリティの人々の視点から見つめ直し、それがわたしたち一人ひとりとどのように関連しているのかについて、認識を深めていくことを通じて、自分を変えるとは、社会を変えるとは、人とのつながりを変えるとは、どういうことか、どういうことができるのか、どうすべきなのかについて、考えていきたいです。

■教科書

特に指定しません。

■参考文献

授業中に指示します。

■試験方法

定期試験

■成績評価基準

定期試験 (60%)、コミュニケーションカード (25%)、レポート (15%)

■授業評価実施方法

各授業の際にコミュニケーションカードを配布します。ただ名前だけを書くのではなく、その授業の疑問点、意見、感想、質問などを書いて提出していただきます。内容に関しては、一部を授業で紹介したり、質問に答えたりしていきたいです。

■研究室・E-mailアドレス

研究室 (本館5階・507号室)

E-mailアドレス (kumamoto@mas.kindai.ac.jp)

■オフィスアワー

随時、受け付けます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

授業計画について

第2回 戸籍

出生、教育、就職、結婚、など、人生の局面で登場する戸籍について、しっかり見たこと、考えたこと、おかしいと思ったことはありますか。

第3回 戸籍の歴史

戸籍はこれまでどのような歴史を歩んできたのでしょうか。

第4回 戸籍のもつ問題点

わたしたちがあまりにも当たり前だと思すぎて、疑うことさえなかった戸籍の問題点について考えてみましょう。

第5回 国籍

あなたの国籍は何ですか。それはなぜですか。国籍って何ですか。

第6回 国籍と在日韓国・朝鮮人の人権

国籍をめぐる在日韓国・朝鮮人の歴史と現状、戦後補償

第7回 日本における滞日外国人の人権

法的地位、出入国管理、生活上の問題、人身売買

第8回 家族と国籍

国籍のもつ問題点について考えてみましょう。

第9回 差別を生みだし支える社会意識 (1)

浄穢思想、貴賤思想、家思想について考えてみましょう。

第10回 差別を生みだし支える社会意識 (2)

優性思想と優生保護法

第11回 社会福祉と地域生活 (1)

社会福祉制度はわたしたちの生活を本当に守ってくれているのでしょうか。

第12回 社会福祉と地域生活 (2)

地域に住む人たちは、人権・福祉という視点から、どのようなまちづくりを行っているのでしょうか。

第13回 結婚 (1)

部落出身者と結婚差別の問題から、結婚について考えてみましょう。

第14回 結婚 (2)

第15回 予備

科目名： 経済学			
英文名： Economics			
担当者： <small>ニシカワ ヒロノブ</small> 西川 弘展			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	区 分： 必修選択の別： 選択科目

■授業概要

「経済学」の歴史は300年足らずです。しかし、さまざまある社会科学の分野(法学、政治学、社会学など)の中で「経済学」は、唯一、世界標準の教科書 (=すべての経済学者が共有する知識・思考方法の体系)を持ち、ひとつの科学として確立しています。この意味で「経済学」は社会科学の女王と称されています(ただし、この見方については賛否両論があります。しかし、当面は、この問題には、立ち入る必要はないでしょう)。この授業では、そうした「経済学」の基礎的な知識をじっくりと学びます。具体的には、経済全体の動きを大雑把にとらえる「マクロ経済学」と諸個人の合理的な行動を前提に組み立てられる「ミクロ経済学」の典型的な理論を中心に解説し、それらの現実への応用例についても紹介するように努めたいと考えています。

現代の経済学は、数学的に高度に精緻化されています。しかし、授業では、数学にとらわれないように、出来るだけ直感に訴えて「経済学」特有の考え方の習得に努めるつもりです。ただし、グラフや記号の活用は避けられませんし、簡単な代数計算は行わなくてはなりません。このことを充分に承知した上で、受講して下さい。

当然の事ですが、授業中は静粛に。受講マナーを守って皆が快適な教室にしましょう。

■到達目標

大学生として恥ずかしくない「経済学」の基礎的な知識と考え方をじっくり学びます。

日常の経済・社会現象や人々の活動を、常識にとらわれることなく、経済学的に把握・評価できるようになればよいと考えています。講義を通じて、これまで考えもしなかった興味深く新しい見方を獲得し、何らかの感動を味わうことが出来ればよいと考えています。

■教科書

特定の教科書は使用しません。

口述による講義、板書にあわせて、適宜プリントを配布します。特別な理由がない限り、プリントのバック・ナンバーをまとめて配布するという事はないので、注意してください(プリントを配布するのは、その回限りとします)。

■参考文献

興味深く、有益な文献は授業中に紹介しますが、さしあたり、新しい参考書として以下のものを挙げておきます。購入しなれば、授業が解らない、試験で合格できないというわけではありませんが、意欲的な学生は、図書館で借りたり購入したりして、自習に充てると良いでしょう。

- (1) 林俊彦『ハート&マインド経済学入門』有斐閣、1996年
- (2) 市岡修『経済学：エコノミックな見方・考え方』有斐閣、2000年
- (3) 井原哲夫他『経済学入門：現実の経済を理解するために』日本評論社、2003年
- (4) 伊藤元重『入門経済学第2版』日本評論社、2001年
- (5) 塩沢修平『基礎コース 経済学』新世社、2003年

■試験方法

期末試験を行います。

記述式(空所補充問題、計算問題、重要語句の説明、重要理論の解説など)。

■成績評価基準

原則として期末試験で評価しますが、出席をとる事が出来る場合は、出席点も若干考慮します。

■オフィスアワー

毎回の講義終了後

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 経済学入門

- ・なぜ経済学を学ぶのか?
- ・経済学の歴史
- ・現代経済学の状況
- ・現代経済学の主要問題
- ・経済学の学び方
- ・参考文献の紹介
- ・今後の講義予定

第2回 需要と供給の分析ツール

- ・需要曲線(需要関数)の意味
- ・供給曲線(供給関数)の意味
- ・代表的な需要・供給分析と現実への応用例

第3回 需要関数の背景(1)

- ・消費者・家計の最適化行動の仮説
- ・効用関数と無差別曲線
- ・功利主義哲学と現代経済学

第4回 需要関数の背景 (2)

- ・効用最大化 (一財モデル)
- ・効用最大化 (二財モデル)
- ・需要関数 (マーシャルの需要法則) の導出
- ・所得効果と代替効果

第5回 供給関数の背景 (1)

- ・生産の把握方法 (生産関数)
- ・費用関数
- ・様々な費用の概念

第6回 供給関数の背景 (2)

- ・様々な費用関数
- ・利潤極大化仮説と供給関数の導出

第7回 部分均衡市場分析

- ・完全競争市場
- ・独占・寡占市場

第8回 GDPと国民所得の循環

- ・GDPの概念
- ・GDPの三面
- ・産業連関表

第9回 GDPの決定理論 (1)

- ・消費、投資、政府支出
- ・IS曲線の導出

第10回 GDPの決定理論 (2)

- ・貨幣需要と貨幣供給
- ・LM曲線の導出

第11回 GDPの決定理論 (3)

- ・IS=LMモデル
- ・IS=LMモデルと財政・金融政策

第12回 国際経済

- ・経済の国際化
- ・貿易の理論
- ・変動為替相場制下での財政・金融政策

第13回 景気循環

- ・景気循環は、なぜ問題なのか?
- ・在庫要因
- ・投資要因
- ・「天井」と「床」

第14回 経済成長と経済発展

- ・定型化された事実
- ・経済成長の諸条件
- ・経済発展の歴史軌跡

第15回 定期試験

主に授業で行った内容を正確に理解できているかを試験します。

科目名：心理学			
英文名：Psychology			
担当者： <small>キシモト ヨウイチ</small> 岸本 陽一			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	区 分： 必修選択の別：選択科目

■授業概要

心理学あるいは人間心理のいろいろな現象に関する興味や関心は非常に高い。しかしながら、その関心のありか、理解の仕方は、必ずしも科学としての心理学の目指しているものとは一致していない。本講義では、人間心理に関する現象の科学的研究方法や実証的成果に目を向けることで、人間の科学的理解を深める。

■到達目標

人間や動物の行動を、個人の経験の基づいて主観的あるいは独断的に説明・理解するのではなく、客観的、科学的な根拠に基づいて理解できるようになること。

■教科書

今田寛・宮田洋・賀集寛（編著）2003 心理学の基礎、培風館

■参考文献

詫間武俊（編）基礎心理学講座全5巻、八千代出版
 今田寛 現代心理学シリーズ5 学習の心理学、培風館
 A. ミアース、池見西次郎・鶴見孝子訳自律訓練法、創元社
 詫間武俊（編）性格心理学ハンドブック、福村出版
 フリードマン/ ローゼンマン、河野友信（監）タイプA—性格と心臓病—、創元社

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（80%）
 小テスト（20%）

■研究室・E-mailアドレス

文芸学部棟 5階 506室
 kishimoto@msa.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜日4限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 心理学の方法・対象・諸領域

心理学の学問領域、その研究方法、そしてその対象について述べる。

第2回 学習1

生得的な行動と学習された行動について述べる。

第3回 学習2

古典的条件づけによる行動の獲得。

第4回 学習3

道具的条件づけによる行動の獲得。

第5回 学習原理の応用

教育・臨床への応用（主として行動療法）を解説する。

第6回 動機づけ1

人や動物の行動を駆り立て、その方向付け、強度、そして持続性を決定するメカニズムを見る。

第7回 動機づけ2

生得的な動機（基本的動機：生理的動機、内発的動機）を解説する。

第8回 動機づけ3

獲得された動機（社会的動機：達成動機、親和動機）を解説する。

第9回 動機づけ4

行動が阻止され、その結果として動機の満足が妨げられている状態（フラストレーション）の原因を考える。

第10回 パーソナリティ 1

パーソナリティを類型で記述する研究を解説する。

第11回 パーソナリティ 2

パーソナリティを特性で記述する研究を解説する。

第12回 パーソナリティ 3

パーソナリティ研究の現状を概説する。

第13回 パーソナリティ 4

パーソナリティをどう測定するか。パーソナリティ・テスト（検査）の原理を理解する。

第14回 パーソナリティ 5

パーソナリティの発達に関するいくつかの理論について概説する。

第15回 定期試験

科目名：倫理学				
英文名：Ethics				
担当者： ^{シロウズ} 白水 ^{シロウ} 士郎				
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

安楽死・尊厳死／脳死・臓器移植／出生前診断と優生思想、といったテーマに即して、生と死をめぐる科学・技術・医療の倫理的問題について理解を深める。映像教材を多用する。

■教科書

特に指定しない。

■参考文献

今井道夫「生命倫理学入門」産業図書、ピーター・シンガー「生と死の倫理」昭和堂、他適宜指示する。

■成績評価基準

期末試験と数回の小レポート

■研究室・E-mailアドレス

文芸学部棟6F・shirouzu@nyc.odn.ne.jp

■オフィスアワー

木曜3限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 生命倫理学とは何か：テーマとアプローチの紹介
- 第2回 生命の尊厳とは何か（1）：安楽死受容の現状と問題点
- 第3回 生命の尊厳とは何か（2）：QOLとSOL
- 第4回 生命の尊厳とは何か（3）：自己決定権の落とし穴
- 第5回 生命の尊厳とは何か（4）：終末期医療とケア
- 第6回 脳死と臓器移植（1）：脳死判定の諸問題
- 第7回 脳死と臓器移植（2）：臓器移植の諸問題
- 第8回 脳死と臓器移植（3）：和田心移植「事件」の教訓
- 第9回 脳死と臓器移植（4）：臓器交換社会の是非
- 第10回 遺伝子診断：現状と問題点
- 第11回 出生前診断と優生思想（1）：歴史と現状
- 第12回 出生前診断と優生思想（2）：生殖医療の最前線
- 第13回 出生前診断と優生思想（3）：優生思想の誘惑と悪夢
- 第14回 出生前診断と優生思想（4）：遺伝子決定論を越えて
- 第15回 まとめ：真の共生社会を目指して

科目名： 日本国憲法				
英文名： Japanese Constitutional Law				
担当者： <small>ウラカワ ショウジ</small> 浦川 章司				
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

国家の基本法である憲法すなわち日本国憲法の基本原理は、政治・社会の基礎を構成するものであり、私たちの生活と密接な関係をもっています。すなわち憲法は、一方で政治の仕組みや活動の指針として国の政治を管理し、一方で私たち国民の社会生活における自由や生活を守っています。そこで私たちは、憲法を正しく理解し、憲法を生活の中で生かしていくことが重要になってくるのです。

本講義においては、日本国憲法の基本理念・原理について解説し、憲法の基礎的知識を修得し、憲法と私たちの生活との係わりについて考察することを目的としています。

■到達目標

日本国憲法の基本理念・原理を理解し、憲法の基礎的知識の修得および法的思考能力の修得を到達目標としています。

■教科書

開講時に指示します。

■参考文献

適宜指示します。

■関連科目

法律関連科目

■試験方法

筆記試験

■成績評価基準

定期試験（70%）、小テスト（毎回）（30%）・レポート（10%）で評価します。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 憲法と現代社会

第2回 憲法の内容、種類、特質、日本国憲法の概観

第3回 日本国憲法の基本原理

第4回 基本的人権総論

第5回 幸福追求権

第6回 法の下での平等

第7回 精神生活と人権①

第8回 精神生活と人権②

第9回 経済活動と人権

第10回 人身の自由と適正手続保障

第11回 社会権

第12回 裁判を受ける権利と裁判所

第13回 国民の政治参加と政治制度

第14回 地方自治と分権

第15回 定期試験

科目名： 日本語表現法				
英文名： Expression in Japanese				
担当者： ^{カトウ} 加藤 ^{ヒサオ} 尚雄				
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

薬剤師の職場は広範で専門性が求められている。病院や調剤薬局では、医師をはじめ看護師や検査技師等の医療関係者とともに、チーム医療に携わっている。また、製薬企業では、研究から営業に至るまで幅広い職場で仕事をしている。このように組織の中で仕事をするには、人と人との円滑なコミュニケーションが大切である。その基本は言葉と文章である。正しい言葉使いや読みやすい文章は、人間関係を円滑にする大事な要素であるとともに、人格や能力を表現するものである。授業では、話し方や文章の書き方を勉強し、より豊かな表現力を習得する。

日本語の発生から歴史、特徴などを学ぶと共に、話し言葉、書き言葉をマスターする。

■教科書

日本語表現法 三星堂出版

■参考文献

なし

■試験方法

定期試験 小論文

■成績評価基準

成績評価は、平常点50%（出席率、論文、レポートを含む）、定期試験50%で決定する。出席率が70%に満たない場合は、成績評価の対象外にすることがある。

■授業評価実施方法

レポートの提出、

■オフィスアワー

随時（講義時）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 日本語の歴史、日本語の特質、

第2回 話し言葉と書き言葉

第3回 敬語について

第4回 文章を書く

第5回 レポート、手紙、実務文書の書き方

第6回 レポート、論文の書き方

第7回 話し方について

第8回 話し方2

第9回 口頭発表、面接時の受け答え

第10回 会議、討議のしかた

第11回 間違った言葉使い

第12回 エントリーシートの書き方、自己分析の仕方

第13回 四字熟語、外来語の使い方

第14回 文章の要約

第15回 期末テスト

科目名： 社会福祉論				
英文名： Social Welfare				
担当者： <small>タカクワ ケイコ</small> 高桑 慧子				
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

社会経済の変化と共に、私達の生活も不断に変化してきた。特に昭和30年代からの経済の高度成長は生活の高度化・都市化を推し進め、経済的繁栄は豊かな生活を享受することになったが、同時に国民生活も複雑・多様化し生活のさまざまな局面に矛盾やゆがみを生じた。それに応じて時代的要請による新たな社会福祉を促す契機となった。1970年以降の経済は、衰退と繁栄そして又衰退といった経済社会情勢の変化の中で、人々の生活は複雑・多様化するに伴い、社会福祉のニーズも一層多様化・拡大・高度化してきた。

そして今日、社会福祉サービスの提供が国民すべてに広く求められている。激動期にある社会福祉の状況に対応するために基本的な知識と幅広い視野を獲得することをねらいとする。

■教科書

「社会福祉概論」鈴木幸雄、佐藤秀樹、岡村順一 2001年 中央法規

■参考文献

「新社会福祉学」足立叡、佐藤俊、宮本和彦編 2001年 中央法規

「改訂社会福祉概論」西村昇、江戸正国 2001年 中央法規

「社会福祉要論」今泉礼右編 1999年 中央法規

「社会福祉実践とアドボカシー」西尾祐吾、清水孝則 2000年 中央法規

「精神障害者への偏見とスティグマ」白石大介 2000年 中央法規

「こころの病1.2」全国精神障害者、家族会連合会 1999年 中央法規

「知的障害者の人権を守るために」監修 厚生省大臣官房障害保健福祉部 障害福祉課 1999年 中央法規

「老年看護学⑩」中島紀恵子 医学書院

「看護学入門」「看護の倫理」「患者の心理」佐藤トミ他 メディカルフレンド

■試験方法

定期試験、小テスト、レポート

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、レポート (30%)

■授業評価実施方法

基本的には単元の間と終わりに小テストを行う。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室、21号館2階

■オフィスアワー

各講義終了後 1～2時間程度、個室にて対応。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 社会福祉の意義と目的

1) 社会福祉とは

(1) 福祉の用語と意味と推移 (2) 広義の福祉と狭義の社会福祉

2) 日本国憲法と社会福祉

3) 社会福祉の理念

(1) 基本的人権思想の歩み (2) 生存権の保障と幸福に生きる権利

(3) ノーマライゼーションの理念メント

4) 新しい理念

①権利擁護 ②自立支援 ③エンパワー

第2回 社会福祉を取り巻く環境の変化 (1)

1) 少子・高齢社会の到来

2) 家族の変容 — 核家族の進行とそれに伴う課題

第3回 社会福祉を取り巻く環境の変化 (2)

3) 地域社会の変化

- (1) 都市における問題 (2) 農村部における問題
- 4) 現代の社会福祉問題の特徴と課題
 - (1) 新たな生活問題の発生
 - (2) 子ども、高齢者、障害者を取り巻く社会福祉の課題

第4回 社会福祉の史的展開

- 1) 欧米の社会福祉のあゆみ イギリス、アメリカ、スウェーデン
- 2) 日本の社会福祉のあゆみ
 - (1) 古代から近世 (2) 近世以降：社会事業成立以前と以降
 - (3) 戦後
 - ①戦後の復興と福祉の近代化
 - ②高度経済成長と社会ニーズの多様化
 - ③福祉見直しから本格的な福祉改革の時代へ

第5回 社会福祉制度と援助活動

- 1) 社会福祉組織と体系
 - (1) 社会福祉制の体系 (2) 社会福祉行政の組織
 - (3) 社会福祉事業と組織 (4) 社会福祉財政の組織
- 2) 近代社会の社会福祉ニーズの変化とサービスの供給体制
- 3) 福祉ニーズの把握方法
 - (1) 福祉ニーズとは何か (2) 福祉ニーズの把握方法と判定基準
- 4) 社会福祉サービスの概観
 - (1) 児童福祉
 - (2) 障害者福祉：身体障害者、知的障害者、精神障害者
 - (3) 高齢者福祉

第6回 高齢者福祉 (1)

- 1) 年老人口の増加

第7回 高齢者福祉 (2)

- 2) 高齢者の特徴 —— 老化に伴う心身の機能の変化と健康上の問題
- 3) 要介護高齢者の増加と福祉対策 "ゴールドプラン21、福祉の計画"

第8回 障害者福祉 (1)

- 1) 精神障害者福祉
 - (1) 障害の概念 (2) 西欧・日本における精神医療史
 - (3) 精神医療体制の動向 (4) 精神障害者の社会復帰を阻む要因
 - (5) 今後の課題と展望

第9回 障害者福祉 (2)

- 2) 知的障害者福祉
 - (1) 知的障害の特性とその理解 (2) 知的障害者への権利侵害
 - (3) 今後の課題と展望

第10回 社会福祉施策の動向

- 1) 福祉行政の地方分権化とサービスの総合化、統合化
- 2) 福祉供給システムの多元化
- 3) 福祉の計画 "ゴールドプラン21 障害者プラン"
- 4) 権利擁護システム
 - (1) 地域福祉権利擁護事業 (2) 成年後見制度

第11回 障害者の権利擁護 (1)

- 1) アドボカシーを必要とする人の社会的背景
 - (1) 高齢者 (2) 知的障害者
 - (3) 精神障害者 その他
- 2) 人権侵害の具体的事例とその予防

第12回 障害者の権利擁護 (2)

- 3) 地域福祉権利擁護事業
- 4) 成年後見制度

第13回 医療における倫理と患者の理解 (1)

1) 医療における倫理

- (1) 人間関係のルールとしての倫理
- (2) 人間関係の成立発展のための基本的ルール

第14回 医療における倫理と患者の理解 (2)

- (3) 現代医療と医の倫理、生命倫理、インフォームドコンセントと自己決定権

第15回 医療における倫理と患者の理解 (3)

- (4) 援助の場で生じがちな倫理上の問題点と実際

生涯スポーツ

健康スポーツ教育センターが行う教育について

1. 大学における健康スポーツ教育の目的

生涯学習社会における身体運動・スポーツ活動は、各自のライフスタイル形成においても中核的な機能を果たすものとして位置付けすることができます。つまり、加速度的に進む高齢化社会のなかで、多くの人々を引き付け、魅了する身体運動・スポーツ活動を「生涯学習」という視点から捉えなおすとき、二つの大きな機能を果たしつつあります。一つは健康の維持・増進・回復という「健康への配慮」、一つは余暇の増大、生活水準の向上、生活意識の変化にともなう文化的な欲求としての「豊かな生きがいの創造」です。

例えば、生涯にわたる身体活動・スポーツ活動が、各自の「健康への配慮」に直接的なかかわりを持つことは自明なこととして理解できます。一方、高齢化社会の中でのよりよく生きるための『生きがい感』を「生きる喜びや満足感」、「生活の活力や張り合い」、「自分の可能性の実現」、「他人や社会に役立つ」などと捉えるとするならば、身体運動・スポーツが、各自の生きがい感を充実させ、より「豊かな生きがいの創造」に大きく貢献することは容易に想像することができます。

このような視点に立ち、健康スポーツ教育センターでは、一時的な大学における教育という枠を取り払い、生涯における個人に対する健康・スポーツ教育のサポートシステムを構築しようとしています。それは、「生涯健康管理システム」として、大学における健康スポーツ教育の中核的なシステムとして位置付けています。

大学における生涯スポーツ教育の目標は、「自己のライフステージや心身の状態に適した身体運動やスポーツを生活の中に積極的に取り入れ、人々との交流を通じて、豊かなライフスタイルを形成できる能力を身に付けること」です。

すなわち、生涯にわたる身体運動・スポーツ活動を通じてすべての人々が豊かに生き生きと生きることと、自己を表現できることを目標としたものであり、各自がライフステージに対応した自己開発や自己表現がなされること、そして身体運動・スポーツをすることが自己目的化されることを教育の目標としています。

そのために、健康スポーツ教育の目標を以下のように焦点付けました。

1. 生涯にわたる健康管理や、健康・体力の維持・増進・回復を図るための素養を高める。
2. 身体運動・スポーツ実践の中で、「新しい動きの体験」を享受することにより、運動する喜びとともに共生する喜びを体得する。
3. 身体運動・スポーツに関する科学的「知」を動くことによって実感し、探求する。
4. 身体運動・スポーツすることによって得られる集約的な身体の「知」を体得し、生涯スポーツ活動の素養を養う。

2. 正課授業について

正課授業とは、以下の通りです。

- 1) 健康とスポーツの科学（講義 半期）2単位
- 2) 生涯スポーツ1（実技 前期）1単位
- 3) 生涯スポーツ2（実技 後期）1単位
- 4) 健康スポーツ科学（実技・実習・講義・旧カリキュラム 4年）2単位

1) 健康とスポーツの科学（講義）※理工学部のみ開講

今日の学生が持つ多様なニーズに応えるための試みとして、「生涯学習」の視点から「健康とスポーツの科学」を講義します。

- (1) スポーツ科学の基礎知識
- (2) 健康科学の基礎から応用
- (3) 健康の自己管理論

2) 生涯スポーツ1・2（実技・実習）※開講（1～4年）

生涯スポーツ実習は、講義として連鎖しつつスポーツに関する基礎から応用まで専門的知識の習得を目指すものです。

- (1) プレー・レジャー（コミュニケーション）としてのスポーツ
- (2) 健康づくりとしてのスポーツ
- (3) 身体能力開発としてのスポーツ として展開します。

生涯スポーツ1は「基礎的」、生涯スポーツ2は「応用的」な視点で実施されます。

生涯スポーツ1および生涯スポーツ2の授業内容

授業目的：生涯スポーツ1および生涯スポーツ2の授業は、実技を中心とした実践科目です。

したがって、雨などによりやむをえない場合やVTRなどの視聴覚機器を利用して授業を行う場合以外は、グラウンドや体育館で実施されます。両科目ともスポーツ・運動教材を用い、体力・運動能力の実質的向上あるいはその方法、健康の意義とその保持・増進の方法などを習得することを目標としています。

ただし、生涯スポーツ2は、生涯スポーツ1と比較して、より深い知識の習得とやや専門的な体力・運動能力の習得を目指しています。

授業内容：生涯スポーツ1および生涯スポーツ2の授業は、一つの時限に複数の担当者が、それぞれ異なった運動教材と異なった授業の展開を行い、実習種目として以下のものを用意しております。

バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球・硬式テニス・サッカー・フットサル・ソフトボール・ゴルフ・格技・ウオーキング・軽スポーツ（フライディングディスク・ゲートボール他）
--

成績評価：運動課題の達成度—身体活動・技術・技能・戦術・戦略50% 心理・社会的課題の達成度—努力・意欲・コミュニケーション・マナー・礼節50% なお、担当者により評価の基準が異なることがあります。

3. 履修登録についての注意

生涯スポーツ1・2の第一回目の授業について

4月の第一回目の授業時に履修要項を持参の上、記念会館に集合し、ガイドブックを配布するので参考にすること。
(農学部は別途指定する。)

1. ガイダンスにおいて「生涯スポーツ1」、「生涯スポーツ2」の順序で受講科目の選択を行い、履修登録をします。
2. 各種目においては、円滑な授業、安全性の確保のために定員を設けています。
3. そのために選択種目は、第一希望から第三希望まで決めておいて下さい。
4. 特別な理由がない限り、ガイダンス後の受講科目の変更、再申請は認めません。
5. 2年生以上の受講生は、同一名称科目の重複は認めていません。
6. 教職過程を希望する学生は、「生涯スポーツ1・2」は必須です。

1. 履修相談について

健康スポーツ教育センター正課授業に関する履修相談は、以下の日程で行います。

期日：4月10日(土)～4月20日(火)

時間：午前10時～12時・午後1時～3時・4時～6時

場所：11号館1F健康スポーツ教育センター控え室

4. 履修上の注意

1. 実技・実習は、巻末の地図に示されたスポーツ施設において実施します。
2. 各週の授業場所は、年度始めに担当教員が指示するが、雨天、グラウンド状態不良等の理由により、授業場所を変更する場合があります。この提示は、天候変化などにより不定期に出されるので、各自の授業の直前に掲示板を見て確認をしてください。
3. 実技・実習等の服装はトレーニングウェア及び運動靴を使用する。眼鏡、時計、指輪など、破損しやすい物は、危険防止の見地からも、授業中できるだけ携帯しないこと。万一破損があっても保障できません。外傷などの身体的事故についての注意、万一の場合の処置については「実技・実習上の安全対策」の項を熟読してください。
4. 屋内(記念会館、小体育館、剣道場など)の授業では必ず館内シューズを使用すること。また、グラウンドでは担当教員が認めた運動靴を使用し、テニスコートではテニスシューズを使用すること。
5. 更衣場所については担当教員の指示に従うこと。
6. 授業に関する不明な点は、健康スポーツ教育センター事務室(11号館一階)、第II体育教員控え室(記念会館)、農学部健康スポーツ教育センター教員控え室(奈良キャンパス)に問い合わせてください。

5. 実技・実習上の安全対策

事故防止について

実技・実習中、避けることのできない不可効力的な事故もありうる。しかし多くの場合、もう少し注意しておけば、あるいはもう少し準備・配慮しておけばといったことがしばしば見受けられる。暴飲暴食、朝食を摂らない、睡眠不足、不規則不摂生の生活を送っているために、最悪のコンディションで実技・実習に参加し、大きな事故を起こし、自分だけでなく、他の受講生に対しても迷惑をかけることなど、厳に戒めるべきことである。これは、実技・実習の履修に際して、最も注意すべきことであり、リズムのある日常生活は、実技・実習で最優先されるべき参加態度といえるものである。実技・実習における安全管理は、日常の生活の自己管理から始まっていると考えて欲しい。このようなことを日常生活の中で自覚し、実技・実習の際に以下の事に注意してください。

1) 服装について

- (1) トレーニングウェアを着用すること。
- (2) 指定された靴を使用すること。
- (3) 時計、指輪等の装飾品を身に付けないこと。
- (4) 爪は切っておくこと。
- (5) 長い髪は適当に束ねること。

2) 用具について

- (1) 使用用具の取り扱い、担当教員の指示に従うこと。
- (2) 各種目の用具の特殊性を熟知し、慎重に取り扱うこと。

3) 活動中について

- (1) 担当教員の指導上の注意、助言を厳守すること。
- (2) 各種目のルール、マナーを厳守すること。
- (3) 感情的にならないこと。
- (4) 心身の不調をきたした場合、すぐに担当教員に申し出ること。

4) 事故の処置について

実技・実習中に万一外傷・その他、授業が継続できないような事故が発生した場合、以下のような要領で処置をします。

(1) 事故発生時

担当教員に申し出て指示を受けること。原則として次のように処置をします。

- a) 大学保険管理室（11月ホール3階）、または農学部医務室（まほろば館1階）で処置を受ける
- b) 学外の医療機関で治療した場合は、近畿大学学園学生健保共済会から医療費の給付を受けることができます。

この手続きは、担当教員が作成する「正課中・正課外事故証明書」を「医療費給付申請書」（入院外と入院の二種類がある）に添付して、学生部厚生課または農学部教務学生課に提出すること。

（詳細は、近畿大学学園学生健保共済会発行「WELLNESSハンドブック」を参照のこと）

6. 保健管理室について

保険管理室では、以下の業務を行っています。

自己の健康管理のためにも、一人でも多く利用されることをお勧めします。

- 1) 応急手当
- 2) 健康相談（本学医学部附属病院の医師が担当しています。）
- 3) 精神衛生相談（カウンセリング）
- 4) 健康診断証明書発行（詳しくは「保険管理室案内」を参照してください）

7. 「生涯スポーツ1・2」「健康とスポーツの科学」のガイドブックは記念会館で第一回目のガイダンスの時に配布します。

科目名：生涯スポーツ 1				
英文名：Lifelong Sports 1				
担当者：ガイドブック [*] に記載				
単 位：1単位	開講年次：1～4年次	開講期：	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

実習種目

バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球・硬式テニス・サッカー・フットサル・ソフトボール・ゴルフ・格技・ウォーキング・軽スポーツ（フライディングディスク・ゲートボール他）

生涯スポーツ1は、実技を中心とした実習科目です。フィットネス・チェックを受け、自己の体力を知り実践する中で、健康の維持・増進・体力・運動能力の向上とその意義を「基礎的な」視点で実習、習得します

■到達目標

健康の維持・増進・体力・運動能力の向上とその意義についての基礎的理解及び各種スポーツの基本的運動技術・技能・ルールの理解

■教科書

担当教員が授業中に指示します

■参考文献

担当教員が授業中に指示します。

■試験方法

随時授業中に行うが、最終日に総合テストを実施します。

■成績評価基準

身体的課題の達成度－身体活動量、技術、技能・戦術・戦略50%
 心理・社会的課題の達成度－努力・意欲、コミュニケーション、マナー・礼節50% なお、担当者により評価の基準が異なります

■授業評価実施方法

各担当者が授業時に指示します

■研究室・E-mailアドレス

健康スポーツ教育センター
 ihss@msa.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

専任教員はガイドブックにて明示・非常勤講師の先生方は授業終了後に相談すること

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス・第1回目の授業は記念会館へ集合し、配布されたガイドブックを参考に種目・担当者を決定しますが、生涯スポーツ1では半期間2種目を開講します。人数の多少により実施できない種目も起こりうるので、第1希望～第3希望の種目を考えておくこと。又、決定後履修用紙に必要事項を記入し、期限内に履修登録をしなければなりません。なお、生涯スポーツ2も同時に登録を行うので注意してください

第2回 フィットネス・チェック（形態測定、安静時心拍数、血圧、筋力）

第3回 フィットネス・チェック（筋持久力、柔軟性、敏捷性、全身持久力）

第4回 フィットネス・チェックの評価と各種スポーツの種目特性と、その健康・体力への期待される効果

第5回 生涯にわたる運動・スポーツの実施と健康寿命の延伸

第6回 各種スポーツの運動技能・技術の習得

第7回 各種スポーツのトレーニング方法の習得

第8回 各種スポーツのルールと審判法の習得

第9回 実技テスト

第10回 各種スポーツの種目特性とその健康・体力への期待される効果

第11回 生涯にわたる運動・スポーツの実施と健康寿命の延伸

第12回 各種スポーツの運動技能・技術の習得

第13回 各種スポーツのトレーニング方法の習得

第14回 各種スポーツのルールと審判法の習得

第15回 実技テスト

スポーツ実習Ⅰ

スポーツ実習Ⅱ

スポーツ実習Ⅲ

スポーツ実習Ⅳ

実習Ⅰ

実習Ⅱ

実習Ⅲ

実習Ⅳ

実習Ⅴ

実習Ⅵ

実習Ⅶ

実習Ⅷ

実習Ⅷ

実習Ⅸ

実習Ⅸ

実習Ⅹ

実習Ⅹ

実習Ⅺ

実習Ⅺ

実習Ⅻ

実習Ⅻ

実習Ⅼ

実習Ⅼ

実習Ⅽ

実習Ⅽ

実習Ⅽ

実習Ⅾ

実習Ⅾ

実習Ⅿ

実習Ⅿ

実習ⅰ

実習ⅰ

実習ⅱ

実習ⅱ

実習ⅲ

実習ⅲ

実習ⅳ

実習ⅳ

実習ⅴ

実習ⅴ

実習ⅵ

実習ⅵ

実習ⅶ

実習ⅶ

実習ⅶ

科目名：生涯スポーツ 2				
英文名：Lifelong Sports 2				
担当者：ガイドブック [*] に記載				
単 位：1単位	開講年次：1～4年次	開講期：	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

実習種目

バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球・硬式テニス・サッカー・フットサル・ソフトボール・ゴルフ・格技・軽スポーツ（フライングディスク・ゲートボール他）

フィットネスチェックを受け自己の体力を把握し、実践していく中で、健康の維持・増進・体力・運動能力の向上とその意義を「基本的な」視点で実習・習得します

■到達目標

健康や身体に関する深い知識の獲得及び各種スポーツの専門的な運動技術・技能の獲得

■教科書

担当教員が授業中に指示します

■参考文献

担当教員が授業中に指示します

■試験方法

担当者が随時授業中に行います

■成績評価基準

身体的運動課題の達成度－身体活動量、技術・技能、戦術・戦略50%

心理・社会的課題の達成度－努力・意欲、コミュニケーション、マナー・礼節50% なお、担当者により評価の基準が異なります

■授業評価実施方法

担当教員が授業中に指示します

■研究室・E-mailアドレス

健康スポーツ教育センター
ihss@msa.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

専任教員はガイドブックにて明示・非常勤講師の先生方は授業終了後に相談すること

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 生涯スポーツ2は半期間通して同一種目で行われます・生涯スポーツ1と比較し「応用的」視点で実施し健康や身体に関するより深い知識獲得及び各種スポーツに関する専門的な技術・技能の習得を目指します。（雨天時・グラウンド状態が悪い場合は場所の移動があるので掲示板の指示に従うこと）

フィットネスチェック（形態測定・安静時心拍数・血圧・筋力）が行われます

第2回 フィットネス・チェック（筋持久力、柔軟性、敏捷性、全身持久力）測定後次週からの実習種目・場所の確認が行われます

第3回 フィットネス・チェックの評価とそれに基づく運動プログラムの考案

第4回 各種スポーツの種目特性とその健康・体力への期待される効果

第5回 各種スポーツの種目特性とその心理的社会的効果

第6回 生涯にわたる運動・スポーツの実施と健康寿命の延伸

第7回 生涯にわたる運動・スポーツへの参加とQOL

第8回 各種スポーツの運動技能・技術の習得

第9回 各種スポーツの競技戦術・戦略の習得

第10回 各種スポーツのトレーニング方法の習得

第11回 各種スポーツのルールと審判法の習得

第12回 一流競技選手の体力・運動技能・戦術（VTR等使用）

第13回 運動・スポーツに発生しがちな事故と救急処置

第14回 生涯にわたる健康管理や、健康・体力の維持・増進・回復

第15回 実技テスト

学野朝基

2019年10月15日

2019年10月15日

2019年10月15日

2019年10月15日

このコースは、スポーツの楽しさや面白さを伝えるだけでなく、スポーツの歴史や文化、そしてスポーツの未来についても学びたいという思いから、本コースを開設しました。本コースでは、スポーツの楽しさや面白さを伝えるだけでなく、スポーツの歴史や文化、そしてスポーツの未来についても学びたいという思いから、本コースを開設しました。

2019年10月15日

2019年10月15日

2019年10月15日

2019年10月15日

2019年10月15日

このコースは、スポーツの楽しさや面白さを伝えるだけでなく、スポーツの歴史や文化、そしてスポーツの未来についても学びたいという思いから、本コースを開設しました。本コースでは、スポーツの楽しさや面白さを伝えるだけでなく、スポーツの歴史や文化、そしてスポーツの未来についても学びたいという思いから、本コースを開設しました。

2019年10月15日

2019年10月15日

このコースは、スポーツの楽しさや面白さを伝えるだけでなく、スポーツの歴史や文化、そしてスポーツの未来についても学びたいという思いから、本コースを開設しました。本コースでは、スポーツの楽しさや面白さを伝えるだけでなく、スポーツの歴史や文化、そしてスポーツの未来についても学びたいという思いから、本コースを開設しました。

2019年10月15日

2019年10月15日

2019年10月15日

2019年10月15日

2019年10月15日

2019年10月15日

2019年10月15日

2019年10月15日

2019年10月15日

このコースは、スポーツの楽しさや面白さを伝えるだけでなく、スポーツの歴史や文化、そしてスポーツの未来についても学びたいという思いから、本コースを開設しました。本コースでは、スポーツの楽しさや面白さを伝えるだけでなく、スポーツの歴史や文化、そしてスポーツの未来についても学びたいという思いから、本コースを開設しました。

2019年10月15日

このコースは、スポーツの楽しさや面白さを伝えるだけでなく、スポーツの歴史や文化、そしてスポーツの未来についても学びたいという思いから、本コースを開設しました。本コースでは、スポーツの楽しさや面白さを伝えるだけでなく、スポーツの歴史や文化、そしてスポーツの未来についても学びたいという思いから、本コースを開設しました。

2019年10月15日

このコースは、スポーツの楽しさや面白さを伝えるだけでなく、スポーツの歴史や文化、そしてスポーツの未来についても学びたいという思いから、本コースを開設しました。本コースでは、スポーツの楽しさや面白さを伝えるだけでなく、スポーツの歴史や文化、そしてスポーツの未来についても学びたいという思いから、本コースを開設しました。

2019年10月15日

このコースは、スポーツの楽しさや面白さを伝えるだけでなく、スポーツの歴史や文化、そしてスポーツの未来についても学びたいという思いから、本コースを開設しました。本コースでは、スポーツの楽しさや面白さを伝えるだけでなく、スポーツの歴史や文化、そしてスポーツの未来についても学びたいという思いから、本コースを開設しました。

2019年10月15日

科目名： 基礎数学				
英文名： Fundamental Mathematics				
担当者： <small>キグチ マサヨシ</small> 木口 勝義				
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

高校で学んだ数学が自在に使えるよう、その理解を深めます。
 高校数学の教科書には社会人が論理的な思考をするための貴重な知識が明確な日本語で論理的に記述されています。しかし、高校生にとっては前面に受験が立ち塞がり、数学の核心部の理解がマークシート方式の得点獲得技術と相容れないという現実により、重要な部分の理解がなおざりにされがちです。この講義では、論理的な思考とその日本語による表現という、受験体制のなかでなおざりにされがちな部分に焦点をあわせます。

■到達目標

高校数学を自由に使って考えることができる。

■教科書

特に指定しません。

■参考文献

高校の教科書、数学I, 数学II, 数学III, 数学A, 数学B, 数学Cを手元に置いてください。私が参照している教科書は、山本芳彦編、啓林館版、藤田宏・前原昭二編、東京書籍版、永尾汎他編、数研出版株式会社版です。

■試験方法

定期試験（記述式）

解答が明確で論理的な日本語で記述されているかどうかを評価します。最終結果が正しくても、どこから導かれたかが不明な答案は評価しません。

■成績評価基準

小テスト・レポート 30%

定期試験 70%

■研究室・E-mailアドレス

e-mail: kiguchi@rist.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜日3限 15号館3階木口研究室

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 微分の意味・積分の意味

無限小に位数が付けられるという事実はこの300年間の数学の最大の発見です。これをうわまわる発見は古代における数の発見くらいしかありません。無限小に順位が付けられるため、十分に小さい領域では一次関数（接線）のみを調べればよいこととなります。この事実がどう応用されるかを学びます。

第2回 微分計算の技術

よい数学はその意味を理解していなくても機械的に計算すればその意味を体現してくれるという利点があります。この意味で計算ができることは重要です。そこで、学生が一番躓きやすい合成関数の微分を中心に計算技術を復習します。

第3回 積分計算の技術

置換積分、部分積分を中心に、積分の計算技術を復習します。

第4回 スケール不変性と対数

大きさに比例した変化を考えると自然と対数概念に導かれます。したがって対数はスケールによらない法則を考察するとき威力を発揮します。基本法則にはスケールがありませんから、科学的に物事を考えるときには、対数目盛りのグラフを書いて考えることが必須となります。

第5回 弧度法と三角関数

弧度は円周の周長さと半径の比で定義され、したがって単位がない量です。この弧度を使うと、角度とはなんの関係もない抽象的な量に三角関数が使えるようになります。

第6回 微分方程式

ここの単元は高校数学の範囲外ですが、微分・積分を使ってものごとを記述しようとする、微分方程式は自然に現れてきます。

それをどう扱えばよいかを学びます。

第7回 科学的推論と確率

客観的ベイズ統計の立場から確率を論じます。この立場では、確率はよくわかっていない命題に対する厳密な推論規則になります。

第8回 ベイズ確率の計算

高校の教科書にしたがって、確率にたいする積の法則、和の法則、無差別の法則の使い方を復習します。

第9回 ベルヌーイの壺

確率の理解をさらに深めます。

第10回 整数の割り算

ユークリッドの互除法を使って、整数の整数による割り算の余りの性質を調べます。

第11回 多項式の割り算

多項式は整数とまったく同じ性質を持っています。整数の割り算と同じように多項式の割り算の余りによって新しい数が定義できます。複素数もこのようにして定義されます。このようにして現れる数の性質を調べます。

第12回 複素数

複素数は現代の科学で必要不可欠な数です。たとえば、基本的な物理法則である量子法則は複素数の数としての構造を使わなければ表現できません。この複素数の構造について復習します。

第13回 対称性の破れと高次方程式の解

対称性の破れと高次方程式の解

解と係数の関係は解の置換に対して不変（対称）です。解を求めることはこの対称性を破ることです。三次方程式、四次方程式に対して、どのように対称性を破ることができるかを調べます。

第14回 空間のベクトル

微分は接線であり、接平面です。微分を自在に使うにはベクトルを自在に使う力が必要です。

第15回 定期試験

科目名： 自然環境論			
英文名： Natural Environment			
担当者： <small>カワサキ ナオヒト</small> 川崎 直人			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	区 分： 必修選択の別： 選択科目

■授業概要

ヒトは、火を発見して以来、自然にある様々な物質を生活の中に取り入れ、自然をヒトにとって都合のよい環境に変化させ、豊かな社会、幸福な生活を手に入れてきた。一方、それとは引き替えに予想外の環境悪化、経済の不均衡、倫理の荒廃などの社会問題を抱え込んでしまった。ヒトの生存は他の生命体の存在に依存しており、きれいな水、空気、土壌およびエネルギーをも必要としている。身近な環境を維持することは、ヒトの生存に不可欠にもかかわらず、今日、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、熱帯雨林の減少、砂漠化、野生生物の種の減少、海洋汚染、有害廃棄物の越境移動、発展途上国の公害問題などの地球環境問題も深刻な状況になってきている。

環境を正しく認識するために、日本および地球規模の環境問題の現状を概説し、今世紀における環境の考え方、環境倫理などについて学習する。

■教科書

「環境科学要論 現状そして未来を考える」 世良 力 著（東京化学同人）

■参考文献

「やさしい環境科学」 保田 仁資 著（化学同人）

「生態系と地球環境のしくみ」 大石 正道 著（日本実業出版社）

■関連科目

公衆衛生学1、公衆衛生学2

■試験方法

臨時試験（11月） 定期試験（1月下旬）

各試験ともに論述形式・客観形式

■成績評価基準

定期試験（40％）

臨時試験（40％）

出席状況（20％）

■授業評価実施方法

実施時期（授業回数 第13回時）

所要時間（15分程度）

■研究室・E-mailアドレス

e-mail: kawasaki@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

随時

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 講義に関する全般的解説

<項目・内容>環境科学の目的と環境問題

環境科学の目的を明らかにするとともに3E（Economy, Energy, Environment）の調和の重要性を理解する。また、人間活動による環境破壊問題の総合的最適化を目指し努力することの必要性について考究する。さらに、環境問題への取り組み、解決のために必要な原因の究明、問題の拡散課程などを把握し、根治療法的対策の重要性を修得する。

<到達目標>環境科学の目的と環境問題への取り組みおよび原因を理解する。

第2回 人口と食糧問題

世界的な問題としては、人口爆発、経済格差の拡大、宗教紛争などのほか、食糧不足、資源の枯渇が挙げられる。特に、食糧不足および資源の枯渇問題は、人口問題と関連が大きく、さらに人口問題は食糧問題に起因する。ここでは、世界の人口の現状、世界の食糧問題として農地の増加状態、農地の生産力、農業技術、食糧生産の地域格差、日本の人口と食糧事情などについて講義する。

<到達目標>世界人口と食糧問題との関わりを理解する。

第3回 資源、エネルギーと環境

<項目・内容>ヒトの生活レベルを向上するには、生活資材の増産、雇用の確保なども必要であり、このためには産業

の振興、経済の発展が不可決である。しかし、エネルギー消費、特に化石燃料の消費の増加は、資源の枯渇問題のみではなく、地域の大气汚染、地球温暖化などの環境問題とも密接に関わっている。ここでは、エネルギーの不足問題、世界または日本のエネルギーと環境との関係などについて講義する。

<到達目標>エネルギー需要および生産と環境との関わりを理解する。

第4回 自然の浄化作用と環境汚染物質

<項目・内容>地球上にある物質の要素、すなわち炭素、窒素、酸素などの元素は、物質不滅の法則にしたがって循環している。元素の量は一定であるが、それらは化合物、生物などとして形を変え、移り変わっている。人間活動の結果、発生する廃棄物や環境汚染物質も自然の分解・浄化を経て大気、水、土壌圏内を循環している。ここでは、環境汚染物質および人工有害物質の自然浄化作用について講義する。

<到達目標>人工有害物質と環境汚染物質の自然浄化作用を理解する。

第5回 日本の公害とその防止

<項目・内容>日本では1950年代から急速な経済発展を遂げ、その引き替えに全国各地で大規模な公害問題、例えば、水俣病、イタイイタイ病、四日市喘息、カネミ油症、瀬戸内重油流出事件、ヘドロ公害などが発生した。ここでは、日本の公害、環境関連事故の歴史とその発生原因、公害防止技術、公害防止の四原則（原因・発生源の抑制、発生量の抑制、原因物質の拡散防止、汚染物質の無害化）について講義する。

<到達目標>日本の過去における公害とその防止策を理解する。

第6回 大気環境

産業および文明の発展に伴い工場、発電所、自動車などから種々の大気汚染物質が排出されている。大気環境基準は、「人間の<項目・内容>健康を保護するうえで維持されることが望ましい基準」として法的規制されている。ここでは、日本において環境基準が定められている8種類のうち二酸化窒素、二酸化硫黄、一酸化炭素、光化学オキシダント、浮遊粒子状物質の5種について、発生源、生態系への影響、測定法、現状などについて講義する。

<到達目標>大気汚染によるヒトへの影響とその防止策を理解する。

第7回 臨時試験

第1回から第6回までの講義内容について記述形式で臨時試験を行う。

第8回 水の環境

<項目・内容>環境水中に汚濁物質が流入すると、環境圏内で複雑に絡み合いながら、ヒトを含めて多くの生物に大きな影響を及ぼすため、水の環境の保全には万全の努力を払わなければならない。ここでは、水質汚濁、水質汚濁物質と健康障害、水の環境基準、水質汚濁の概況（河川、湖沼、閉鎖性水域、海水、地下水の汚染）、水質浄化対策（水質汚濁物質の排出削減、排水処理法、下水処理、終末処理）などについて講義する。

<到達目標>水質汚濁によるヒトへの影響とその防止策を理解する。

第9回 土壌環境

<項目・内容>大地の状況に関する環境変化には、自然現象およびヒトの開発行為を原因とするものがある。土壌の質的環境に関しては人為的要因による農地の地力減退、土壌汚染などがある。大地は、大気圏、水圏と相互に関連して存在しているため、土壌の環境は大気汚染や水質汚濁とも関係が深い。ここでは、土壌生成と喪失、土壌汚染、土壌汚染防止策、地盤沈下、地盤の液状化現象などについて講義する。

<到達目標>土壌汚染によるヒトへの影響とその防止策を理解する。

第10回 廃棄物とリサイクル

<項目・内容>ヒトの過剰な活動の結果、豊かな物質文明が実現できたが、その反面、大量に排出される廃棄物の山がヒトの社会活動の支障となり始めている。明るい21世紀にするためには、大量生産、大量消費、大量廃棄の消費型社会より脱却することが必要である。ここでは、廃棄物の現状と分類、ゴミの収集と焼却処理、最終処分場、廃棄物のリサイクルなどについて講義する。

<到達目標>消費型社会における問題点と循環型社会の構築を理解する。

第11回 地球温暖化

<項目・内容>地球温暖化問題は、急速に問題として取上げられるようになってきた。その主原因は、二酸化炭素の増加であることが指摘されているが、その他の物質による影響も大きい。ここでは、地球のエネルギーバランスと気温の変化、温室効果ガスの種類とその影響、炭素循環、大気中の二酸化炭素濃度の変化、世界の二酸化炭素の排出量、地球温暖化の予測、二酸化炭素の削減対策とその効果などについて講義する。

<到達目標>地球温暖化の原因物質およびその削減対策を理解する。

第12回 酸性雨

<項目・内容>酸性雨は、1950年代北欧三国にある湖沼の酸性化と生態系への影響として問題となり、その後、北米、東南アジア、中国など世界中で問題となっている。その原因は、産業活動、排ガス中の酸性物質であり、またそれらが国境を越えて周辺諸国にも拡散することでも問題になっている。ここでは、酸性雨の定義と発生機構、酸性雨による被害、

世界および日本における酸性雨状況、酸性雨防止対策などについて講義する。
<到達目標>酸性雨の原因およびその防止策を理解する。

第13回 オゾン層の破壊

<項目・内容>オゾン層破壊は、1974年にローランドとモリーナが、フロンがオゾン層を破壊するという仮説を発表したことで明らかになった。オゾンホールとは、上空におけるオゾン濃度が急激に減少することをいい、南極や北極上空で確認されている。オゾンホールの出現により太陽光に含まれる紫外線が地表へ到達し生態系へ影響する。ここでは、オゾン層と紫外線、オゾン層破壊物質、オゾン層保護の動き、オゾン層破壊防止対策などについて講義する。
<到達目標>オゾン層破壊の原因およびその防止策を理解する。

第14回 熱帯雨林の減少

<項目・内容>世界の森林は、生物の生存や気候の安定化などに大きな役割を担っている。しかし、ヒトは過剰な活動により森林をつぎつぎと伐採し、地球環境全体に大きな損害を与えている。熱帯雨林の保護は、地球温暖化防止および生物種の保護などのために重要である。ここでは、熱帯雨林の効用、世界の熱帯雨林の破壊状況とその原因、木材資源の利用状況、熱帯雨林の保護対策などについて講義する。
<到達目標>熱帯雨林の減少の原因およびその防止策を理解する。

第15回 定期試験

第7回から第14回までの講義内容について記述形式で臨時試験を行う。

科目名： 基礎化学				
英文名： Basic Chemistry				
担当者： ^{ミキヤスヨシ} 三木 康義				
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

病気の治療に使用される医薬品の大部分は有機化合物であり、医薬品を知るためには有機化学を十分に習得する必要があります。本授業では4年間に学ぶ教科を理解する上の基礎のみだけでなく、医薬品を理解するための有機化学を修得する上で必要な内容です。それゆえ、化学の基本から有機化学の基礎までを説明することにより、真の意味での医薬品に関する基礎力をつけることを目的とします。

■到達目標

化学の基本から基礎的な有機化学の知識および考え方を習得する。

■教科書

有機化学の基礎づくり 反応の見方・考え方
G. M. Hornby, J. M. Peach著 熊懷綾丸、安藤章訳 化学同人

■参考文献

基礎化学 化学教科書研究会編 化学同人
ビギナーズ有機化学 川端 潤著 化学同人
ポイント有機化学演習 池田正澄著 廣川書店
有機化学基礎の基礎 100のコンセプト 山本嘉則編著 化学同人

■関連科目

有機化学および医薬品化学

■試験方法

定期試験の7月に筆記試験を行う。

■成績評価基準

定期試験に小試験および出席などを加味して総合的に評価する。

■研究室・E-mailアドレス

学内インターフォン：3809
e-mail アドレス：y_miki@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月一金（15時-18時）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 元素と原子について

元素と単体・化合物純物質と混合物、元素と単体
原子の構造：原子、原子核と電子、原子番号と質量数、同位体
原子の配置とイオン：電子核、電子配置、価電子、希ガスの電子配置、イオン
元素の性質と周期表：元素の周期律、周期表、周期と族

第2回 原子の化学結合と軌道について

化学結合：イオン結合、共有結合、不対電子、配位結合、ルイスの原子価論
量子化学：波動方程式と波動関数
軌道と量子数：シュレーディンガーの波動方程式、主量子数、方位量子数、磁気量子数、
スピン量子数パウリ（Pauli）の排他律とフント（Hund）の規則

第3回 原子の種々の軌道と結合について

分子—その働きを決めるさまざまな因子（1）
s原子軌道とp原子軌道
σ結合とπ結合
共有結合と分子軌道：結合性軌道と反結合性軌道

第4回 混成軌道と結合の形成

分子—その働きを決めるさまざまな因子 (2)
共有結合と混成軌道：sp³混成軌道、sp²混成軌道、sp混成軌道
結合の形成：単結合および多重結合とσ結合およびπ結合との関係

第5回 原子の結合とその表記法

分子—その働きを決めるさまざまな因子 (3)
結合の分極：双極子、誘起効果 二原子分子と双極子モーメント
分子構造の表記：構造式、官能基、電子(点)式
結合の強さと長さ：結合エネルギーと結合距離

第6回 分子の立体化学と分子間に働く相互作用

分子—その働きを決めるさまざまな因子 (4)
立体化学：結合角と分子の形状および異性について
分子間引力：双極子引力、van der Waals力および水素結合

第7回 反応の型と反応機構の表示について

反応機構の担い手 電子とエネルギー
反応の型：置換反応、付加反応、脱離反応、
ヘテロリティックおよびホモリティックな結合の開裂
求核試薬、求電子試薬、ラジカル
反応機構を表示する方法：
電子(点)式と曲がった矢印を使って反応機構を表示する方法

第8回 酸と塩基の定義について

酸と塩基
ブレンステッド—ローリーの酸塩基の概念
ルイスの酸塩基の考え方
脱離基や求核試薬としての塩基の反応性

第9回 イオン反応における求核試薬が関係する反応 (1)

イオン反応 (その1) 求核試薬が関係する反応 (1)
求核試薬の構造について、求核試薬と塩基との関係
求核試薬との反応における実際の例 水酸化物イオンおよびアミン

第10回 求核試薬が関係する反応の様子について (1)

イオン反応 (その1) 求核試薬が関係する反応 (2)
脱離基をかえる：アルコールの置換反応
二段階求核置換反応—カルボカチオン中間体
求核置換反応と脱離反応との競争

第11回 アルデヒドおよびケトンと求核試薬との反応について

イオン反応 (その1) 求核試薬が関係する反応 (3)
求核試薬とアルデヒドおよびケトンとの反応：
求核付加反応について
正四面体中間体、水素化物イオン供与体 (NaBH₄およびLiAlH₄)
求核的付加—脱離反応について
ヒドラジン、ヒドロキシルアミン

第12回 カルボン酸誘導体と求核試薬との反応について (1)

イオン反応 (その1) 求核試薬が関係する反応 (4)
カルボン酸誘導体の反応性の違いにおける効果について
加水分解反応とエステル化反応
エステルのリチウムテトラヒドريدアルミナート (LiAlH₄) 還元

第13回 カルボン酸誘導体と求核試薬との反応について (2)

イオン反応 (その1) 求核試薬が関係する反応 (5)
アミド、塩化アシル、酸無水物、カルボン酸の反応性の違い
いろいろな種類のハロゲン化物の求核試薬に対する反応性の比較

授業評価 (15分程度) を行う。

第14回 求電子試薬が関係する反応

イオン反応 (その1) 求電子試薬が関係する反応

求電子試薬の構造について

求電子試薬のアルケン類の二重結合 (sp²混成軌道) への付加

ハロゲン化水素の付加

付加反応における反応の概念および立体効果と誘起効果

アルケンへのハロゲンの付加

第15回 定期試験

筆記試験を行う。

科目名： 基礎生物学				
英文名： Basic Biology				
担当者： <small>タケチ マサユキ</small> 武智 昌幸				
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

この講義は細胞の構造と機能を中心とした、生物学の基礎的な話を中心となるが、毎回の授業内容の復習を欠かすと授業についてこられなくなるだろう。そのために毎回の授業に関連した疑問点や興味点をインターネットなどで調べて、そのレポートを次回の授業時に提出してください。また、講義に使用する教科書は図や写真が多く、文章は簡潔で読みやすいので復習時に読み直してください。自主的な勉学態度を期待します。特に、要点（毎講義に数点）、キーワード（毎講義に1項目）は試験に出題する予定なので、ただ単に暗記するのではなく、教科書を参照しながら理解するような学習態度を期待します。わからない所はどんどん質問してください。メールでも結構です。

なお、このシラバスにリンクしている「武智のページ」を参照してください。「武智のページ」には要点やキーワード、特に授業で使う図などがリンクしていますので、予習や復習に利用してください。

■到達目標

生物を構成している細胞について理解してもらうことを目標にする。そのために細胞の構造と機能、細胞を構成する成分、細胞分裂、酵素、呼吸、DNAの複製、転写、翻訳などの機構などを理解してください。

■教科書

フォトサイエンス生物図録 鈴木孝仁 監修（数研出版）最新版

■参考文献

ビジュアルワイド図説生物 水野丈夫 監修（東京書籍）最新版

生物学のすすめ 本多忠紀 著（化学同人）最新版

生化学 鈴木紘一 編（東京化学同人）最新版

■関連科目

生物学演習

生物学

基礎生化学

■試験方法

(種類) 中間試験と定期試験

(方式) 記述式とマーク式

■成績評価基準

中間試験 (40%)

定期試験 (40%)

レポート (20%)

■授業評価実施方法

■研究室・E-mailアドレス

細胞生物学第二研究室

takechi@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

いつでも結構です。遠慮せずに質問に来てください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 細胞の構造と働き

生物の基本単位である細胞の構造とはたらきについて概観する。特に原核細胞と真核細胞ならびに動物細胞と植物細胞との違いについて理解してもらいたい。キーワードは「細胞膜」です。

第2回 細胞小器官

真核細胞の細胞小器官である核、ミトコンドリア、ゴルジ体、小胞体、リソソームなどについて、その構造と働きについて紹介する。生物の基本である細胞の機能を理解するために重要ですので、よく勉強してください。キーワードは「細胞骨格」です。

第3回 糖質と脂質

糖はエネルギー源としてだけでなく、細胞表面の糖鎖は細胞の顔としても重要なので、その基本となる単糖類の立体化

学を中心に講義を行う。キーワードは「グリコーゲン」です。また、脂質は膜成分として重要なリン脂質と糖脂質を中心に話をします。

第4回 タンパク質と核酸

タンパク質を構成する20種類のアミノ酸の性質と構造を覚える。二次構造の α ヘリックスや β シート、三次構造や四次構造を紹介する。核酸の基本骨格を理解し、構成成分である塩基と糖の構造を覚える。DNAとRNAとの構造の違いなどを説明できるようにしてください。キーワードは「染色体の微細構造」です。

第5回 細胞における物質輸送

細胞膜の選択的透過性は生命活動の維持のために重要なことですが、その基本となる能動輸送のしくみについて理解してください。また、分泌タンパクや膜タンパクの細胞内輸送についても簡単に紹介します。細胞膜の動的な面を理解してください。キーワードは「能動輸送」です。

第6回 細胞分裂

細胞分裂は細胞の分化増殖や生殖にとって重要なので、よく勉強してください。動物細胞と植物細胞の分裂の違い、体細胞分裂と減数分裂との違いなどに注意してください。特に分裂過程における染色体の動きを中心によく理解してください。キーワードは「細胞分裂」です。

第7回 中間試験

1回から6回までの6つのキーワードより5問の図説問題

1回から6回までの要点の正誤問題40問

1回から6回までのレポート内容より自作1問

第8回 酵素

酵素の基質特異性、酵素活性の調節など酵素反応が生命活動にとって如何に重要であるかを理解してください。キーワードは「アロステリック効果」です。ヒトの消化酵素などを例にして、酵素の種類と働きをまとめてください。

第9回 呼吸

外呼吸については特に血液による酸素と二酸化炭素の運搬機構をよく理解してください。また、細胞内呼吸は解糖系、クエン酸回路、電子伝達系の3つに大別されます。これらの反応系の特徴をよく理解してください。キーワードは「電子伝達系におけるATP産生機構」です。

第10回 DNAの複製

DNAの二重らせん構造において二本鎖は互いに逆平行で相補的塩基対を形成していることをしっかりと理解してください。キーワードは「複製」です。生命科学の基本ですので、頑張ってください。

第11回 転写

DNAからRNAへの転写過程の機構を理解してください。特に転写開始の機構、転写後の修飾の過程などをよく理解してください。キーワードは「転写」です。生命科学の基本ですので、頑張ってください。

第12回 翻訳

mRNAの情報から如何にしてタンパク質が合成されていくか、その機構を理解してください。特に、mRNA、rRNA、tRNAの役割などについて勉強してください。キーワードは「翻訳」です。生命科学の基本ですので、頑張ってください。

第13回 形質発現の調節

分化や増殖の調節は生命活動に重要で、ポストゲノム最大の課題であり、今後ますます研究の進展が期待される分野です。そこで階層的遺伝子発現機構について、特に転写調節を中心に解説します。キーワードは「転写調節」です。

第14回 遺伝子工学の基礎

最近の分子生物学発展の原動力となったバイオテクノロジーの初歩を解説します。10～13回までの話が基本となっているので、よく復習してから受講してください。遺伝子導入、PCR法、塩基配列決定法などについて簡単に解説します。キーワードは「PCR法」です。

第15回 定期試験

8回から14回までの7つのキーワードより5問の図説問題

8回から14回までの要点の正誤問題40問

8回から14回までのレポート内容より自作1問

科目名： 基礎物理学				
英文名： Basic Physics				
担当者： 伊藤 哲夫				
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

物理は化学、生物学、地学などと並べられて、理科の一部として取り扱われている。しかし、化学も生物学も地学もそこに出てくる問題をどんどん突き詰めていくと、物理になってしまう。これは、物理が「自然界の森羅万象の仕組み」を解き明かす科学だからです。

つまり、世の中の現象を「なぜだろう」、「一般的に説明するのにどうしたらよいのだろう」と自然現象を突き詰めていくのが物理です。現象を物理的に考えると、日頃不思議に思っていた出来事がすっきりと説明できるところに物理のおもしろさがあります。

薬学部の学生は、高校時に物理を選択した学生が非常に少ないことを鑑み、授業は簡単な例題や日頃経験する現象を取り上げ、高校の物理ⅠB・Ⅱ程度の内容をできるだけ簡単に説明し、物理に興味を持ってもらう事を主として進めたいと考えている。

基礎物理学では、「運動と力」「エネルギー」「波動」について学習し、自然現象の見方を学んでいく。

■到達目標

薬学を学ぶ諸君が常に起こりうる現象を科学的なセンスで説明し、理解できる人に成長する。

■教科書

- ・理解しやすい「物理ⅠB・Ⅱ」 近角聰信 編 (文英堂)
プリントも用いる予定。

■参考文献

- ・「基礎物理学」 原 康夫 著 (学術図書出版社)
- ・チャート式「新物理ⅠB・Ⅱ」 力武常次 著 (数研出版)
- ・図解雑学「物理のしくみ」 井田屋文夫 著 (ナツメ社)

■関連科目

- ・物理学、数学

■試験方法

- (種類) 中間試験、定期試験
- (方式) 記述式またはレポート式

■成績評価基準

- 中間試験 (45%) 定期試験 (45%)
- 出席状況 (10%)
- レポート評価 (基準点に満たない場合対象とする)

■授業評価実施方法

- ・実施時期 (中間試験前後) 所要時間 (約20分)

■研究室・E-mailアドレス

- 原研 (放射線安全工学)
- E-mail (tetsito@msa.kindai.ac.jp)

■オフィスアワー

- ・月、水、金曜日午後
- ・22号館原子力研究所管理棟2階 内線4423

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 物理を学ぶにあたって

簡単な物理史の解説
生活の中の物理学
授業概要の説明

<到達目標>物理に興味を持つ。

第2回 運動と力

運動の表し方

- ・直線運動の速度・加速度
- ・曲線運動の速度・加速度

<到達目標>速度・加速度を学び、ベクトルとしての理解を取得する。

第3回 量力による運動

- ・重力による鉛直方向の運動
- ・放物運動

<到達目標>重力による鉛直方向の運動を確実に理解し、放物運動を学ぶ。

第4回 力と運動

- ・力・力のつりあい
- ・ニュートンの運動の3法則
- ・いろいろな力
- ・運動方程式の応用
- ・慣性力

<到達目標>ニュートンの運動の3法則をしっかり学ぶ。

第5回 円運動・万有引力

- 円運動
 - ・等速円運動
 - ・遠心力
- 万有引力
 - ・万有引力の法則
 - ・人工天体の運動

<到達目標>遠心力、ケプラーの法則、万有引力の法則を理解する。

第6回 剛体のつりあい・運動量

- 剛体のつりあい
 - ・剛体に働く力
 - ・剛体に働く力のつりあい
- 運動量
 - ・運動量と力積

<到達目標>力の合成とつりあいについて学ぶ。

第7回 運動量

- ・運動量保存の法則
- ・反発係数

<到達目標>運動方程式と関連の深い運動量や力積について学び、運動量保存の法則を理解する。

第8回 中間試験

第9回 日本と世界のエネルギーの現状

OHPを用い、私たちが住む地球の総合的エネルギー状況を考える。(講演)

<到達目標>エネルギーの大切さ、エネルギー資源の現状について総合的な知見を得る。

第10回 エネルギー

- 仕事と力学的エネルギー
 - ・仕事
 - ・運動エネルギーと位置エネルギー
 - ・力学的エネルギー

<到達目標>仕事の定義を学び、力学的エネルギー保存の法則を学習する。

第11回 熱とエネルギー

- ・熱と温度

- ・気体の法則
- ・気体の内部エネルギー
- ・エネルギーの変換と保存

<到達目標>熱と温度の関係や熱量保存の法則を理解し、ボイル・シャルルの法則を気体の内部エネルギーへと発展させ、熱力学の法則や熱機関を学習する。

第12回 波動

- ・波の伝わり方
- ・正弦波
- ・横波と縦波

<到達目標>波の伝搬現象を学び、波が時間と共に変化していく波動を理解する。

第13回 波の性質

- ・重ね合わせの原理と波の干渉
- ・波の反射・屈折・回折

<到達目標>波の重ね合わせ原理を学び、干渉現象や定常波を理解する。反射・屈折・回折をホイヘンスの原理から理解する。

第14回 音波

- ・音の伝わり方
- ・発音体の振動
- ・ドップラー効果

<到達目標>縦波である音について学び、発音体の振動やドップラー効果を理解する。

第15回 定期試験

科目名： 情報科学入門				
英文名： Introduction to Drug Information				
担当者： <small>カケヒ カズアキ ムラカミ エツコ</small> 掛樋 一晃・村上 悦子				
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

昨今のインターネットの発達は目覚ましく、誰もがコンピュータをツール（道具）として使用する必要性が高まりつつある。薬学の領域においても、薬剤師として調剤、処方鑑査などの業務は当然であるが、患者に的確な服薬指導を行うためのツールとしてコンピュータは不可欠である。また、医師あるいは看護婦などの医療関係者に的確な情報を提供するために、文書作成、データベース検索なども薬剤師として必須の技術となっている。本講義では実際にコンピュータを使用しながら、パソコンの基本操作を修得し、さらに文書作成・表計算・プレゼンテーションなどの基本的なアプリケーションソフトについてその操作法を修得する。また、e-mail・インターネットの活用についても学ぶ。

■教科書

情報処理リテラシー教育テキスト（大学堂書店にて販売）

■参考文献

「薬学系のための情報リテラシー」佐藤憲一、川上順子著（共立出版）
「インターネットと情報倫理」社団法人私立大学情報教育協会編

■関連科目

医薬品情報科学1、医薬品情報科学2、情報科学実習、医薬品情報科学実習、医療薬学実習、病院実習

■試験方法

試験は実施しないが、課題を各人に課し自由時間などを利用して課題レポートを作成して提出する。

■成績評価基準

出席（最も重視する）及び課題レポートにより評価する

■研究室・E-mailアドレス

医薬品情報学研究室

掛樋一晃：k_kakehi@phar.kindai.ac.jp

コンピュータ室

村上悦子：murakami@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

e-mailによる質問を歓迎する。k_kakehi@phar.kindai.ac.jp：

内線：3822（受付曜日・時間：随時）：直接面談 薬学部・医薬品情報学研究室（3階、東端）：受付曜日・時間：随時

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 インターネットと情報倫理

「情報倫理」とは、「情報社会において、我々が社会生活を営む上で、他人の権利との衝突を避けるべく、各個人が最低限守るべきルールである」と定義できる。本講では情報倫理について、インターネットとの関連も踏まえつつ、具体的な事例を元に最低限のルールを解説する。本講で述べる事柄は各種の情報を取り扱う上で最も基本的なものであり、その概要について十分心得なければならない。

第2回 パソコン初歩、Windows

講義で使用するパソコンの概要

パソコンの起動と終了、基本的操作

Windowsの概要

第3回 文書作成（1）

① Wordの概要

② 新しい文書の作成（文字入力、変換）

③ ファイル保存

第4回 タッチタイピング（ブラインドタッチ）技術の修得

パソコンに習熟する第1歩は、キーボード入力に慣れることである。キーボードを見なくても、文字入力できるようにタッチタイピングを是非修得すること。

第5回 文書作成 (2)

- ① 文書作成
- ② 文書編集 (文字揃え、文字修飾)
- ③ 文書の印刷 (プリンター設定、文書書式設定)
- ④ ファイルの保存

第6回 文書作成 (3)

- ① 表の作成
 - ② 文書への表の挿入
 - ③ 文書作成ドリル
- 課題として2, 3種類の文書を作成する。

第7回 文書作成 (4)

課題として2, 3種類の文書を作成する。

第8回 Microsoft Excel基礎 (表計算の基礎)

- ① Excel2000概要
- ② 表計算機能 (関数、表編集)

第9回 表計算応用

- ① ブック機能、セルの参照、条件判断、該当データ検索
- ② ワークシートの連携
- ③ グラフ作成
- ④ 印刷

第10回 表計算課題学習

表計算、グラフ作成についてExcelを用いていくつかの課題をレポートとして提出する。

第11回 プレゼンテーション (1)

自分の意見や調査したさまざまな情報などを、相手に的確に伝えるプレゼンテーション技術の習得は、薬剤師として患者や医師または看護婦などに情報を提供するために重要である。

- ① PowerPoint2000基礎 (プレゼンテーション概要)
- ② アウトラインの概念
- ③ プレゼンテーション作成

第12回 プレゼンテーション (2)

- ① 表およびワークシートの挿入
- ② グラフの挿入
- ③ グラフィック (図) の挿入
- ④ スライドショー、ノートブック、ハンドアウト

第13回 プレゼンテーション (3)

最終課題

将来薬剤師として医療の場でどのような形で貢献していきたいかという諸君の主張を、Word2000文書としてA4版用紙 (3枚以内) にまとめて提出する。レポートには少なくとも図および表を各1つずつ含めること。

第14回 プレゼンテーション (4)

最終課題作成予備時間

第15回 電子メール

- ① 電子メールのエチケット
- ② 電子メールの送信と受信
- ③ 電子メールの返信
- ④ 添付文書付きメール送信

科目名：化学演習			
英文名：Exercises of Chemistry			
担当者： <small>ムラオカ オサム スズキ シゲオ タナベ ゲンゾウ タガ アツシ</small> 村岡 修・鈴木 茂生・田邊 元三・多賀 淳			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	区 分： 必修選択の別：選択科目

■授業概要

「化学」に関しては、既に高校までに多くの事項を学習しているが、薬学で専門教科として学ぶ有機化学、物理化学あるいは分析化学を習得するためには、今までに学習した事柄を十分に理解することは勿論のこと、自在に活用できるレベルまで知識を深めておく必要がある。

本演習では、「化学」全般の内容の中から、特に重要でかつ学生にとっては理解が難しいと思われる項目をいくつか選び、知識の整理を目的とした講義と演習を実施する。

講義は「物理・分析化学」および「一般・有機化学」に分かれて、それぞれ7回ずつ実施する。

■教科書

「マクマリー有機化学」(上) 《第5版》
J. McMurry 著、伊東ら 訳(東京化学同人) 4500円
配布プリント

■関連科目

基礎化学、化学、有機化学1, 2, 3、薬品分析学1,2

■試験方法

定期試験(7月下旬)

■成績評価基準

随時実施する小テスト、定期試験および出席状況などにより総合的に判断する。

■研究室・E-mailアドレス

薬品分析学研究室
(鈴木) e-mail: suzuki@phar.kindai.ac.jp
(多賀) e-mail: punk@phar.kindai.ac.jp
有機薬化学研究室
(村岡) 内線3808 e-mail: muraoka@phar.kindai.ac.jp
(田邊) 内線3854 e-mail: tanabe@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

随時

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 化学計算の基礎

<項目・内容>

化学計算を修得するためには、化学量論の考え方と様々な単位を理解する必要がある。ここでは、化学量論に関する概説に加えて、SI基本単位とその位取り接頭語、様々な濃度表記(モル濃度、規定度、%)についての解説する。またモルや当量に関する計算や含量や純度計算に関する演習も実施する。

<到達目標>

基本単位の定義を説明できる。濃度計算ができる。

第2回 容量分析の基礎と計算

<項目・内容>

実験化学は得られた現象を数値化することによって発展したといっても過言ではない。したがって、計測して得られた数値をどのように取り扱うべきか、またその値の信頼性はどの程度なのかを十分に理解する必要がある。ここでは有効数字や誤差に関する基本について確認した後、具体的な実験操作や測定結果にもとづいた計算と演習を実施する。

<到達目標>

有効数字を理解し、計算値を正しく表すことができる。

第3回 偶然誤差の推計学的処理

<項目・内容>

真の値を推定したり、分析法の精度を評価する上で統計学的な知識や誤差に関する基本的な知識が必要である。ここでは統計学的な知識と誤差の原因やその対処法に関して、基本的な考え方を学習する。実際の測定結果などを例にとり、信頼性を評価したり異常値を棄却するための検定方法を学習する。

<到達目標>

実験値に含まれる誤差を正しく推定できる。

第4回 容量分析の計算

<項目・内容>

容量分析の操作について復習し、当量やグラム当量、対応量などについて復習する。特に酸・塩基滴定に的を絞り、代表的な滴定法の種類を再確認し、対応量や純度計算などの演習を実施する。

<到達目標>

容量分析における当量や対応量を正しく理解する。

第5回 酸と塩基

<項目・内容>

酸と塩基はもっとも基本的な概念でありながら、正しく理解出来ていない学生が多い。そこで、Arrhenius, Bronsted, Lewisの酸塩基の定義を学習し、それぞれをどのように使い分けるべきかを演習を通して習得する。

<到達目標>

Arrhenius, Bronsted, Lewisの定義に応じて、化学反応を分類できる。共役酸と共役塩基、硬い酸と軟らかい酸とはどのような事か説明できる。

第6回 酸化と還元

<項目・内容>

定量分析や定性分析で利用される酸化還元反応を通して、重要な元素や化合物の取り得る酸化数、重要な酸化還元反応式の導き方、反応に伴う色の変化などを総合的に学習する。

<到達目標>

化学式から構成元素の酸化数を求めることができる。酸化還元反応の反応式を正しく書ける。反応式から当量関係を答えることができる。

第7回 化学平衡

<項目・内容>

特に電離（酸・塩基）平衡を中心に、化学平衡反応に対する正しいイメージ、平衡定数式の書き方、質量作用則や電荷均衡則を取り入れた化学種の濃度の求め方を演習を通して学習する。

<到達目標>

K_a あるいは pK_a が与えられれば、1 mol/L酢酸、1 mol/L酢酸ナトリウム、およびこれらの混合液のpHを正しく求めることができる。難溶性塩における溶解度と溶解度積の関係を求めることができる。

第8回 構造と結合

<項目・内容>

① 原子の軌道と電子配置 ② 共有結合と sp , sp^2 , sp^3 混成軌道などに関する演習を行う。

<到達目標>

化学結合に関わる原子の軌道と電子配置および分子の構造について理解を深める。

第9回 極性結合とその重要性

<項目・内容>

① 極性共有結合 ② 双極子モーメント ③ 共鳴 ④ 化合物の酸性・塩基性などに関する演習を行う。

<到達目標>

結合の分極や官能基の電子状態、化合物の酸性・塩基性について理解を深める。

第10回 アルカンとシクロアルカン

<項目・内容>

① 命名法 ② アルカンの性質 ③ シス-トランス異性などに関する演習を行う。

<到達目標>

アルカンとシクロアルカンの構造、化学的性質および反応性に関する理解を深める。

第11回 アルカンとシクロアルカンの立体化学

<項目・内容>

① 立体配座 ② 立体配置 ③ アキシアル結合エクアトリアル結合などに関する演習を行う。

<到達目標>

アルカンとシクロアルカンの立体配座や立体配置に関して化学理解を深める。

第12回 アルケン

<項目・内容>

① 命名法 ② シス-トランス異性 ③ アルケンの安定性 ④ アルケンの製法 ⑤ アルケンの反応性：付加、還元、酸化などに関する演習を行う。

<到達目標>

アルケンの構造、化学的性質および反応性に関する理解を深める。

第13回 アルキン

<項目・内容>

① 命名法 ② アルキンの製法 ③付加反応④ アルケンの製法 ⑤ アルケンの反応性：付加、アルキル化などに関する演習を行う。

<到達目標>

アルキンの構造、化学的性質および反応性に関する理解を深める。

第14回 有機化合物の立体化学

<項目・内容>

① 鏡像異性体と四面体炭素、② 絶対配置の表示法、③ ジアステレオマー、メソ化合物、ラセミ体などに関する演習を行う。

<到達目標>

立体異性と分子の対掌性の原因となるキラリティーについて理解を深める。

第15回 定期試験

科目名： 生物学演習				
英文名： Exercises of Biology				
担当者： <small>クボ ミチノリ</small> 久保 道德・ <small>イチダ セイジ</small> 市田 成志・ <small>タケチ マサユキ</small> 武智 昌幸・ <small>ミヤケ ヨシマサ</small> 三宅 義雅				
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

基礎生物学および生物学で学んだ内容に関連した問題を解説することによって復習の効率を高め、生命科学全般に興味を持たせることを授業目標とする。

この目標を達成するため、クラスを四つの少人数グループ(薬学コースと医療薬学コースをそれぞれ、さらに二つのグループ)に分ける。4人の担当教員が得意分野を四つのグループに対して順番にローテーションして講義する予定である。この目標を達成することによって、学生は生命科学に関する広い知識をより一層深めることができ、薬学領域の応用科目を理解するための基礎学力を養うことができる。

■到達目標

生命科学に関する広い知識をより一層深め、薬学領域の応用科目を理解するための基礎学力を養う。

それぞれの教員が掲げる項目の基本内容を学び、かつ十分理解する。

■教科書

各教員がそれぞれ担当する分野に関連した問題を抜粋したプリントを作成し、これをテキストとして使用する。なお、プリントの配布は初回の講義時におこなう。

■参考文献

- ・「チャート式 新生物 IB・II」 小林弘 著
(数研出版) 本体1,800円
- ・「チャート式 要点と演習 新生物 IB・II」 吉田邦久 著 (数研出版) 本体1,250円
- ・「フォトサイエンス生物図録」 鈴木考仁 監修
(数研出版) 本体790円

■関連科目

基礎生物学、生物学、基礎生化学、解剖生理学1、

■試験方法

中間試験および定期試験を実施する。試験の方式は記述式またはマーク式を採用する。

■成績評価基準

実施時期は中間試験(授業回数第7回目)および定期試験(7月下旬)で、所要時間はそれぞれ60分とする。

小テストは授業中、散発的におこない、所要時間は5分程度とする。

なお、諸事情により実施時期は変更する場合がある。

中間試験、定期試験、小テストの成績および出席状況を評価基準とする。

■研究室・E-mailアドレス

近畿大学薬学部のHPの「スタッフ」をクリックして開ける(訪ねる)と各教員のメールアドレスがあり、各教員に連絡可能。

■オフィスアワー

いずれの教員も、原則的に質問は随時、メールまたは研究室にて受付可能。

<項目・内容>

- グループ①：「生殖と発生」に関する演習(担当：市田)
- グループ②：「細胞の構造と機能」に関する演習(担当：武智)
- グループ③：「植物の生態と民族学」に関する演習[担当：久保(道)]
- グループ④：「刺激の受容」に関する演習(担当：三宅)

- グループ①：「遺伝」に関する演習(担当：市田)
- グループ②：「細胞を構成する物質」に関する演習(担当：武智)
- グループ③：「植物の外部形態と分類学」に関する演習[担当：久保(道)]
- グループ④：「神経系」に関する演習(担当：三宅)

- グループ①：「遺伝子と形質の発現」に関する演習(担当：市田)
- グループ②：「酵素と呼吸」に関する演習(担当：武智)
- グループ③：「植物の内部形態と有用植物」に関する演習[担当：久保(道)]

グループ④：「動物の恒常性と調節」に関する演習（担当：三宅）

グループ①：「細胞の構造と機能」に関する演習（担当：武智）

グループ②：「植物の生態と民族学」に関する演習 [担当：久保（道）]

グループ③：「刺激の受容」に関する演習（担当：三宅）

グループ④：「生殖と発生」に関する演習（担当：市田）

グループ①：「細胞を構成する物質」に関する演習（担当：武智）

グループ②：「植物の外部形態と分類学」に関する演習 [担当：久保（道）]

グループ③：「神経系」に関する演習（担当：三宅）

グループ④：「遺伝」に関する演習（担当：市田）

グループ①：「酵素と呼吸」に関する演習（担当：武智）

グループ②：「植物の内部形態と有用植物」に関する演習 [担当：久保（道）]

グループ③：「動物の恒常性と調節」に関する演習（担当：三宅）

グループ④：「遺伝子と形質の発現」に関する演習（担当：市田）

グループ①：「植物の生態と民族学」に関する演習 [担当：久保（道）]

グループ②：「刺激の受容」に関する演習（担当：三宅）

グループ③：「生殖と発生」に関する演習（担当：市田）

グループ④：「細胞の構造と機能」に関する演習（担当：武智）

グループ①：「植物の外部形態と分類学」に関する演習 [担当：久保（道）]

グループ②：「神経系」に関する演習（担当：三宅）

グループ③：「遺伝」に関する演習（担当：市田）

グループ④：「細胞を構成する物質」に関する演習（担当：武智）

グループ①：「植物の内部形態と有用植物」に関する演習 [担当：久保（道）]

グループ②：「動物の恒常性と調節」に関する演習（担当：三宅）

グループ③：「遺伝子と形質の発現」に関する演習（担当：市田）

グループ④：「酵素と呼吸」に関する演習（担当：武智）

グループ①：「刺激の受容」に関する演習（担当：三宅）

グループ②：「生殖と発生」に関する演習（担当：市田）

グループ③：「細胞の構造と機能」に関する演習（担当：武智）

グループ④：「植物の生態と民族学」に関する演習 [担当：久保（道）]

グループ①：「神経系」に関する演習（担当：三宅）

グループ②：「遺伝」に関する演習（担当：市田）

グループ③：「細胞を構成する物質」に関する演習（担当：武智）

グループ④：「植物の外部形態と分類学」に関する演習 [担当：久保（道）]

グループ①：「動物の恒常性と調節」に関する演習（担当：三宅）

グループ②：「遺伝子と形質の発現」に関する演習（担当：市田）

グループ③：「酵素と呼吸」に関する演習（担当：武智）

グループ④：「植物の内部形態と有用植物」に関する演習 [担当：久保（道）]

定期試験

<到達目標>

試験を通して、授業回数 14回目までの講義内容のポイントを復習する。

科目名： 基礎ゼミ			
英文名： Seminar for Bases			
担当者： <small>ホンダ ススム</small> 本田 進・他			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	区分： 必修選択の別： 必修

■授業概要

医療現場において薬剤師に対するニーズが高まっている。しかし薬学の勉強量は膨大であり、かつ科学の進歩や変化に対応して年々新しい知識が加わるため、社会のニーズを満たすためには、自ら問題を見つけ、情報を検索・収集して学び、得た知識を持って自ら問題を解決する能力が必要である。そのため薬学生には、高校までの知識偏重型の受動的な学習から自主的に学習する態度を学び取ることが要求されている。この基礎ゼミではこれらの要求を満たすため、学生を薬学部のすべての研究室および薬学専門教育分野に少人数のグループに振り分ける。そこで呈示された、あるいはグループで考えたテーマについて問題を抽出し、解決方法を見出し解決し、結論を見つけ出すとともに、発言、討論を通じて論理的思考力、表現力、批判力を養うことを目的としている。従来の講義形式のように教員が知識を与えるものではない。授業時間は月曜日3限眼を予定しているが、図書館、インターネットあるいはフィールドワーク等を駆使して授業外の時間（放課後）に学習することは必須である。

■参考文献

教養、薬学・医学専門を含む書籍全般、インターネットのHP、フィールドワーク

■関連科目

薬学研修

■試験方法

レポート

■成績評価基準

出席、自己学習の程度、発言の頻度、発言の内容、レポート等を総合的に判断し評価する。

■授業評価実施方法

実施する。

■オフィスアワー

担当者にいつでも質問してください。

外国語科目

(英語)

目錄

目錄

英語履修案内

英語学習の意義と指導目標

国際化、情報化が急速に進展する今日、英語がますます重要なものになってきていることは言うまでもない。例えば、現在、世界的に見ると、インターネット、Eメールなどの約90%が英語で行われており、それも今後は95%以上になると見積もられている。国際語としての英語を使いこなせるようになるためには、世界の国々の文化的多様性や普遍性を学ぶことで他民族の心を理解し、グローバルな視野を持つことによって真の実践的コミュニケーション能力を高めることが必要である。

語学教育部では、このような視点から、学生が21世紀の国際舞台で活躍できるような英語力を身につけることを目指し、次のような指導目標を設定している。

第一に、今日の情報化時代に対応し、さまざまな情報を正確かつ迅速に読み取り、読み取った情報を処理する能力を養う。「英語を学ぶ」という段階から「英語で学ぶ」という段階へ、脱皮が必要である。

第二に、今日の国際化時代に対応し、情報を伝達したり、自分の意見や気持ちを表現したりすることができる発信型コミュニケーション能力を養う。「英語を学ぶ」ことから「英語を使う」ことへ、発想を転換することが必要である。

第三に、今日の国際社会の中で留学をしたり、仕事をしたりするのに必要な英語力の習得を目指し、文化理解と文化発信の手段としての「上級の英語力」を育成する。

第四に、TOEICなどの英語能力試験において、高い得点を得ることができる実用的な英語力を身につける。

最後に、各学部の特性を配慮し、英語で書かれた「専門の文献を読む力」を向上させる。併せて、英語と日本語の発想の違いを理解したり、随筆や文学作品を「じっくり味わう力」を身につける。

語学教育部では以上のような技術や能力を養成するために、英語コミュニケーション、オーラルコミュニケーション、イングリッシュ・カルチャーセミナーなどの英語科目を開講している。英語科目はグレード制を採用しており、習熟度に応じた科目を受講することになっている。

英語科目

科 目	配当 学年	単 位	学 期	備 考
英語コミュニケーション 1	1	2	前 後	
英語コミュニケーション 2	1	2	前 後	
英語コミュニケーション 3	1	2	前 後	
英語コミュニケーション 4	1	2	前 後	
英語コミュニケーション 5	2	1	前 後	
英語コミュニケーション 6	2	1	前 後	
英語コミュニケーション 7	2	1	前 後	
英語コミュニケーション 8	2	1	前 後	
英語コミュニケーション 9	2	1	前 後	
英語コミュニケーション 10	2	1	前 後	
オーラルコミュニケーション 1	1	1	前 後	
オーラルコミュニケーション 2	1	1	前 後	
オーラルコミュニケーション 3	2	1	前 後	受講するにはオーラルコミュニケーション1・2のいずれか単位を取得していることが必要
オーラルコミュニケーション 4	2	1	前 後	
オーラルコミュニケーション 5	3	1	前 後	受講するにはオーラルコミュニケーション3・4のいずれか単位を取得していることが必要
オーラルコミュニケーション 6	3	1	前 後	
イングリッシュカルチャーセミナー 1				

2単位は週2回の授業、1単位は週1回の授業

英語科目概要

英語コミュニケーション1 前期

速読能力の向上と基礎語彙力の養成を目的とする。内容理解に重点を置き、文の構造、文法、パラグラフの構成など、読みに必要な事項を確認しながら、英文の概要、要点を速く的確に読みとる力をつけていく。併せて基本的なリスニング練習を行い、リスニング能力の向上を図る。これらの訓練により TOEIC に対応できる基礎力を養う。

英語コミュニケーション2 後期

この科目は英語コミュニケーション1の内容をやや高度にしたもので、読解力と語彙力を強化し、併せて一層進んだリスニング力を身につけることを目標とする。

英語コミュニケーション3 前期

新聞や雑誌の英語、広告、ビジネス・レターなどの語彙を習得し、要点をすばやく読みとる速読力の向上を図る。また比較的平易なオフィスでの英語を聞き取る訓練を行う。

英語コミュニケーション4 後期

この科目は、英語コミュニケーション3の内容をやや高度にしたもので、オフィスでの英語をパラグラフリーディングしたりトピックを要約したりする能力を養う。また、やや高度なリスニングの訓練を行う。

英語コミュニケーション5 前期

専門分野の文献を読む基礎的な能力を養成する。内容は、原則として各学部に対応したものとし、人文系は文学、言語、比較文化など、社会系はビジネス、政治など、自然系は科学技術、環境問題などを題材とする。言葉の意味、文の構造、パラグラフの構成などを分析しながら、内容を理解することに焦点を当て、読解力と語彙力を強化することを目標とする。

英語コミュニケーション6 後期

この科目は英語コミュニケーション5の内容をやや高度にしたもので、読解力と語彙力を強化し、一層進んだ英語力を身につけることを目標とする。

英語コミュニケーション7 前期

TV、ラジオのニュース・映画の英語のリスニング能力と自己表現力の向上を目標とする。TV、ラジオのニュース・映画の英語の語彙習得後、聞こえにくい音、音の連結、ストレスなどの確認を行う。またニュースの内容について英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめることを学ぶ。

英語コミュニケーション8 後期

この科目は英語コミュニケーション7の内容をやや高度にしたもので、さらに進んだTV、ラジオのニュースや映画の英語のリスニング能力と自己表現力の向上を目指す。

英語コミュニケーション9 前期

上級レベルの英語力を養う。英語圏へ留学をしたり、英語を使って仕事をしたりするのに必要な英語力を養成することを目標とする。エッセイや記事などを読んだり、ニュースやスピーチを聞いたりして、概要・要点をまとめ、自分の意見や感想を英語で述べる訓練をする。

英語コミュニケーション10 後期

この科目は英語コミュニケーション9の内容をやや高度にしたもので、さらに上級の英語力を身につけることを目標とする。

オーラルコミュニケーション1 前期

日常会話に必要な基礎的語彙を増やすと共に、その語法に習熟させることを目標とする。その上で、場面（挨拶、自己紹介、電話、買物、レストランでの注文、道案内、予約など）や機能（許可、依頼、提案など）に応じた会話力の向上を目指す。

オーラルコミュニケーション2 後期

この科目はオーラルコミュニケーション1の内容の上に、初歩的な日常会話力のさらなる向上を目指す。

オーラルコミュニケーション3 前期（この科目の受講はオーラルコミュニケーション1・2の単位を取得していることが必要）

場所、人、物や何かのプロセスについて説明したり、簡単なスキットを創作したり発表したりして、基礎的な会話表現力を身につけることを目標とする。

オーラルコミュニケーション4 後期

この科目は、オーラルコミュニケーション3の内容の上に、思い出、物語などのナレーション、比較・対照、原因・結果などの表現を含んだ、さまざまな場面での会話表現力の向上を目指す。

オーラルコミュニケーション5 前期（この科目の受講はオーラルコミュニケーション3・4の単位を取得していることが必要）

身近なトピックについて聞いたり、読んだりしたことを説明したり、自分の意見や感想を少し付け加えて発表したり、簡単なディスカッションをしたりして、会話表現力を身につけることを目標とする。

オーラルコミュニケーション6 後期

この科目は、オーラルコミュニケーション5の内容の上に、簡単なスピーチやディベートをして、一層進んだ会話表現力を身につけることを目指す。

イングリッシュカルチャーセミナー1 前期

英語圏の国の文化を通して英語をゼミ形式で学ぶ。英語を読み、課題について自分なりに解決して、議論したり、発表したりすることによって、英語という言葉に対する理解力を深め、グローバルな視野と課題解決能力を身につける。

英語科目履修案内

英語科目は、卒業までに最低8単位履修することが必要です。各自の目的や能力に合わせて、履修モデルやQ&Aを参考に履修計画を立ててください。

1. 8単位履修モデル

(A) 大学生として必要な英語力を養う。

2. 10単位履修モデル

(B) リスニングとスピーキングの力を強化する。

(C) リーディングとリスニングの力を強化する。

3. 12単位履修モデル

(D) ノン・ネイティブとして十分なコミュニケーション能力をつける。

(E) 特に口頭によるコミュニケーション能力を強化する。

(F) 英語だけでなく英語圏の文化も学ぶ。

履修モデル	1年		2年	3年	4年
8単位	英語コミュニケーション1・2 英語コミュニケーション3・4 オーラルコミュニケーション1・2	2つのうち から1つ	(A) 英語コミュニケーション5・6		
10単位	英語コミュニケーション1・2 英語コミュニケーション3・4 オーラルコミュニケーション1・2	2つのうち から1つ	(B) 英語コミュニケーション5・6 オーラルコミュニケーション3・4		
			(C) 英語コミュニケーション5・6	英語コミュニケーション7・8	
12単位	英語コミュニケーション1・2 英語コミュニケーション3・4 オーラルコミュニケーション1・2	2つのうち から1つ	(D) 英語コミュニケーション5・6	英語コミュニケーション7・8	英語コミュニケーション9・10
			(E) 英語コミュニケーション5・6 オーラルコミュニケーション3・4	オーラルコミュニケーション5・6	
			(F) 英語コミュニケーション5・6 オーラルコミュニケーション3・4 イングリッシュカルチャセミナー1		

① 〈履修登録の時期は〉

すべての英語科目は、前期も後期も4月に履修登録します。

② 〈前期科目が不合格になったら〉

前期科目の単位が取れなくても、後期科目は履修できます。

③ 〈前期科目は合格、後期科目は不合格になったら〉

前期科目の単位が取れていれば、上位科目を履修できます。

④ 〈前期科目は不合格、後期科目は合格になったら〉

後期科目の単位が取れていれば、上位科目を履修できます。

⑤ 〈前期科目も後期科目も不合格になったら〉

上位科目の履修はできません。再履修してください。

☆検定試験等による単位認定について☆

次のスコア（級）をとれば、該当科目を100点で成績評価する。	
TOEIC470点～545点	→2単位 <small>(英語コミュニケーション5・6の単位として認定)</small>
TOEIC550点～625点 / TOEFL173(500)点～212(549)点	→4単位 <small>(英語コミュニケーション5・6・7・8の単位として認定)</small>
TOEIC630点以上 / 英検準1級 / TOEFL213(550)点以上	→6単位 <small>(英語コミュニケーション5・6・7・8・9・10の単位として認定)</small>
海外英語研修	→2単位 <small>(留学英語1・2の単位として認定)</small>

* TOEFL の得点は先にコンピューター受験、() 内にペーパー受験の基準を示しています。

1. 1年次後期配当科目「英語コミュニケーション2」、「英語コミュニケーション4」は英語実力試験を成績評価に加える。

2. 2年次配当科目「英語コミュニケーション」は TOEIC/英検/TOEFL で単位認定
 - (1) TOEIC470点～545点を取得すれば、「英語コミュニケーション5・6」(2単位)を100点で認定する。
 - (2) TOEIC550点～625点/TOEFL173(500)点～212(549)点を取得すれば、「英語コミュニケーション5・6」「英語コミュニケーション7・8」(計4単位)を100点で認定する。
 - (3) TOEIC630点以上/英検準1級/TOEFL213(550)点以上を取得すれば、「英語コミュニケーション5・6」「英語コミュニケーション7・8」「英語コミュニケーション9・10」(計6単位)を100点で認定する。

※2年次の前期に所定のスコアを取得した場合は、前期・後期とも100点で認定する。後期に所定のスコアを取得した場合は、前期の単位を取得していない場合に限り、前期・後期とも100点で認定する。すでに前期の単位を取得していれば後期のみ100点で認定する。

※単位認定は、学生本人が申請した場合に限る。

3. 海外英語研修によって単位を認定

本学が主催する海外英語研修に参加すれば、「留学英語1・2」として認定する。成績は、現地教員と本学の引率教員が評価する。

4. 単位認定の申請について

TOEIC/英検/TOEFL で所定のスコア（級）を取得した場合は、下記の期間に認定書（コピー不可）を持参の上、学務部学務第1課に申請すること。

※申請有効期間は所定のスコア（級）取得後1年間とする。

前 期	1年～3年	平成16年7月1日～9月10日
後 期	1年	平成17年4月1日～4月11日
後 期	2年・3年	平成17年2月9日～2月21日

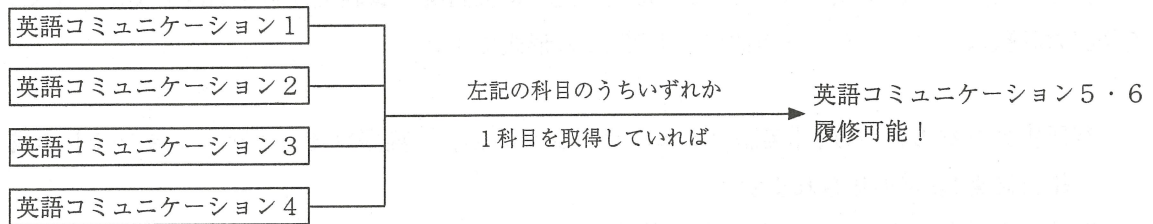
☆英語実力試験 / TOEIC について☆

本学では、「英語コミュニケーション2」、「英語コミュニケーション4」を受講している1年生全員を対象として、平成16年11月上旬（予定）に英語実力試験を授業時間内で実施します。英語実力試験は、マークシート方式で、TOEICの形式です。

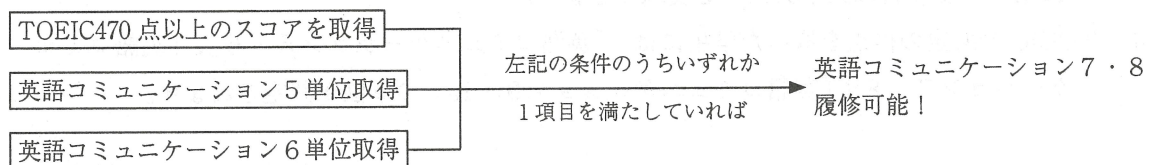
1. 英語実力試験の得点は、「英語コミュニケーション2」、「英語コミュニケーション4」の成績に最高20点加味されます。
2. 英語実力試験の得点は、2年次配当科目「英語コミュニケーション5・6」（習熟度）のクラス編成に使用されます。
3. 英語実力試験で一定の得点を取った学生は、平成16年12月下旬（予定）に実施する学内TOEIC（受験料は大学負担）を受験できます。
4. TOEICで所定の得点を取った学生には、「英語コミュニケーション5・6」、「英語コミュニケーション7・8」「英語コミュニケーション9・10」の単位が認定されます。

外国語科目（英語）の履修制限

英語コミュニケーション5・6の履修条件

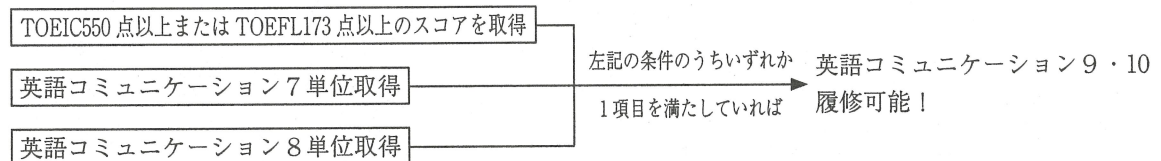


英語コミュニケーション7・8の履修条件



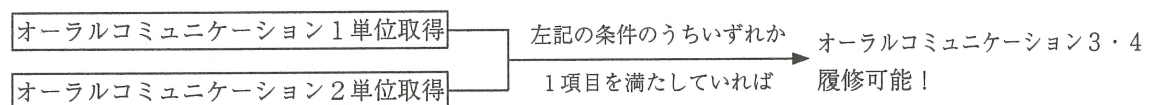
* TOEICスコアによる単位認定には所定の手続きが必要です。手続きを行わなければ履修条件も満たすことができません。

英語コミュニケーション9・10の履修条件

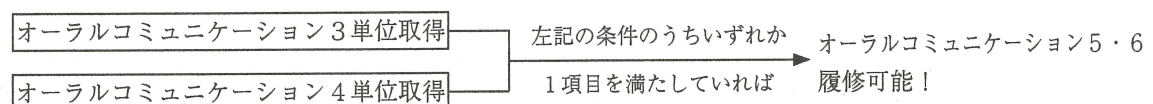


* TOEIC・TOEFLスコアによる単位認定には所定の手続きが必要です。手続きを行わなければ履修条件も満たすことができません。

オーラルコミュニケーション3・4の履修条件



オーラルコミュニケーション5・6の履修条件



<再履修について>

オーラルコミュニケーション1未修得	オーラルコミュニケーション1を再履修する。
オーラルコミュニケーション2未修得	オーラルコミュニケーション2を再履修する。
オーラルコミュニケーション3未修得	オーラルコミュニケーション3を再履修する。
オーラルコミュニケーション4未修得	オーラルコミュニケーション4を再履修する。

1年生の英語 Q&A

Q 1 たくさんの英語科目がありますが、どれをとった方がいいのかわかりません。

A 1年生は、英語コミュニケーション1・2、英語コミュニケーション3・4の中から指定されたものを1つと、オーラルコミュニケーション1・2を履修してください。どの科目も、すべて指定クラスです。

Q 2 英語は卒業までに何単位とればよいのですか？

A 外国語科目(英語・初修外国語)の単位として12単位必要です。英語で最低8単位必要です。また英語のみで12単位をとることも可能です。

Q 3 成績はどのように評価されるのですか？

A 前期は、担当教員が定期試験と小テスト、提出物などを加味して100点満点で評価します。後期は、英語コミュニケーション2と英語コミュニケーション4のクラスでは、担当教員が定期試験と小テスト・提出物などを加味した80点と、英語実力試験における得点を20点満点に換算して加えた合計100点満点で評価します。

※ 1年生の11月に英語実力試験を実施予定です。

Q 4 前期と後期でクラスを変わることができますか？

A 変わることはできません。クラスも担当の先生も同じです。

Q 5 イングリッシュカルチャーセミナー1は、1年生は履修できますか？

A できません。イングリッシュカルチャーセミナー1は3年生になってから履修してください。

2年生以上の英語 Q&A

Q 6 1年生で英語コミュニケーション1・2(または英語コミュニケーション3・4)とオーラルコミュニケーション1・2の単位をとったのですが、これから何をとった方がいいですか？

A 2年生は、原則として英語コミュニケーション5・6を履修してください。また、例外事項については、履修モデルを参照してください。

Q 7 2年生の英語コミュニケーション5・6のクラスは、どうなりますか？

A 1年次、11月実施の英語実力試験のスコアによってクラスが決定されます。なお、TOEICを受験した場合はそのスコアにより、下記のように飛び級ができます。

- (1) 470点～545点の場合は、英語コミュニケーション5・6の単位を認定の上、英語コミュニケーション7・8を履修できます。
- (2) 550点～625点の場合は、英語コミュニケーション5・6・7・8の単位を認定の上、英語コミュニケーション9・10を履修できます。
- (3) 630点以上の場合は、英語コミュニケーション5・6・7・8・9・10の単位を認

定します。

※ 個人で受けた場合は、Q1 2、1 3を参照してください。

Q 8 英語コミュニケーション5・6、英語コミュニケーション7・8、または英語コミュニケーション9・10を履修し、前期中に受けたTOEICで所定のスコアが取れたら、成績評価はどうなるのですか？

A 所定のスコアを取り、申請すれば、前期後期とも100点で評価されます。

Q 9 英語コミュニケーション5・6、英語コミュニケーション7・8、または英語コミュニケーション9・10を履修し、後期中に受けたTOEICで所定のスコアが取れたら、成績評価はどうなるのですか？

A 所定のスコアを取り、申請すれば、後期は100点で認定されます。また、前期の単位を取得していない場合に限り前期も100点で認定されます。すでに前期の単位を取得していれば、前期の成績は変更できません。

Q10 TOEICで所定のスコアをとった場合、いつ申請すればいいのですか？

A 前期は2004年9月10日、後期は2005年2月9日～2月21日に（1年生は4月1日～4月11日）に認定書（コピー不可）を持参の上、学務部学務第1課に申請してください。

※申請有効期間は所定のスコア（級）取得後1年間有効です。

Q11 TOEICで所定の点数がとれていたけど、申請するのを忘れた場合はどうなるのですか？

A 申請を忘れたのは本人の責任ですから、評価の変更は行いません。忘れずに申請するようにしてください。

Q12 2年のとき英語コミュニケーション5・6を履修し、どちらも良の評価しかもらえず、3年のときにTOEICで470点とれたとしたら、成績評価は差し替えてもらえますか？

A 評価した後は、差し替えることはできません。

Q13 1年のとき英語コミュニケーション1・2、または英語コミュニケーション3・4の両方も単位がとれませんでした。どうしたらいいのですか？

A 英語コミュニケーション1・2、英語コミュニケーション3・4それぞれの組み合わせにおいていずれの科目も取得していない場合は、2年生の英語コミュニケーション5・6を履修することはできません。英語コミュニケーション1, 2を再履修してください。

※英語コミュニケーション1、英語コミュニケーション3を落とした場合は、英語コミュニケーション1(再)を履修します。

※英語コミュニケーション2、英語コミュニケーション4を落とした場合は、英語コミュニケーション2(再)を履修します。

Q14 1年のとき英語コミュニケーション1・2、または英語コミュニケーション3・4のうち、いずれか一方だけ単位をとりました。英語コミュニケーション5・6を履修できますか？

A できます。

※英語コミュニケーション1、英語コミュニケーション3を落とした場合は、英語コミュニケーション1(再)を履修します。

※英語コミュニケーション2、英語コミュニケーション4を落とした場合は、英語コミュニケーション2(再)を履修します。

Q15 オーラルコミュニケーション3・4の両方とも単位がとれませんでした。どうしたらいいのですか？

A 再履修クラス(オーラルコミュニケーション3・4)を設けていますので、そこで履修してください。オーラルコミュニケーション3を落とした場合は3を再履修し、オーラルコミュニケーション4を落とした場合はオーラルコミュニケーション4を再履修します。どちらか一方の単位が取得できていればオーラルコミュニケーション5・6の履修は可能です。どちらも取得できていなければ5・6は履修できません。

Q16 オーラルコミュニケーション4の単位がとれませんでした。再履修クラスをどうしてもとらなければいけませんか？

A 必ずしもとる必要はありません。オーラルコミュニケーション3の単位がとれていれば、5・6の履修は可能です。ただし、卒業必要単位を満たすように注意してください。

Q17 2年のとき、英語コミュニケーション6を落としたのですが、3年で英語コミュニケーション7・8を履修できますか？

A できます。英語コミュニケーション7・8を履修するためには、英語コミュニケーション5・6のどちらか一方の単位を取得しているか、TOEIC470点～545点を取っていない必要があります。(所定の手続きを済ませ、単位の認定を受けていること)

Q18 2年のとき、英語コミュニケーション5を落としたので、もう一度履修したいと思います。どうしたらいいのですか？

A 英語コミュニケーション5・6については、それぞれ再履修クラスを設けていますので、そこで履修してください。

Q19 英語コミュニケーション7・8の単位をとらず、英語コミュニケーション9・10をとることはできますか？

A PPできません。英語コミュニケーション9・10を履修するためには、英語コミュニケーション7・8のどちらかの単位を取得しているか、TOEIC550点～625点 / TOEFL173(500)点～212(549)点を取っていない必要があります。(所定の手続きを済ませ、単位の認定を受けていること)

科目名：英語コミュニケーション1				
英文名：English Communication 1				
担当者：三原 京・田淵 義博・北山 環				
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

TOEICで高得点取得を目指す。出題傾向と各パートの特徴を学びつつ、段階的にTOEICの対策を行う。練習問題を数多くこなしていくことで問題形式に慣れ、同時に基本的な単語や熟語の定着を図る。

■到達目標

- ・語彙力、文法力、及び発音の技能を高める。
- ・さまざまな場面での基本的な日常会話を理解し、これらの日常会話に必要な機能や表現を運用する能力を身につける。
- ・比較的平易な文章をある程度の速さで正確に読み、英語で概要・要点をまとめる能力を身につける。
- ・TOEICテストで370～400点以上を目指す。

■教科書

- ・Active TOEIC Test、近畿大学語学教育部教材開発研究会編、成美堂
- ・Word Builder、近畿大学語学教育部教材開発研究会編、南雲堂

■試験方法

定期試験、中間試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（50%）、中間試験（20%）、小テスト、口頭発表及び課題（30%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1・2回 Chapter 1 TOEICの基礎 Section 1
- 第3・4回 Chapter 1 TOEICの基礎 Section 2
- 第5・6回 Chapter 1 TOEICの基礎 Section 3
- 第7・8回 Chapter 2 TOEIC Part別対策 Section 1
- 第9・10回 Chapter 2 TOEIC Part別対策 Section 2
- 第11・12回 Chapter 2 TOEIC Part別対策 Section 3
- 第13・14回 Chapter 2 TOEIC Part別対策 Section 4
- 第15・16回 Chapter 2 TOEIC Part別対策 Section 5
- 第17・18回 Chapter 2 TOEIC Part別対策 Section 6
- 第19・20回 Chapter 2 TOEIC Part別対策 Section 7
- 第21・22回 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 1
- 第23・24回 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 2
- 第25・26回 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 3
- 第27・28回 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 4
- 第29回 Chapter 4 TOEIC 総仕上げ
- 第30回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション2

英文名：English Communication 2

担当者：三原 京・田淵 義博・北山 環

単 位：2単位

開講年次：1年次

開講期：後期

区 分：

必修選択の別：選択科目

■授業概要

わかりやすい英語で書かれた興味深いエッセイを題材に、速読能力の向上と基礎語彙力の養成を目的とする。内容理解に重点を置き、文の構造、文法、パラグラフの構成など、読みに必要な事項を確認しながら、英文の概要、要点を速く的確に読み取る力をつけていく。併せて基本的なリスニング練習を行い、リスニング能力の向上を図る。

■到達目標

- ・語彙力、文法力、及び発音の技能を高める。
- ・さまざまな場面での基本的な日常会話を理解し、これらの日常会話で必要な機能や表現を運用する能力を身につける。
- ・比較的平易な文章をある程度の速さで正確に読み、英語で概要・要点をまとめる能力を身につける。
- ・TOEICテストで370～400点以上を目指す。

■教科書

Exploring Cultural Issues、清水他、成美堂

■試験方法

定期試験、中間試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（50%）、実力テスト（20%）、小テスト、口頭発表及び課題（30%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 Harry Potter vs. Hamlet
- 第3回 Theaters in London
- 第4回 My Fair Lady
- 第5回 Irish Films
- 第6回 第1部のまとめ
- 第7回 Farmer's Fluke Find is Big Meteorite
- 第8回 Spiritual Message from the Lotus
- 第9回 Great White Fear Grips Sydney
- 第10回 Environmentally Friendly Bullets
- 第11回 第2部のまとめ
- 第12回 Iced Green Tea
- 第13回 Seattle-Style Coffee Shops
- 第14回 Drink Wine and Be Merry
- 第15回 第3部のまとめ
- 第16回 A Taxi Driver Story
- 第17回 The New Zealand Way of Life
- 第18回 Enter the Euro
- 第19回 Big Macs in Hospitals
- 第20回 The Celtic Language
- 第21回 第4部のまとめ
- 第22回 Teenage Research
- 第23回 Laughlab
- 第24回 Black Barbie or White Barbie?
- 第25回 Pearl Harbor and Japanese-Americans
- 第26回 Harry Potter Flies into Japan
- 第27回 第5部のまとめ
- 第28回 Ozawa Wins Praise
- 第29回 The Astronaut's Husband
- 第30回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション3			
英文名：English Communication 3			
担当者：石井 ^{イシイ} 重光 ^{シゲミツ} ・真砂 ^{マサゴ} 薫 ^{カオル}			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	区 分：必修選択の別：選択科目

■授業概要

TOEICで高得点取得を目指す。出題傾向と各パートの特徴を学びつつ、段階的にTOEICの対策を行う。練習問題を数多くこなしていくことで問題形式に慣れ、同時に基本的な単語や熟語の定着を図る。

■到達目標

- ・進んだ英語学習に対応できる語彙力、文法力を身につける。
- ・さまざまな場面での発展的な日常会話やオフィスの会話を理解し、これらの会話場面で必要な機能や表現を運用する能力を身につける。
- ・比較的平易な文章を速読し、英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめる能力を身につける。
- ・TOEICテストで420～450点以上を目指す。

■教科書

- ・Active TOEIC Test、近畿大学語学教育部教材開発研究会編、成美堂
- ・Word Builder、近畿大学語学教育部教材開発研究会編、南雲堂

■試験方法

定期試験、中間試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（50%）、中間試験（20%）、小テスト、口頭発表及び課題（30%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1・2回 Chapter 1 TOEICの基礎 Section 1
- 第3・4回 Chapter 1 TOEICの基礎 Section 2
- 第5・6回 Chapter 1 TOEICの基礎 Section 3
- 第7・8回 Chapter 2 TOEIC Part別対策 Section 1
- 第9・10回 Chapter 2 TOEIC Part別対策 Section 2
- 第11・12回 Chapter 2 TOEIC Part別対策 Section 3
- 第13・14回 Chapter 2 TOEIC Part別対策 Section 4
- 第15・16回 Chapter 2 TOEIC Part別対策 Section 5
- 第17・18回 Chapter 2 TOEIC Part別対策 Section 6
- 第19・20回 Chapter 2 TOEIC Part別対策 Section 7
- 第21・22回 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 1
- 第23・24回 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 2
- 第25・26回 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 3
- 第27・28回 Chapter 3 TOEIC 実践問題 Section 4
- 第29回 Chapter 4 TOEIC 総仕上げ
- 第30回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション4

英文名：English Communication 4

担当者：石井^{イシイ} 重光^{シゲミツ}・真砂^{マサゴ} 薫^{カオル}

単 位：2単位

開講年次：1年次

開講期：後期

区 分：

必修選択の別：選択科目

■授業概要

アメリカ、イギリスで出会った人々との交流体験を扱ったテキストをもとに、異文化および日本の文化への理解を深める。テキストの練習を通じて速読術を身につけすばやく大意をつかむ力を養成する。また読解力の向上の他に、練習問題を通じてリスニング、英作文の練習も行い、聴解力、語彙力、表現力の強化を図る。

■到達目標

- ・進んだ英語学習に対応できる語彙力、文法力を身につける。
- ・さまざまな場面での発展的な日常会話やオフィスの会話を理解し、これらの会話場面で必要な機能や表現を運用する能力を身につける。
- ・比較的平易な文章を速読し、英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめる能力を身につける。
- ・TOEICテストで420～450点以上を目指す。

■教科書

Broadening your cultural horizons, Junko Kobayashi,他、成美堂

■試験方法

定期試験、中間試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（50%）、実力テスト（20%）、小テスト、口頭発表及び課題（30%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1・2回：Introduction, 補助教材
- 第3・4回：Tunnel vision, Is honesty the best policy?
- 第5・6回：American humor, How do you rank your country?
- 第7・8回：Are doctors always male?, Wizard Ichiro
- 第9・10回：The secret of victory, Dog-eat-dog society
- 第11・12回：“It's not my fault,” Sweet temptation
- 第13・14回：Review, Review
- 第15・16回：Hamburgers vs. Rice balls, “I'm proud to be American
- 第17・18回：“I'm now resting,” Witty replies
- 第19・20回：Dogs or cats?, Enjoying your occupation
- 第21・22回：Justice or money, A proud people: The Jews
- 第23・24回：Chinese wisdom, Young people, be ambitious
- 第25・26回：補助教材、補助教材
- 第27・28回：Review, Review
- 第29回：Review
- 第30回：定期試験

科目名：英語コミュニケーション5				
英文名：English Communication 5				
担当者：長谷 信子・生駒 和子・白川 泰旭・藤岡 真由美・掛谷 舞				
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

1年次で学んだTOEIC対策学習をもとに、さらに問題練習をこなしていくことでTOEIC形式に習熟し、英語力を強化する。リスニング、リーディング両方の力をつけられるように、授業を進める。

■到達目標

- ・進んだ英語学習に対応できる語彙力、文法力を身につける。
- ・さまざまな場面での発展的な日常会話やオフィスの会話を理解し、これらの会話場面で必要な機能や表現を運用する能力を身につける。
- ・専門分野の入門的な文章をある程度の速さで読み、英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめる能力を身につける。
- ・TOEICテストで440～470点以上を目指す。

■教科書

Successful Steps for the TOEIC Test, 塚野他著、成美堂、¥1900 (2003)
Wordbuilder, 近畿大学語学教育部教材開発研究会編、南雲堂

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Unit 1: Entertainment

第2回 Unit 2: Personnel

第3回 Unit 3: Office Work & Supplies

第4回 Unit 4: Office Messages

第5回 Unit 5: Eating Out

第6回 Unit 6: Technology

第7回 Unit 7: Research & Merchandise Development

第8回 Units 8 & 9: Finance, Budget and Purchases

第9回 Unit 10: Manufacturing

第10回 Unit 11: Marketing & Sales

第11回 Unit 12: Travel

第12回 Unit 13: Contracts & Negotiations

第13回 Unit 14: Housing and Properties

第14回 Unit 15: Health

第15回 期末試験

科目名：英語コミュニケーション6				
英文名：English Communication 6				
担当者：長谷 信子・生駒 和子				
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

生活科学に関連した素材を、語彙、イディオムの演習に始まり、ある程度のスピードをもってリーディング演習を行った後、問題演習を行う。最後にクールダウンのコラムがあり、クラスレベルや進度に応じてスピーチやプレゼンテーションに展開する。

総合的な教材の演習を通じて、英語の4技能の総合的養成を行い、このコースの到達目標をクリアするところを目指して授業を展開する。

■到達目標

- ・進んだ英語学習に対応できる語彙力、文法力を身につける。
- ・さまざまな場面での発展的な日常会話やオフィスの会話を理解し、これらの会話場面で必要な機能や表現を運用する能力を身につける。
- ・専門分野の入門的な文章をある程度の速さで読み、英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめる能力を身につける。
- ・TOEICテストで440～470点以上を目指す。

■教科書

New Moments in Science, 小中秀彦, 成美堂

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 Chapter 1 Medical Truth
- 第2回 Chapter 2 TV Makes You Fat
- 第3回 Chapter 3 Melatonin and Jet Lag
- 第4回 Chapter 4 Fever
- 第5回 Chapter 5 How Maggots Cure
- 第6回 Chapter 6 Titan
- 第7回 Chapter 7 The ABC of CPR
- 第8回 Chapter 8 Light Travels Awfully Fast
- 第9回 Chapter 9 History of Coffee
- 第10回 Chapter 10 Melatonin
- 第11回 Chapter 11 Gravity Force
- 第12回 Chapter 12 Caffeine
- 第13回 Chapter 13 How You Regulate Heat
- 第14回 Chapter 14 TV Lies Well
- 第15回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション6			
英文名：English Communication 6			
担当者： <small>シラカワ タイキョク</small> 白川 泰旭			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	区 分： 必修選択の別： 選択科目

■授業概要

専門分野の文献を読む基礎的な能力を養成する。内容は、科学技術、環境問題などを題材とする。言葉の意味、文の構造、パラグラフの構成などを分析しながら、内容を理解することに焦点を当て、読解力と語彙力を強化することを目標とする。

■到達目標

- ・進んだ英語学習に対応できる語彙力、文法力を身につける。
- ・さまざまな場面での発展的な日常会話やオフィスの会話を理解し、これらの会話場面で必要な機能や表現を運用する能力を身につける。
- ・専門分野の入門的な文章をある程度の速さで読み、英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめる能力を身につける。
- ・TOEICテストで440～470点以上を目指す。

■教科書

The Wonders of Science and Technology. 深山、他. 三修社.

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 Sensors Help Makes Air Bags Safer.
- 第2回 The New Kyoto Station.
- 第3回 Airport Security.
- 第4回 Mine-Hunting.
- 第5回 The SKYLON.
- 第6回 Classified Ads.
- 第7回 Alarming Immunity.
- 第8回 Internet Telephony.
- 第9回 Nondestructive Examination--Testing Joint Integrity.
- 第10回 Writing a Business Letter.
- 第11回 Electronic Communication.
- 第12回 How EI Niño Works.
- 第13回 The Dangers of Drinking Japan's Tap Water.
- 第14回 DVD--Finally.
- 第15回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション6				
英文名：English Communication 6				
担当者： ^{フジオカ マユミ} 藤岡 真由美				
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

健康問題、環境問題、科学技術についてグローバルな視野から論じた英語読解用テキストを教材にするが、下記の到達目標をクリアすることを目指して、英語の4技能を総合的に養成する。読解力のみならずアカデミックな語彙や知識をふやし表現力も養う。キーワードの確認、リーディングに続き、英問英答やライティングの練習問題、短時間で情報を読み取るscanningの練習問題を演習する。最低1回の授業で1課をこなし、クラスレベルなどに即して進度をあげ、随時小テストを行う。

■到達目標

- ・進んだ英語学習に対応できる語彙力、文法力を身につける。
- ・さまざまな場面での発展的な日常会話やオフィスの会話を理解し、これらの会話場面で必要な機能や表現を運用する能力を身につける。
- ・専門分野の入門的な文章をある程度の速さで読み、英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめる能力を身につける。
- ・TOEICテストで440～470点以上を目指す。

■教科書

Owr World Now: Technology, Health and the Envilonment、金沢他、南雲堂

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（20%）、口頭発表及び課題（30%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 Unit 1 IT and Education
- 第2回 Unit 2 Opening Up the Universe
- 第3回 Unit 3 Our Shrinking Poles
- 第4回 Unit 4 A Significant Step into the Future for the Computer
- 第5回 Unit 5 Benefit of Green Tea
- 第6回 Unit 6 How about a Second Opinion on the Net?
- 第7回 Unit 7 The Mysterious Yawn
- 第8回 Unit 8 Do You Rely on Technology inside your Body?
- 第9回 Unit 9 Breast-Feeding and Intelligence
- 第10回 Unit 10 What is the Best Energy Source for the Future
- 第11回 Unit 11 Marijuana: For and Against
- 第12回 Unit 12 Genetic Changes for Your Babies?
- 第13回 Unit 13 Smoking May Harm Unborn Children
- 第14回 Unit 14 Could a Robot be Your Therapist?
- 第15回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション6			
英文名：English Communication 6			
担当者：カケタニ マイ 掛谷 舞			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	区 分： 必修選択の別：選択科目

■授業概要

この授業で使用するテキストは、比較的平明な英文でヨーロッパ諸国の現状を研究・報告したものである。速読による読解力と英文構成力を伸ばすことを中心に、語彙を増やし、リスニング能力を高めることを目標とする。同時に、政治・経済の地殻変動のまっただなかにいるヨーロッパ諸国において、家族、宗教、生活、文化はどのように変わりつつあるのか、あるいは変わらず伝統を守り続けていこうとする姿はどのようなところに見え隠れするのか、などについても考え、西欧文化に対する理解をも深めてゆく。

■到達目標

- ・進んだ英語学習に対応できる語彙力、文法力を身につける。
- ・さまざまな場面での発展的な日常会話やオフィスの会話を理解し、これらの会話場面で必要な機能や表現を運用する能力を身につける。
- ・専門分野の入門的な文章をある程度の速さで読み、英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめる能力を身につける。
- ・TOEICテストで440～470点以上を目指す。

■教科書

Appreciating European Culture、McConnell, Joan、成美堂

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（20%）、口頭発表及び課題（30%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 What is Europe?

第2回 European Stereotype: True or False?

第3回 Overcoming Culture Shock

第4回 Italy and Japan: Surprising Similarities

第5回 European Beauty Secrets

第6回 A Continent with Fabulous Fashions

第7回 The Art of Eating

第8回 Why Wine is Important in Europe

第9回 Made in Europe

第10回 The New European Woman

第11回 The Star on the Christmas Tree

第12回 Why Thirteen is an Unlucky Number

第13回 The Importance of the Individual

第14回 Europe Today: Old Traditions and New Directions

第15回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション5(再)

英文名：English Communication 5

担当者：^{ニシハラ}西原 ^{マサル}勝

単 位：1単位

開講年次：2年次

開講期：前期

区 分：

必修選択の別：選択科目

■授業概要

TOEICで高い得点を取ることを目的とします。まず、リスニングの練習をします。繰り返し繰り返し聞いて聴覚細胞に英語の音を叩き付けます。この後単語、熟語、文法を強化することによって基礎力を固め、高度な英語運用能力が身につくように徹底した訓練をします。一年後には、聞く、読む、書くの力が相当ついているだろうと思います。

■教科書

Successful Steps for the TOEIC Test 山本 厚子 (他) 成美堂

■参考文献

なし

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回	Unit1	(1) 単語問題	(2) リスニング問題	(3) 補充問題	(4) 正誤問題	(5) 内容把握問題
第2回	Unit2	(1) 単語問題	(2) リスニング問題	(3) 補充問題	(4) 正誤問題	(5) 内容把握問題
第3回	Unit3	(1) 単語問題	(2) リスニング問題	(3) 補充問題	(4) 正誤問題	(5) 内容把握問題
第4回	Unit4	(1) 単語問題	(2) リスニング問題	(3) 補充問題	(4) 正誤問題	(5) 内容把握問題
第5回	Unit5	(1) 単語問題	(2) リスニング問題	(3) 補充問題	(4) 正誤問題	(5) 内容把握問題
第6回	Unit6	(1) 単語問題	(2) リスニング問題	(3) 補充問題	(4) 正誤問題	(5) 内容把握問題
第7回	Unit7	(1) 単語問題	(2) リスニング問題	(3) 補充問題	(4) 正誤問題	(5) 内容把握問題
第8回	Unit8	(1) 単語問題	(2) リスニング問題	(3) 補充問題	(4) 正誤問題	(5) 内容把握問題
第9回	Unit9	(1) 単語問題	(2) リスニング問題	(3) 補充問題	(4) 正誤問題	(5) 内容把握問題
第10回	Unit10	(1) 単語問題	(2) リスニング問題	(3) 補充問題	(4) 正誤問題	(5) 内容把握問題
第11回	Unit11	(1) 単語問題	(2) リスニング問題	(3) 補充問題	(4) 正誤問題	(5) 内容把握問題
第12回	Unit12	(1) 単語問題	(2) リスニング問題	(3) 補充問題	(4) 正誤問題	(5) 内容把握問題
第13回	Unit13	(1) 単語問題	(2) リスニング問題	(3) 補充問題	(4) 正誤問題	(5) 内容把握問題
第14回	Unit14	(1) 単語問題	(2) リスニング問題	(3) 補充問題	(4) 正誤問題	(5) 内容把握問題
第15回	Unit15	(1) 単語問題	(2) リスニング問題	(3) 補充問題	(4) 正誤問題	(5) 内容把握問題

科目名：英語コミュニケーション6(再)				
英文名：English Communication 6				
担当者： ^{ニシハラ} 西原 ^{マサル} 勝				
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

TOEICで高い得点を取ることを目的とします。聞く、話す、読む、書くの四つの能力を無駄なく総合的に訓練できる好テキストを活用して、今一度、徹底した基礎英語力の整理・確認をしながら、高度な英語運用能力が身につくように授業をフル回転したいと思います。

■教科書

Extensive Reader : 3 G.Flaherty (他) 成美堂

■参考文献

なし

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 Unit1 (1) 英文解釈 (2) 補充問題 (3) 書き換え問題 (4) リスニング問題
- 第2回 Unit2 (1) 英文解釈 (2) 補充問題 (3) 書き換え問題 (4) リスニング問題
- 第3回 Unit3 (1) 英文解釈 (2) 補充問題 (3) 書き換え問題 (4) リスニング問題
- 第4回 Unit4 (1) 英文解釈 (2) 補充問題 (3) 書き換え問題 (4) リスニング問題
- 第5回 Unit5 (1) 英文解釈 (2) 補充問題 (3) 書き換え問題 (4) リスニング問題
- 第6回 Unit6 (1) 英文解釈 (2) 補充問題 (3) 書き換え問題 (4) リスニング問題
- 第7回 Unit7 (1) 英文解釈 (2) 補充問題 (3) 書き換え問題 (4) リスニング問題
- 第8回 Unit8 (1) 英文解釈 (2) 補充問題 (3) 書き換え問題 (4) リスニング問題
- 第9回 Unit9 (1) 英文解釈 (2) 補充問題 (3) 書き換え問題 (4) リスニング問題
- 第10回 Unit10 (1) 英文解釈 (2) 補充問題 (3) 書き換え問題 (4) リスニング問題
- 第11回 Unit11 (1) 英文解釈 (2) 補充問題 (3) 書き換え問題 (4) リスニング問題
- 第12回 Unit12 (1) 英文解釈 (2) 補充問題 (3) 書き換え問題 (4) リスニング問題
- 第13回 Unit13 (1) 英文解釈 (2) 補充問題 (3) 書き換え問題 (4) リスニング問題
- 第14回 Unit14 (1) 英文解釈 (2) 補充問題 (3) 書き換え問題 (4) リスニング問題
- 第15回 Unit15 (1) 英文解釈 (2) 補充問題 (3) 書き換え問題 (4) リスニング問題

科目名：英語コミュニケーション7				
英文名：English Communication 7				
担当者：石井 重光				
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

TOEFLやビデオの音声教材などを使い、リスニング能力を高める。さらに、TOEFLやSATのリーディング、ライティング問題もする。

■到達目標

- ・TV、ラジオのニュースや映画の英語を通して語彙力を高め、音声変化に習熟させることによってリスニング能力を高める。
- ・聞き取った内容について英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめて発表する能力を高める。
- ・TOEICテストで520点以上を目指す。

■教科書

プリント教材。

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（20%）、口頭発表及び課題（30%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

TOEFL教材、SAT教材、ビデオ教材を順次使用する。

科目名：英語コミュニケーション7				
英文名：English Communication 7				
担当者： ^{トミオカ} 富岡 ^{ミチコ} 美知子				
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

Time誌の記事を読み、その記事に関連のあるCNNのニュースを聞きます。
 ニュース英語の語彙力を伸ばし、リスニング力の向上を目指します。
 今日世界が直面している話題を取り上げ、楽しみながら、その話題に対してあなたの意見が表明できるように頑張りましょう。
 グループワークやペアワークを重視しますので、積極的にクラスに参加しましょう。
 実力をつけるためには、予習が不可欠です。

■到達目標

- ・TV、ラジオのニュースや映画の英語を通して語彙力を高め、音声変化に習熟させることによってリスニング能力を高める。
- ・聞き取った内容について英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめて発表する能力を高める。
- ・TOEICテストで520点以上を目指す。

■教科書

World Topics: from TIME Readings to CNN News Listening
 TimeとCNNで学ぶ総合英語
 Tom Power 編著 松柏社 ¥2000

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Introduction

第2回 Unit 1 Music for World Peace

第3回 Unit 1 Music for World Peace

第4回 Unit 1 Music for World Peace

第5回 Unit 2 Staying Single in Asia

第6回 Unit 2 Staying Single in Asia

第7回 Unit 3 Sports and Business

第8回 Unit 3 Sports and Business

第9回 Unit 4 Fighting Cancer

第10回 Unit 4 Fighting Cancer

第11回 Unit 5 The Human Cost of War

第12回 Unit 5 The Human Cost of War

第13回 Unit 6 Are Our Foods Healthy?

第14回 Unit 6 Are Our Foods Healthy?

第15回 Unit 6 Are Our Foods Healthy?

科目名：英語コミュニケーション8				
英文名：English Communication 8				
担当者：石井 重光				
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

TOEFLやビデオの音声教材などを使い、リスニング能力を高める。さらに、TOEFLやSATのリーディング、ライティング問題もする。

■到達目標

- ・TV、ラジオのニュースや映画の英語を通して語彙力を高め、音声変化に習熟させることによってリスニング能力を高める。
- ・聞き取った内容について英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめて発表する能力を高める。
- ・TOEICテストで520点以上を目指す。

■教科書

プリント教材。

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（20%）、口頭発表及び課題（30%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

TOEFL教材、SAT教材、ビデオ教材を順次使用する。

科目名：英語コミュニケーション8				
英文名：English Communication 8				
担当者： ^{トミオカ} 富岡 ^{ミチコ} 美知子				
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

英語コミュニケーション7に引き続き語彙力を伸ばし、リスニング力を向上することを目的としたクラスですが、このクラスでは教材に映画を取り上げます。アメリカの人気作家ポールオースターが脚本を書いた映画「スモーク」を使用します。ビデオを使って名作を楽しみながら、この映画に対してあなたの意見が発表できるように頑張りましょう。

■到達目標

- ・TV、ラジオのニュースや映画の英語を通して語彙力を高め、音声変化に習熟させることによってリスニング能力を高める。
- ・聞き取った内容について英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめて発表する能力を高める。
- ・TOEICテストで520点以上を目指す。

■教科書

Smoke by Paul Auster 松柏社 ¥1,750

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Introduction

第2回 Unit 1 Auggie and his regular customers

第3回 Unit 1 Paul --how his slump began

第4回 Unit 1 Rashid saves Paul's life

第5回 Unit 2 Vinnie, the owner of the Brooklyn Cigar Co.

第6回 Unit 2 Auggie's life's work

第7回 Unit 3 Aunt Em worries about Rashid

第8回 Unit 4 Cyrus gives Rashid a part-time job

第9回 Unit 5 Rashid tells Paul why he is hiding out

第10回 Unit 6 Ruby takes Auggie to meet Felicity

第11回 Unit 7 Auggie gives Rashid a job

第12回 Unit 8 Rashid spoils Auggie's Cuban cigars

第13回 Unit 9 Auggie gives Ruby \$5,000

第14回 Unit 10 Rashid and Cyprus start fighting

第15回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション9

英文名：English Communication 9

担当者：^{ミヤザキ ユウジ}宮崎 裕治

単 位：1単位

開講年次：2年次

開講期：前期

区 分：

必修選択の別：選択科目

■授業概要

外国人に身近な日本の話題を英語で説明することを通して、英語と日本語の表現の違いに慣れる。実際に表現を考えることから、コミュニケーション能力のアップさせる。日本の話題を学生に実際に英語で発表してもらう。

■到達目標

- ・エッセイ、新聞・雑誌の記事を速読する能力を高めるとともに、TV、ラジオのニュースなどを聞き取るリスニング能力を高める。
- ・読み取った内容や聞き取った内容について英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめて発表する能力を高める。
- ・TOEICテストで600点以上を目指す。

■教科書

Life Watch Japan (ライフウォッチ話してみたい!身近な日本)
ー Tamagawa Info Lab 朝日出版社 ¥1800

■参考文献

NHKラジオ「英会話レッツ・スピーク」

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■研究室・E-mailアドレス

e-mail:ugmiya@m4.kcn.ne.jp

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Kammidokoro (1)

第2回 Kammidokoro (2)

第3回 At a Cafeteria (1)

第4回 At a Cafeteria (2)

第5回 復習 (1)

第6回 Commuting (1)

第7回 Commuting (2)

第8回 At a Hair Salon (1)

第9回 At a Hair Salon (2)

第10回 復習 (2)

第11回 A Department Store Basement (1)

第12回 A Department Store Basement (2)

第13回 Fireworks (1)

第14回 Fireworks (2)

第15回 定期試験

科目名：英語コミュニケーション10				
英文名：English Communication 10				
担当者： ^{ミヤザキ} 宮崎 ^{ユウジ} 裕治				
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

外国人に身近な日本の話題を英語で説明することを通して、英語と日本語の表現の違いに慣れる。実際に表現を考えることから、コミュニケーション能力のアップさせる。日本の話題を学生に実際に英語で発表してもらう。

■到達目標

- ・エッセイ、新聞・雑誌の記事を速読する能力を高めるとともに、TV、ラジオのニュースなどを聞き取るリスニング能力を高める。
- ・読み取った内容や聞き取った内容について英語で概要・要点をまとめたり、自分の意見や感想をまとめて発表する能力を高める。
- ・TOEICテストで600点以上を目指す。

■教科書

Life Watch Japan (ライフウォッチ話してみたい！身近な日本)
 ー Tamagawa Info Lab 朝日出版社 ¥1800

■参考文献

NHKラジオ「英会話レッツ・スピーク」

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■研究室・E-mailアドレス

e-mail:ugmiya@m4.kcn.ne.jp

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 Throwing out the Garbage (1)
- 第2回 Throwing out the Garbage (2)
- 第3回 Shichi-Go-San Day (1)
- 第4回 Shichi-Go-San Day (2)
- 第5回 復習 (1)
- 第6回 Shopping (1)
- 第7回 Shopping (2)
- 第8回 Cell Phones (1)
- 第9回 Cell Phones (2)
- 第10回 復習 (2)
- 第11回 White Day (1)
- 第12回 White Day (2)
- 第13回 Going to Odaiba (1)
- 第14回 Going to Odaiba (2)
- 第15回 定期テスト

科目名： オーラルコミュニケーション1				
英文名： Oral Communication 1				
担当者： <small>グラント</small> <small>ピーター</small> ・ <small>トラスコット</small> <small>ジョージ</small> ・ <small>バンダビルト</small> <small>ステイーブン</small> ・				
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

さまざまな場面（挨拶、自己紹介、電話、買い物、食べ物の注文、道案内、予約、銀行、ホテル、病院、家族の話など）を設定し、基礎的な語彙を増やし、その用法を学ぶ。また、ロールプレイを演じることにより、言葉の機能（許可、依頼、招待、提案、予定、計画など）を学ぶ。

■到達目標

- ・ 日常会話に必要な基礎的語彙を増やし、その用法に習熟する。
- ・ さまざまな場面を設定し、ことばの機能を学ぶ。
- ・ ロールプレイを演じることにより基礎的な会話能力を身につける。

■教科書

最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■成績評価基準

口頭発表（50%）、小テスト（25%）、課題・レポート（25%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 授業の目標や説明、挨拶
- 第2回 自己紹介、飛行機内での会話
- 第3回 依頼、食べ物の注文
- 第4回 許可、目的の説明
- 第5回 銀行での話、数字、数えること
- 第6回 ホテルでの会話、提案
- 第7回 道案内
- 第8回 復習レッスン
- 第9回 学生の発表
- 第10回 電話の会話、招待、ホームステイ
- 第11回 病院での会話
- 第12回 予定、予約、計画
- 第13回 レストランでの注文
- 第14回 家族の話
- 第15回 試験

科目名： オーラルコミュニケーション2				
英文名： Oral Communication 2				
担当者： グラント ピーター・トラスコット ジョージ・バンダビルト ステイーブン・				
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

さまざまな場面（挨拶、自己紹介、電話、買い物、食べ物の注文、道案内、予約、銀行、ホテル、病院、家族の話など）を設定し、基礎的な語彙を増やし、その用法を学ぶ。また、ロールプレイを演じることにより、言葉の機能（許可、依頼、招待、提案、予定、計画など）を学ぶ。

■到達目標

- ・日常会話に必要な基礎的語彙を増やし、その用法に習熟する。
- ・さまざまな場面を設定し、ことばの機能を学ぶ。
- ・ロールプレイを演じることにより基礎的な会話能力を身につける。

■教科書

最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■成績評価基準

口頭発表（50%）、小テスト（25%）、課題・レポート（25%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 夏休みについての話

第2回 外食、チップなどの習慣のこと

第3回 好き嫌い、趣味

第4回 相手の意見を尋ねる

第5回 ホームステイでの話、日本について

第6回 旅行、交通

第7回 買い物

第8回 復習レッスン

第9回 学生の発表

第10回 郵便

第11回 情報の尋ね方

第12回 感謝、感情

第13回 空港、総合復習

第14回 学生の発表

第15回 試験

科目名：オーラルコミュニケーション3

英文名：Oral Communication 3

担当者：ロジャース コリン・メルヴィルレイ ウィリアム・ウィツエッド クレイグ・

単 位：1単位

開講年次：2年次

開講期：前期

区 分：

必修選択の別：選択科目

■授業概要

身近なトピック（家族、住まい、音楽、スポーツ、友達、テレビ、仕事、休回、学生生活、など）について聞いたり、読んだりしたことを口頭で説明したり、自分の意見や感想をつけ加えて発表したり、簡単なディスカッションを行うことによって、会話力を更に伸ばす。また、簡単なスピーチ、ディベートの練習も行う。

■到達目標

- ・身近なトピックについて聞いたり、読んだりしたことを口頭で説明出来る。
- ・自分の意見や感想をつけ加えて発表出来る。
- ・簡単なディスカッションを行う能力を身につける

■教科書

最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■成績評価基準

口頭発表（50%）、小テスト（25%）、課題・レポート（25%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 授業の目標や説明、挨拶

第2回 自己紹介、自叙伝の書き方

第3回 自叙伝の口頭発表

第4回 物の描写について

第5回 物の描写の口頭発表

第6回 場所の描写について

第7回 場所の描写の口頭発表

第8回 人の描写について

第9回 人の描写の口頭発表

第10回 プロセスについて

第11回 プロセスの口頭発表

第12回 復習レッスン：スキットと創作

第13回 復習レッスン：スキットの準備

第14回 スキットの口頭発表

第15回 試験

科目名： オーラルコミュニケーション4				
英文名： Oral Communication 4				
担当者： ロジャース コリン・メルヴィルレイ ウィリアム・ウィツエッド クレイグ・				
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

身近なトピック（家族、住まい、音楽、スポーツ、友達、テレビ、仕事、休暇、学校生活など）について聞いたり、読んだりしたことを口頭で説明したり、自分の意見や感想をつけ加えて発表したり、簡単なディスカッションを行うことによって、会話力を更に伸ばす。また、簡単なスピーチ、ディベートを行う。

■到達目標

- ・身近なトピックについて聞いたり、読んだりしたことを口頭で説明出来る。
- ・自分の意見や感想をつけ加えて発表出来る。
- ・簡単なディスカッションを行う能力を身につける

■教科書

最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■成績評価基準

口頭発表（50%）、小テスト（25%）、課題・レポート（25%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 夏休みについての話

第2回 物語のナレーションについて

第3回 物語のナレーションの口頭発表

第4回 比較/対照について

第5回 比較/対照のディベート及びスキットの準備

第6回 比較/対照のディベート及びスキットの発表

第7回 原因/結果について

第8回 原因/結果の口頭発表及びスキットの発表

第9回 日本文化についての発表のための準備

第10回 日本文化についての口頭発表

第11回 日本語についての発表のための準備

第12回 日本語についての口頭発表

第13回 自由なトピックの発表の準備

第14回 自由なトピックの口頭発表

第15回 試験

科目名： **オーラルコミュニケーション5**

英文名： Oral Communication 5

担当者： **ホーキング マーク**

単 位： 1単位

開講年次： 3年次

開講期： 前期

区 分：

必修選択の別： 選択科目

■授業概要

外国文化のトピックに関する話を聞いたり、読んだりして、ディスカッションやディベートに参加して、日本と他国の比較について口頭発表する。また、専門分野に関する記事を読んだり、聞いたりして、その話題についてディスカッションやディベートやプレゼンテーションを行う。

■到達目標

・外国の異文化のトピックに関する話を聞いたり、読んだりして、ディスカッションやディベートに参加し、口頭発表が出来る。
・専門分野に関する記事を読んだり、聞いたりして、その内容についてディスカッションやディベートやプレゼンテーションを行う能力を身につける。

■教科書

最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■成績評価基準

口頭発表 (50%)、小テスト (25%)、課題・レポート (25%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 授業の目標や説明、挨拶

第2回 家族について

第3回 食べ物について

第4回 時に関する表現について

第5回 住まいについて

第6回 音楽について

第7回 交通について

第8回 スポーツについて

第9回 数について

第10回 友達について

第11回 テレビについて (1)

第12回 テレビについて (2)

第13回 休暇について

第14回 学校について

第15回 試験

科目名： オーラルコミュニケーション6				
英文名： Oral Communication 6				
担当者： ホーキング マーク				
単 位： 1単位	開講年次： 3年次	開講期： 後期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

外国文化のトピックに関する話を聞いたり、読んだりして、ディスカッションやディベートに参加して、日本と他国の比較について口頭発表する。また、専門分野に関する記事を読んだり、聞いたりして、その話題についてディスカッションやディベートやプレゼンテーションを行う。

■到達目標

- ・外国の異文化のトピックに関する話を聞いたり、読んだりして、ディスカッションやディベートに参加し、口頭発表が出来る。
- ・専門分野に関する記事を読んだり、聞いたりして、その内容についてディスカッションやディベートやプレゼンテーションを行う能力を身につける。

■教科書

最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■成績評価基準

口頭発表 (50%)、小テスト (25%)、課題・レポート (25%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 夏休みについての話

第2回 映画について

第3回 お金について

第4回 外食について

第5回 動物について

第6回 買い物について

第7回 健康について

第8回 ファッションについて

第9回 旅行について

第10回 読書について

第11回 祭日について

第12回 デートと結婚について

第13回 信じる/信じない

第14回 法律について

第15回 試験

科目名： 基礎生物学英語				
英文名： Basic Biological English				
担当者： <small>カワバタ アツフミ</small> 川畑 篤史				
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期：	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

薬学部において、医療薬学あるいは基礎薬科学を学ぶ上で、英語の読解力、表現力を身につけておくことは必要不可欠である。この授業では、生物学あるいは薬学基礎領域に関連する記事、解説、論評を英字新聞、英字雑誌より抜粋したものや英文洋書の一部を題材として、生物系英語の読解力、表現力を習得する。

■到達目標

生物系、医療系一般科学記事、英文洋書を読解する能力を養う。

■教科書

適宜プリントを配布する。英和辞典を持参すること。

■参考文献

「ドーランド図説医学大辞典」ドーランド医学大辞典編集委員会 編集（廣川書店）
「英語論文によく使う表現」崎村耕二 著（創元社）

■関連科目

基礎化学英語

■試験方法

小テスト、定期試験

■成績評価基準

原則として、平常点、試験の総合得点が60点以上の場合、合格とする。

■授業評価実施方法

成績は、平常点50%（出席状況、発表、レポートなど）、試験50%（小テストと定期試験）で評価する。

■研究室・E-mailアドレス

生体機能病因解明学研究室・kawabata@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月～土曜日、午前9時～午後6時。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 生物系でもちいられる英語表現I

標記に関する題材をプリントとして配布し、講義、演習形式で学習する。

第2回 生物系でもちいられる英語表現II

標記に関する題材をプリントとして配布し、講義、演習形式で学習する。

第3回 生物系でもちいられる英語表現III

標記に関する題材をプリントとして配布し、講義、演習形式で学習する。

第4回 一般向け医学関連記事の読解I：エイズ

標記に関する題材をプリントとして配布し、講義、演習形式で学習する。

第5回 一般向け医学関連記事の読解II：癌

標記に関する題材をプリントとして配布し、講義、演習形式で学習する。

第6回 一般向け医学関連記事の読解III：遺伝子治療

標記に関する題材をプリントとして配布し、講義、演習形式で学習する。

第7回 一般向け医学関連記事の読解Ⅳ：生活習慣病

標記に関する題材をプリントとして配布し、講義、演習形式で学習する。

第8回 中間試験

第9回 医学洋書読解I: 神経伝達物質

標記に関する題材をプリントとして配布し、講義、演習形式で学習する。

第10回 医学洋書読解II: 受容体

標記に関する題材をプリントとして配布し、講義、演習形式で学習する。

第11回 医学洋書読解III: ホルモン

標記に関する題材をプリントとして配布し、講義、演習形式で学習する。

第12回 医学洋書読解IV: 交感神経

標記に関する題材をプリントとして配布し、講義、演習形式で学習する。

第13回 医学洋書読解V: 副交感神経

標記に関する題材をプリントとして配布し、講義、演習形式で学習する。

第14回 医学洋書読解VI: 中枢神経

標記に関する題材をプリントとして配布し、講義、演習形式で学習する。

第15回 定期試験

科目名：基礎化学英語				
英文名：Elementary Chemical English				
担当者：クワジマ ヒロシ 桑島 博				
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

大学院進学志望者はいうまでもなく、薬学生が将来携わる実際の医療現場において、海外の幅広い情報を的確かつ迅速に理解するために、英語の読解力を養うことが必須となる。本講義は、自然科学分野で使用頻度の高い学術用語および表現法について幅広く学び、英語の読解力を養うことを目的とする。基礎編では、化学英語で頻出するイディオムに慣れ、さらに、応用編では、薬学の専門的な英文にふれながら、化学英語の基本的な様相を把握できるよう講義をすすめていく。

■教科書

- 「化学英語読本」宮野成二 編（廣川書店）、2625円
- その他に、プリントを配布する

■参考文献

- 「わかりやすい薬学英语」伊藤智夫 他著（廣川書店）
- 「例文を中心とした薬学英语」小倉治夫 監修（廣川書店）

■関連科目

天然物薬化学、有機化学系科目

■試験方法

(種類) 定期試験、臨時試験、小テスト (随時)
(方法) 記述式

■成績評価基準

平常点50% (出席、授業参加、小テスト、提出物などを含む)、試験50%で決定する。出席率が65%に満たない学生は、成績評価の対象外とすることがある。

■授業評価実施方法

実施時期：授業回数第13回
所要時間：15分

■研究室・E-mailアドレス

e-mail: kuwajima@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

随時 (ただし、実習期間中は、実習終了後)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 基礎編 1、化合物の英語による表現と発音

〈項目・内容〉有機化合物名は例えば、“アルコール”、“エーテル”など、ドイツ語読みでそのまま日本語として表現されている例が多い。英語では“アルコール”、“イーサー”と発音することを、カセットテープによるヒアリングで習得する。

〈到達目標〉化合物名の英語による表現と発音に慣れる。

第2回 基礎編 2、慣用名とIUPAC名の表現法。

〈項目・内容〉化合物の名は起源に基づいて命名される場合が多く、例えば、酢酸 acetic acid はラテン語の食酢 acetum に由来する。“IUPAC命名法”では化合物を接頭語 (置換基の位置) - 母体名 (炭素数) - 接尾語 (群) の三部分に分け、系統的に命名する規則であるから、酢酸はエタン酸 (ethanoic acid) と命名される。

〈到達目標〉英語による慣用名 trivial name と IUPAC 名 (IUPAC nomenclature system) の表現力を理解できる。

第3回 基礎編 3、よく使われるイデオムの実例 1

〈項目・内容〉第3～第5回にわたり、化学論文で汎用されるイデオムを学ぶ。さらに、実例を通して化学反応や機構についても解説する。

〈到達目標〉化学英語で汎用されるイデオムを習得できる。

第4回 基礎編 4、よく使われるイデオムの実例 2

〈項目・内容〉

第5回 基礎編 5、よく使われるイデオムの事例 3

〈項目・内容〉

第6回 応用編 1、有機化学英語の表現法 (その1) : 「The Beckmann Rearrangement」

〈項目・内容〉 Benzophenone oxime を五塩化リンと反応させると benzanilide を生成することが Beckmann により発見された。一般に oxime を amide に変換する反応をベックマン転位反応 Beckmann Rearrangement という。3年次の「有機・医薬品化学実習」でこの反応を利用して、acetophenone oxime から acetanilide を合成している。本講義では、用いる酸触媒の種類や反応機構について理論的な側面も解説する。

〈到達目標〉 英文の実例を通して、Beckmann 転位反応に用いる触媒や反応機構について理解できる。

第7回 応用編 2、有機化学英語の表現法 (その2) : 「The Claisen Condensation」

〈項目・内容〉 塩基性触媒下エステルと活性メチレンを有する化合物 (ester, aldehyde, ketone, nitrile) との反応を Claisen 縮合と呼んでいる。本反応で用いる触媒の種類や反応例を、英文を介して、反応機構と共に解説する。

〈到達目標〉 英文の実例を通して、Claisen 縮合反応に用いる触媒や反応機構について理解できる。

第8回 臨時試験

第9回 応用編 3、アルカロイド (その1)

〈項目・内容〉 アルカロイドの概念を説明し、次いで具体的な化合物 nicotine、quinine および reserpine の各含有植物や生物活性および構造決定法についての専門的な表現法を2回にわたり解説する。

〈到達目標〉 第9回、10回の講義から、各アルカロイドの化学的性質、基本骨格、含有植物、生物活性および確認試薬など、英文を通して整理・理解できる。

第10回 応用編 4、アルカロイド (その2)

〈項目・内容〉

第11回 応用編 4、Chemotherapy of Cancer : 抗がん剤 (その1)

〈項目・内容〉 Sarcoma (肉腫)、neoplasm (悪性腫瘍)、leukemia (白血病) など、がんに関連する英単語、「アルキル化剤」、「代謝阻害剤」「天然物由来」の各種抗がん剤を4回シリーズで解説する。

〈到達目標〉 がんに関連する英単語、代表的な抗がん剤を習得できる。

第12回 応用編 5、Chemotherapy of Cancer : 抗がん剤 (その2)

〈項目・内容〉

第13回 応用編 6、Chemotherapy of Cancer : 抗がん剤 (その3)

〈項目・内容〉

第14回 応用編 7、Chemotherapy of Cancer : 抗がん剤 (その4)

〈項目・内容〉

定期試験

科目名： イングリッシュカルチャーセミナー 1				
英文名： English culture seminar 1				
担当者： ^{イノウエ} 井上 ^{マサコ} 雅子				
単 位： 1単位	開講年次： 3年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

James Joyceの初期作品『ダブリン市民』の精読作業を通して授業を進める。積極的な授業参加が必須である。

■到達目標

英語圏の文化に関する基礎的な情報を理解し、英語で書かれた新聞、雑誌、インターネット上の今日的话题について概要・要点を理解する能力を身につける。また、そうした情報に関して自己の意見を述べたり、議論できる能力を身につける。

■教科書

James Joyce 著,安藤一郎他編著『ダブリン市民』、朝日出版社

■参考文献

授業時に指示する。

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

テキストに沿って、Araby, Eveline, The Boarding House,

Clay, A painful Caseの5編を精読する。

それぞれジョイスの少年期から青年期にわたる多感な時期に書かれた作品であり、学生諸君の繊細な感性で、そのテーマを深く感じとって欲しい。

授業では、作品理解の背景となる文化的側面についても論じるが、授業の中心は、20世紀最大といっても過言ではない作家、ジョイスの情緒あふれる表現の理解と解釈である。当然のことながら、十分な予習授業準備が必要とである。

科目名： イングリッシュカルチャーセミナー 1				
英文名： English culture seminar 1				
担当者： <small>カネル</small> <small>キムロバート</small> カネル キムロバート				
単 位： 1単位	開講年次： 3年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

受講者はアメリカや他の異文化のトピックに関する話を聞いたり、読んだり、ディスカッションやディベートに参加して、日本と欧米を比較した口頭発表をする。

■到達目標

英語圏の文化に関する基礎的な情報を理解し、英語で書かれた新聞、雑誌、インターネット上の今日的话题について概要・要点を理解する能力を身につける。また、そうした情報に関して自己の意見を述べたり、議論できる能力を身につける。

■教科書

最初の授業で指示する

■試験方法

定期試験、小テスト

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (20%)、口頭発表及び課題 (30%)

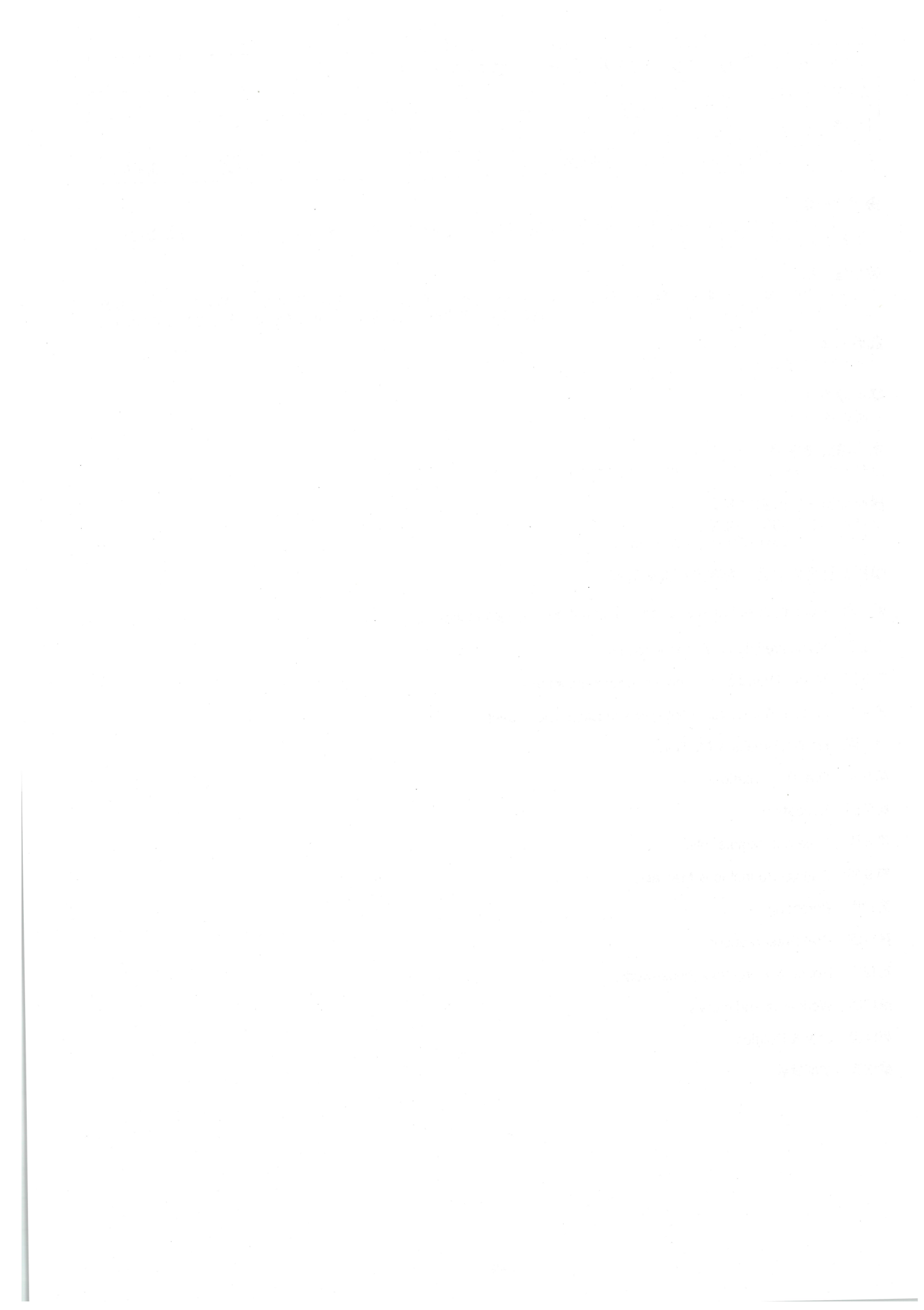
■研究室・E-mailアドレス

研究室： 11号館3階 342号室

Eメール： kimkanel@msa.kindai.ac.jp

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 Course Description and requirements-Language and culture
- 第2回 Values:religion,fashion,friendship
- 第3回 Media:TV,radio,magazines,newspapers,Internet
- 第4回 Leisure & Entertainment:sports,music,movies,travel
- 第5回 Health,Fitness & Medicine
- 第6回 Oral Presentations
- 第7回 Education
- 第8回 Male and female roles
- 第9回 Dating, Courtship & Marriage
- 第10回 Parenting
- 第11回 Oral Presentations
- 第12回 House & Home:food,housework
- 第13回 Work:time and money
- 第14回 Law & Politics
- 第15回 定期試験



外国語科目

(初修)

目錄

(附錄)

初修外国語履修案内

二十一世紀を迎え、私たちはこれからどのような世界に生きていくのでしょうか。コンピューターやバイオテクノロジーをはじめとする最先端の科学技術の進歩が、さらに便利で快適な生活をもたらしてくれるのでしょうか。輸送手段と通信手段の驚異的な発達、人や物の地球規模での移動と交流を今後ますます活発にし、いよいよ世界が一つに結ばれることになるのでしょうか。人類は長い間このようなユートピアを追い求め、それを実現するために計りしれないほどの時間と労力を費やしてきました。そしてたしかに、一面ではこの夢に近づきつつあるようにも見えます。しかし、ここで忘れてはいけないことがあります。それは人間がやはり画一的な機械ではなく、それぞれがおのれ自身の血と肉と精神をそなえた個性を有する生き物であるという絶対に揺るがせない事実です。効率と利便性を競う技術革新の進展によって、二十一世紀の社会では多くの分野で画一化、統一化の動きが加速することが予想されます。しかしその一方で、精神的・文化的な方面では、人間の本質である自由と創造力があらためて見直され、その結果として人々の関心は、むしろ従来以上に多様性と個性へと向かうことも考えられるのではないのでしょうか。

みなさんご承知のように、わが国では「国際化」「グローバル化」という言葉が時代のスローガンとしてもてはやされています。また、これにともない、外国語学習への関心が高まり、最近では学校で学習する以外にさらに専門語学学校に通ったり、語学習得の目的で外国に留学する人も増えています。このような現象そのものは歓迎すべきことなのでしょうが、ただ、しばしば指摘されるように、その際にあまりにも「英語」および「英語圏の国々」ばかりに人々の関心が偏りすぎている点に大きな問題が潜んでいます。おそらくここには、私たち日本人の多くが自分たち自身に対して無意識の内に抱いている「単一民族」「単一言語」という幻想が、「英語」＝「国際語」というあまりにも単純化された図式にそのまま反映されていると言わざるを得ません。しかも不幸なことに、わが国では高校まで学べる外国語はほとんど選択の余地なく英語であり、このように世界の先進諸国の中でも珍しい状況が、私たちの意識の固定化に甚大な影響を与えています。

たしかに、今や英語は人々がコミュニケーションをするための重要な手段であることは否定できません。しかし、外国語の学習の目的は、英会話の能力さえ身につければそれで達成されたことになるのでしょうか。たとえ日本人同士であっても、おたがいに相手の立場を理解していかなければ、本当のコミュニケーションなど成立しないことを、私たちは普段の経験から知っています。これと同じことが「外国人」との交流にも当てはまるでしょう。つまり、真の意味での国際感覚を身につけた人とは、何よりもまず相手の個性を尊重する人でなければならないでしょう。自然にはまったく同じものなど存在しません。この地球上には何十億という人々が生き、数千とも言われる実にさまざまな言語が混在しています。しかも、どの言語にもそれぞれの歴史があって、またそれを使用してきた人々が嘗々と育んできた独自の文化がその背景にあります。人々は同じ人類の一員であると同時に、それぞれが異なる文化圏に所属している無数の異なる個性でもあるのです。この事実を真剣に受けとめるならば、外国語の学習においても便利さや効率のみを唯一の規準に据えるやり方が、生きた言葉を学ぶという目的に対して、それ自体どれほど著しい矛盾をはらんでいるかは明らかです。これからみなさんは新たに外国語を学習されるわけですが、それは初めての土地を旅行する時と同じように、新鮮な驚きと不思議な感動に満ちたものである

にちがいありません。みなさんは、未知の言語にふれるという貴重な経験を通して、外国語を学ぶ本来の喜びをあらためて味わうことができるとともに、私たちが生きる世界が多種多様であるがゆえによりいっそう豊かでもあることを肌で実感できるでしょう。まさにこの実感こそが自己の国際化への確実な第一歩となるはずです。

初修外国語各科目のガイドライン

「ドイツ語・フランス語・中国語 基礎1、基礎2」

読み・書き・話すための基礎をつくる。辞書を使って簡単な文章を読めるようにする。挨拶や自己紹介などの文が書けるようにする。旅行先などでの簡単な会話ができるようにする。基礎文法は、「基礎1」「基礎2」で完成し、ドイツ語は「独検4級」、フランス語は「仏検5～4級」、中国語は「中検準4～4級」に相当する語学力をつける。

「ドイツ語・フランス語・中国語 応用1、応用2」

「基礎1」および「基礎2」で学んだ知識を発展させ、初級の語学力を完成させる。辞書を使ってやや複雑な文章を読めるようにする。手紙などの簡単な作文ができるようにする。場面に対応した簡単な実用会話ができるようにする。「応用1」「応用2」では、総合的な演習を積み重ねることによって、ドイツ語は「独検4～3級」、フランス語は「仏検4～3級」、中国語は「中検4～3級」に相当する語学力をつける。

初修外国語各科目の履修上の注意

1. 各科目はすべてそれぞれの指定クラスで受講しなければなりません。
2. 各クラスの定員は50名です。
3. 第1回目の授業で受講生を確定します。希望の外国語を受講できない場合は、次年度に受講するか、あるいは、他の外国語を受講してください。
4. 初年度の「基礎1」と「基礎2」は原則として同一外国語を継続して履修すること。
5. 「基礎1」、「基礎2」を履修した学生は、2年次で同じ外国語の「応用1」、「応用2」を履修することが望ましい。
6. 第3外国語を履修する者は、2年次で「基礎1」、「基礎2」を受講できる。

ドイツ語

ドイツ語について

ドイツ語は現在ドイツ連邦共和国以外に、オーストリア、リヒテンシュタイン、そしてスイスの約7割の地域の公用語として約1億人の人々に使用されています。したがって言葉と文化そして風土という観点からドイツを考える場合は、ヨーロッパのほぼ中央に広がる地域社会全体を念頭に描く必要があります。つまり、これらの地域はドイツ語という言語を介して歴史や文化の面で政治行政上の国境を越えた大きな共通性を有するドイツ語圏を形成しています。

さてドイツ語と日本人のかかわりは明治以後の近代化政策とともに始まりました。ドイツを手本として国の制度を整え、医学や化学、思想や音楽をはじめとする当時の先進の学術文化を学び取ろうとした先人達の努力は、たとえば、エネルギー、ゼミナール、アルバイトなどの、現在では私たちの日常生活にすっかり定着したドイツ語の単語からうかがうことができます。ご存知のように、ドイツは日本と同様に第二次世界大戦で敗戦国となり、しかも東西冷戦の中で長い間分断されてきました。統一ドイツの成立は、そのような苦難の歴史の末によりやく達成されたものでした。ヨーロッパの統合が進められ、ますます人々の交流が活発になりつつある現在、今後ドイツ語圏の国々は、地理的にも経済的にもヨーロッパの要として、ますます重要な役割を果たしていくことになるでしょう。

ところで、おそらく日本人がドイツの国民性に対して持っている印象のせいでしょうが、一般にドイツ語は「何となく難しそうだ」と思われているようです。もちろん、ドイツ語は私たち日本人が学ぶのに決してやさしい言語ではありませんが、これはドイツ語にかぎらず、英語をはじめとして、いわゆる外国語全般について言えることです。ただし、ドイツ語の場合、みなさんがこれまでに学んでこられた英語と同じゲルマン語に属する言語ですから、両言語には文法や語彙に共通するところが多く、すでにある英語の知識を大いに活かすことができます。また、発音や造語法など非常に規則的で例外が少ないために、この面ではむしろ英語よりもやさしいと言えるかもしれません。何はともあれ、この機会を積極的に活用して新しい外国語の習得をめざしてがんばろうではありませんか。

<辞書参考書>

辞書には様々なタイプものがあります。担当の先生の説明を聞いて適当なものを選んでください。以下に初心者向けの主なものを挙げておきます。

「アクセス独和辞典」三修社 「新アポロン独和辞典」同学社

「クラウン独和辞典」三省堂 「マイスター独和辞典」大修館

「プログレシブ独和辞典」小学館

また、月刊「基礎ドイツ語」(三修社)には、ドイツ語に関する記事の他、ドイツ語圏の文化事情などの様々な情報が紹介されています。

ドイツ語クラス担当者一覧

クラス名	担当者名
基礎a	村上悦雄
基礎b	十河健二
基礎c	安部裕文
(再)基礎	荒木英行
応用	平岡由美子

科目名：ドイツ語基礎1				
英文名：Basic German 1				
担当者： ^{アベ} 安部 ^{ヒロフミ} 裕文・ ^{ムラカミ} 村上 ^{エツオ} 悦雄・ ^{ソゴウ} 十河 ^{ケンジ} 健二・ ^{アラキ} 荒木 ^{ヒデユキ} 英行				
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：前期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

日常の具体的な生活場面で用いられる易しい会話表現の聞き取り、発音。内容理解と応用文章表現に必要な語彙と文法事項の説明、確認のための練習。次の授業では前回の要点を簡単に復習してから、新しいテーマに取り組みます。

■到達目標

- ・挨拶、自己紹介など日常的な表現を身につける。
- ・発音・文法の基礎事項を習得する。
- ・語彙数：200語程度

■教科書

荻野蔵平/Andrea Raab 著 『ベルリン・キャンパスライフ』（CD付き）朝日出版社

■参考文献

独和辞典（「ドイツ語について」に紹介）、参考書については担当者から説明があります。

■関連科目

ドイツ語基礎 2 ドイツ語応用1・2

語学センター開講科目：「ドイツ語初級インテンシブ」「ドイツ語中級回座」「ドイツ語初級会話」「ドイツ語中級会話」

■試験方法

定期試験、平常小テスト（記述式、発音、聞き取り等）

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（3回以上）（30%）、課題・レポート（20%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ドイツ・ベルリン紹介

ベルリン中心部、アルファベット、発音と綴りの原則。

第2回 注意すべき発音

母音と子音の発音

発音練習：数詞、四季、月名、曜日名。

第3回 Dialog：学生食堂にて－1. 動詞の現在人称変化

Dialog:発音と聞き取り、動詞の現在人称変化（規則変化）

定動詞の位置（平常文と疑問文）、重要動詞：sein、haben

練習問題

第4回 Dialog：学生食堂にて－2. 動詞の現在人称変化、小テスト。

応用表現：聞き取りと口頭練習、応用練習問題

発音・表現：挨拶、国名、小テスト。

第5回 Dialog：学生課で－1. 名詞の性と冠詞

Dialog:発音と聞き取り、名詞の性と定冠詞・不定冠詞。

名詞の複数形、練習問題。

第6回 Dialog：学生課で－2. 名詞の性と冠詞

応用表現：聞き取りと口頭練習、応用練習問題。

発音・表現：お礼、価格、通貨。

第7回 Dialog：講義風景-1. 不規則な現在人称変化の動詞

Dialog:発音と聞き取り. 不規則な現在人称変化の動詞. 命令形.
人称代名詞. 疑問代名詞. 練習問題.

第8回 Dialog: 講義風景-2. 不規則な現在人称変化の動詞. 小テスト.

応用表現: 聞き取りと口頭練習. 応用練習問題.
発音・表現: 質問・紹介. 都市名. 小テスト.

第9回 総合復習.

Dialog: 「学生食堂にて」. 「学生課で」. 「講義風景」.
文章表現読解練習.
知識の確認: 動詞の現在人称変化. 名詞の性と冠詞.
人称代名詞. 疑問代名詞.

第10回 Dialog: 大学図書館で-1. 前置詞の格支配.

Dialog: 発音と聞き取り. 前置詞の格支配.
前置詞と定冠詞・代名詞の融合形.
練習問題.

第11回 Dialog: 大学図書館で-2. 定冠詞類・不定冠詞類

応用表現: 聞き取りと口頭練習. 応用練習問題.
発音・表現: 返事. 印刷物.

第12回 Dialog: 学生寮で-1. 接続詞と文構造. 小テスト

Dialog: 発音と聞き取り. 接続詞と文構造. 分離・非分離動詞.
練習問題. 小テスト.

第13回 Dialog: 学生寮で-2. 接続詞と文構造

応用表現: 聞き取りと口頭練習. 応用練習問題.
発音・表現: 時刻. 天気

第14回 文構造. 時刻・天気の応用表現

副文の構造. 時刻・天気の応用表現 (聞き取り・発音練習).
総合復習

第15回 定期試験

科目名：ドイツ語基礎2				
英文名：Basic German 2				
担当者：村上悦雄・十河健二・安部裕文・荒木英行				
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：後期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

授業の進め方は基礎1のそれを継続していく。基礎2では、さらに幅広い表現力と理解力を身につけることを目指した応用練習を加えていく。

■到達目標

- ・衣食住、家族関係など、一日の行動に必要な日常会話能力を身につける。
- ・簡単な読み書きが出来るための文法事項を習得する。
- ・語彙数： 500語程度
- ・検定基準： 4級程度

■教科書

荻野蔵平/AndreaRaab 著 『ベルリン・キャンパスライフ』（CD付き） 朝日出版社

■参考文献

独和辞典（「ドイツ語について」に紹介）、参考書について担当者から説明があります。

■関連科目

ドイツ語基礎1 ドイツ語応用1・2

語学センター開講科目：「ドイツ語初級インテンシブ」「ドイツ語中級回座」「ドイツ語初級会話」「ドイツ語中級会話」

■試験方法

定期試験、平常小テスト（記述式、発音、聞き取り等）

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（3回以上）（30%）、課題・レポート（20%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 総合復習・応用練習

基礎知識の確認と応用練習

第2回 Dialog:ベルリン散歩－1. 形容詞の用法（1）

Dialog:聞き取りと発音. 形容詞の各変化・名詞化.
比較変化と比較表現. 練習問題.

第3回 Dialog:ベルリン散歩－2. 形容詞の用法（2）

応用表現：聞き取りと口頭練習
応用練習問題
発音・表現：飲食店.対比の形容詞.

第4回 総合応用復習. 小テスト

飲食店での表現：聞き取りと発音
文章表現読解：「大学図書館で」.「学生寮で」.「ベルリン散歩」.
小テスト

第5回 Dialog:履修相談-1. 語法・未来の助動詞（1）

Dialog:発音と聞き取り. 助動詞の人称変化.
助動詞の意味と文構造. 練習問題.

第6回 Dialog:履修相談-2. 語法・未来の助動詞（2）

応用表現：聞き取りと口頭練習. 応用練習問題.
発音・表現：許可・禁止・職業.

第7回 Dialog:チューターのアドバイスー1. 動詞の三基本形

Dialog:発音と聞き取り.
動詞の三基本形:不定詞・過去基本形・過去分詞.
規則動詞・不規則動詞. 分離動詞・非分離動詞.
練習問題.

第8回 Dialog:チューターのアドバイスー2. 小テスト

応用表現:聞き取りと口頭練習. 応用練習問題. 過去人称変化.
小テスト.

第9回 過去と現在完了ー1.

現在完了の用法. 表現練習:聞き取り・対話. 練習問題.

第10回 過去と現在完了ー2.

応用表現:聞き取り・口頭練習. 年号・日付.

第11回 Dialog:学生寮コンパー1. 再帰動詞.

Dialog:発音と聞き取り. 再帰動詞と再帰代名詞. 練習問題.

第12回 Dialog:学生寮コンパー2. 小テスト

応用表現:聞き取りと口頭練習. 応用練習問題.
発音・表現:人の関係・祝祭日. 小テスト.

第13回 総合応用表現-1. zu 不定詞の用法

応用表現:聞き取りと口頭練習. 応用練習問題: zu 不定詞.

第14回 総合応用表現-2. 関係文

関係代名詞の用法. 関係文(副文の構造. 複合文の構造と表現).

第15回 定期試験

科目名：ドイツ語応用1				
英文名：Intermediate German 1				
担当者：平岡 ^{ヒラオカ} 由美子 ^{ユミコ}				
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

「基礎」で学んできた基本単語、基本的な会話表現、文法の要点を復習し、基礎的知識の確認と補完を繰り返しながら、より豊かな会話の表現力と読解力の養成に重点を置いた総合的な力を養うことを目指します。授業では、会話と読章のテキストに従って文法的な要点を復習、確認し、各場面で使われている語彙や表現の聞き取り、発音、応用練習を重ねながら生きた表現を身につけていきます。またテキストの内容に関連して、ドイツ語圏の国々の生活習慣や現状についての関心も高めていく。

■到達目標

- ・意見や感想などを正確に表現できる。
- ・文法・文型の一般事項を習得し、長い文の要旨を把握できる。
- ・語彙数： 1000語程度
- ・検定基準： 3級程度

■教科書

三室次雄 著 「ドイチュ・プラクティシュ<ロート>」(CD付き) 三修社

■参考文献

独和辞典(「ドイツ語について」に紹介)、参考書について担当者から説明があります。

■関連科目

「ドイツ語基礎1・2」「ドイツ語応用2」

語学センター開講科目：「ドイツ語初級インテンシブ」「ドイツ語中級」、「ドイツ語会話初級」、「ドイツ語会話中級」

■試験方法

定期試験、平常小テスト(記述式、発音、聞き取り等)

■成績評価基準

定期試験(50%)、小テスト(3回以上)(30%)、課題・レポート(20%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 基礎知識の確認と復習(1)

Kennen Sie Deutschland?(ドイツについての基本的な知識確認)
聞き取り練習、発音、綴りの読み方の確認と練習

第2回 基礎知識の確認と復習(2)

Dialog (Auf der Strasse) (通りでの会話)
不定詞と定動詞、不定詞句、疑問詞の復習と応用練習

第3回 基礎知識の確認と復習(3)

Dialog (An der Uni) (大学で)による発音・聞き取り練習
Lesetext (ドイツの外国人留学生)による読解・応用練習
主文の構造(定動詞の位置)、基数(1)の復習

第4回 Studentenleben (学生生活)

Dialog (Studentenleben) (学生生活)による発音・聞き取り練習
Lesetext (ドイツの学生寮)による読解・応用練習
冠詞と名詞、基数(2)の復習
小テスト

第5回 Eine Reise nach Spanien (スペイン旅行) 1

Dialogによる発音・聞き取り練習
複数形、不規則動詞の再確認

第6回 Eine Reise nach Spanien (スペイン旅行) 2

Lesetextによる読解・応用練習
従属接続詞の用法、副文の構造練習
四季名、曜日名の確認

第7回 Motorrad oder Wagen 1

Dialogによる発音・聞き取り練習
定冠詞類、不定冠詞類の用法

第8回 Motorrad oder Wagen 2

Lesetextによる読解・応用練習
人称代名詞、非人称主語の用法
金額の表現練習
小テスト

第9回 Freizeit und Wochenende 1

Dialogによる発音・聞き取り練習
前置詞の用法

第10回 Freizeit und Wochenende 2

Lesetextによる読解・応用練習
前置詞と定冠詞の融合形
月名の確認

第11回 Zimmersuche 1

Dialogによる発音・聞き取り練習
形容詞の格変化

第12回 Zimmersuche 2

Lesetextによる読解・応用練習
形容詞の名詞化、命令形の用法
時刻の表現練習
小テスト

第13回 Franziska, Michael und Claudia 1

Dialogによる発音・聞き取り練習
分離動詞・非分離動詞の用法

第14回 Franziska, Michael und Claudia 2

Lesetextによる読解・応用練習
zu 不定詞の用法

第15回 定期試験

定期試験を行う。

フランス語

フランス語について

フランス語は、ラテン語を直接の先祖とするという意味では、スペイン語やイタリア語やルーマニア語などと兄弟関係にある言葉です。また最近とみに脚光を浴びている国際連合 (UN) における公用語の一つであることから分かるように、現在の国際政治で使用されている重要な言葉であるだけでなく、文化・学術上の言語としても重要な位置を占めています。世界の表舞台で活躍する人々や、国際的なスポーツ大会に参加する選手の中でフランス語を話す人が予想外に多いのに驚かされますが、フランス語は、フランス本国だけではなくスイスやベルギーやカナダのケベック州、さらにアフリカの数カ国の公用語として使用されている国際語なのですから、それも当然のことなのです。

このような公的な面だけではなく、文学や美術や映画など芸術の分野、あるいはファッションや料理といった私たちの日常生活に関係の深い面においても、フランス文化の影響が色濃く見られます。とりわけ文化や芸術の分野では、フランスは歴史的にも他に類のない輝かしい栄光を誇ってきましたし、現在でも世界をリードする存在であり続けているのです。またスポーツにおいても、サッカーや柔道やフィギュアスケートなどさまざまな種目で、フランスの選手たちがめざましい活躍をしているのはよく知っている人も多いでしょう。

こうしたフランス語の重要性は、ヨーロッパ連合の国々が、ユーロによる通貨統合などを通してますますお互いに緊密の度を深め、フランスがその中で中心的な役割の一端を担っている時代において、なおいっそうクローズアップされていると言えるでしょう。グローバル化がしきりに言われる現代にあって、英語だけではなく、さらにフランス語の知識を身につけることは、学生諸君にとっても貴重な知的財産の一つとなるはずです。フランス語はまた、明晰さと論理性に富む言語であると言われますが、フランス語の学習が論理的な思考力の育成と、英語圏とはひと味違った異文化理解のきっかけになればと考えています。

< 辞書と参考書 >

辞書 外国語を勉強する上での一番基本となる参考書は、何と言っても辞書に他なりません。最初からいきなり語彙の多い大型辞書を買うよりも、次に挙げるような「学習仏和辞典」で勉強を始めるのがいいでしょう。

「Le Dico 現代フランス語辞典」(白水社) 「プチ・ロワイヤル仏和辞典」(旺文社)

「クラウン仏和辞典」(三省堂) など

参考書 講義で使うテキストは、あくまで授業に沿って使用するようにならされているので、自習用には適しません。自分で分からないところを確認し、知識をさらに深めるのには、次のような文法参考書をおすすめします。

「新・リュミエール フランス語文法参考書」(駿河台出版社) 「大学で始めるフランス語」(駿河台出版社) など

フランス語クラス担当者一覧

クラス名	担当者名
基礎	姫野憲二(木1)
(再)基礎	久田原泰子(火1)
応用	小林裕史(火1)

科目名： フランス語基礎1				
英文名： Basic French 1				
担当者： ^{ヒメノ} 姫野 ^{ケンジ} 憲二・ ^{クダハラ} 久田原 ^{ヤスコ} 泰子				
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

この講義では、フランス語について、完結した初歩の読み、書き、話すというバランスの取れた能力の育成を目指します。基本的な文法を、日常生活に即した会話文をもとに楽しく学びながら、自分でも使えるような力を身につける仕組みです。講義は毎回新しい内容が出てきますので、休まずに出席することが前提になります。毎回欠かさずに予習・復習するのは当然のこと、授業中の活発な質問など、講義への一人一人の積極的な参加が望まれます。

■到達目標

- ・挨拶、自己紹介など日常的な表現を身につける。
- ・発音・文法の基礎事項を習得する。
- ・語彙数： 200語程度

■教科書

『初級CDフランス語文法』大木、Barthonnet、Lalloz著、朝日出版社
 ※大学堂書店で販売しています。

■参考文献

辞書 『ディコ仏和辞典』（白水社）『クラウン仏和辞典』（三省堂）『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）など
 参考書 『新リュミエール・フランス文法参考書』（駿河台出版社）『大学で始めるフランス語』（駿河台出版社）など
 ※辞書・参考書については、教員の指示に従ってください。

■関連科目

フランス語基礎2、フランス語応用1, 2
 語学センター開講科目: フランス語初級インテンシブ、フランス語中級回座、フランス語初級会話、フランス語中級会話

■試験方法

定期試験、平常小テスト（記述式、発音、聞き取り等）

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（3回以上）（30%）、課題・レポート（20%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 講義方針 アルファベ

これから始まる講義の方針について説明し、教科書や推薦する辞書、参考書などについて説明する。
 フランス語のアルファベ（アルファベット）を学ぶ。

第2回 あいさつの表現 フランス語の発音

「こんにちは」などのあいさつや、名前の言い方などの表現を学ぶ。
 フランス語の発音や、綴りと発音の関係についての基本を習得する。

第3回 主語人称代名詞 動詞êtreの直説法現在

Leçon 1-1.
 「私は」「あなたは」などの主語を表す人称代名詞の言い方を学ぶ。
 英語のbe動詞に相当する動詞êtreの活用と用法を知る。

第4回 人を表す名詞の男性形と女性形 -er形の規則動詞 第1回小テスト

Leçon 1-2.
 「学生」étudiant, étudianteなど、男性と女性で綴りも発音も異なる語について勉強する。
 最も基本となる、原形の語尾が-erで終わる動詞の活用と用法を学ぶ。

第5回 名詞の性と数 不定冠詞と定冠詞

Leçon 2-1.
 男性名詞と女性名詞の区別、名詞の複数形の作り方などについて学ぶ。
 不定冠詞と定冠詞の形や使い方を知る。

第6回 動詞avoirの直説法現在 否定文の作り方

Leçon 2-2.

英語のhaveに相当する動詞avoirの活用と用法について説明する。
フランス語の否定文の作り方を練習する。

第7回 疑問文の作り方 疑問形容詞

Leçon 3-1.

フランス語の疑問文の作り方を練習する。
「どんな」の意味を表す疑問形容詞quelの形の変化、用法について学ぶ。

第8回 疑問代名詞 動詞faireの直説法現在 第2回小テスト

Leçon 3-2.

「誰」qui、「何」que/quoiなどの疑問代名詞を使った疑問文の作り方を知る。
「する、作る」の意味を表す重要な不規則動詞faireの活用と用法を学ぶ。

第9回 形容詞の性と数

Leçon 4-1.

形容詞の用法を学ぶ。説明する名詞の性や数によって形がどう変化するかを知り、使えるように練習する。

第10回 名詞につく形容詞の位置 所有形容詞

Leçon 4-2.

形容詞が名詞の前に来る場合、後ろに来る場合について知る。
「私の」「あなたの」などの所有形容詞について勉強する。

第11回 前置詞と定冠詞の縮約 動詞allerの直説法現在

Leçon 5-1.

前置詞àやdeが定冠詞と結合したauやduなどの短縮形について学ぶ。
「行く」という意味の動詞allerの活用と用法について勉強する。

第12回 動詞venirの直説法現在 指示形容詞 疑問副詞 第3回小テスト

Leçon 5-2.

「来る」という意味の動詞venirの活用と用法について勉強する。
「その、それらの」という意味の指示形容詞、「いつ」「どこ」などの意味を表す疑問文の作り方について学ぶ。

第13回 -ir動詞の直説法現在 部分冠詞

Leçon 6-1.

-irで終わる規則動詞の活用と用法について学ぶ。
数えられない名詞の「若干量」を表す部分冠詞について、その使い方を練習する。

第14回 動詞prendreの直説法現在 名詞の複数形

Leçon 6-2.

「取る」という意味の動詞prendreの活用と用法について勉強する。
名詞の複数形の作り方、特殊な形を取るものなどを学ぶ。

第15回 定期試験

科目名： フランス語基礎2				
英文名： Basic French 2				
担当者： ^{ヒメノ} 姫野 ^{ケンジ} 憲二・ ^{クダハラ} 久田原 ^{ヤスコ} 泰子				
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

「フランス語基礎1」に引き続き、より高度なフランス語の運用能力の習得を目指します。「基礎2」ではさまざまな不規則動詞の活用、目的補語の用法から過去形（複合過去）までを学び、簡単な文章を読みこなせるレベルまで到達するようにします。前期と同様、休まず出席すること、毎回予習、復習を欠かさないことが重要です。内容は少し高度になりますが、むしろそれを楽しむようにして、真剣に取り組んでください。

■到達目標

- ・衣食住、家族関係など、一日の行動に必要な日常会話能力を身につける。
- ・簡単な読み書きが出来るための文法事項を習得する。
- ・語彙数： 500語程度
- ・検定基準： 4級程度

■教科書

『パリで会いましょう！』明石伸子著、白水社
 ※前期の「フランス語基礎1」に引き続き使用します。

■参考文献

辞書『デココ仏和辞典』（白水社）『クラウン仏和辞典』（三省堂）『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）など
 参考書『新リュミエール・フランス文法参考書』（駿河台出版社）『大学で始めるフランス語』（駿河台出版社）など
 ※辞書・参考書については、教員の指示に従ってください。

■関連科目

フランス語基礎1、フランス語応用1, 2
 語学センター開講科目: フランス語初級インテンシブ、フランス語中級回座、フランス語初級会話、フランス語中級会

■試験方法

定期試験、平常小テスト（記述式、発音、聞き取り等）

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（3回以上）（30%）、課題・レポート（20%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 講義方針 「基礎1」の復習

これからの講義の方針や進め方について説明する。
 「基礎1」の内容でとくに重要なものについて、一通り復習する。

第2回 予定を述べる 動詞allerとvenirの活用

Leçon 7-1. 会話：日本への帰国
 「行く」という動詞allerと、「来る」という動詞venirの活用と用法を学習する。

第3回 近接未来と近接過去 前置詞à/deと定冠詞の縮約

Leçon 7-2.
 近い未来を表す <aller + 原形> の形と、近い過去を表す <venir de + 原形> の形を練習する。
 前置詞à/deと定冠詞が結合したauやduなどの形を学ぶ。

第4回 ものを選ぶ 指示形容詞、疑問形容詞 第1回小テスト

Leçon 8-1. 会話：チョコレート屋にて
 「その」の意味を表す指示形容詞や、「どんな」の意味を表す疑問形容詞の使い方を勉強する。

第5回 直接目的補語人称代名詞

Leçon 8-2.
 「私を」「あなたを」などの直接目的語の人称代名詞の使い方を練習する。

第6回 行事を説明する 疑問代名詞、疑問副詞

Leçon 9-1. 会話文：結婚式

「誰」「何」などの意味の疑問代名詞、「いつ」「どこ」などの疑問副詞を使った疑問文の作り方を学習する。

第7回 代名動詞

Leçon 9-2.

再帰代名詞seを伴う動詞である代名動詞について学ぶ。

ここでは現在形の活用と用法を学ぶ。

第8回 ひとを比べる 比較級・最上級 第2回小テスト

Leçon 10-1. 会話文：試験の準備

フランス語の比較級と最上級の言い方について学ぶ。

第9回 間接目的補語人称代名詞

Leçon 10-2.

「私に」「あなたに」など間接目的語の働きをする人称代名詞について学ぶ。

第10回 経験を語る (I) 複合過去形 (I)

Leçon 11-1. 会話文：ヨーロッパ旅行

フランス語の基本的な過去形である複合過去について学ぶ。

この回ではとくにavoirを使った複合過去形について学習する。

第11回 複合過去 (I) のつづき 関係代名詞

Leçon 11-2.

前回学んだ複合過去について引き続き練習する。

基本的な関係代名詞の使い方について学ぶ

第12回 経験を語る (II) 複合過去形 (II) 第3回小テスト

Leçon 12-1. 会話文：東京への留学

場所の移動を表す動詞に用いられるêtreを使った複合過去について学ぶ。

第13回 複合過去のまとめ 目的語の語順

Leçon 12-2.

複合過去についてまとめの練習を行い、知識を固める。

直接目的語と間接目的語の代名詞が同時に使われる時の語順について学ぶ。

第14回 まとめと復習

これまでの内容で十分に説明できなかったところや、特に難しかったところについて復習する。

第15回 定期試験

科目名： フランス語応用1				
英文名： Intermediate French 1				
担当者： <small>コバヤシ ヒロシ</small> 小林 裕史				
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

すでに「フランス語基礎1,2」を履修した学生を対象とします。
 簡単な文章を読んだり、日常的な会話を楽しく学びながら、フランス語を使いこなすのに必要な能力の完成を目指します。
 また「基礎」で学んだ知識を基本から再確認し、まだ習っていない内容も習得できるようにします。授業は知識を積み重ね、くり返し練習していくことが要求されるので、休まず出席することが前提になります。また予習と復習を毎回行って学んだ内容を繰り返し確認しましょう。

■到達目標

- ・日常生活の様々な場面で適切な会話ができる。
- ・基本文型を習得し、より長い文を読み書きできる。
- ・語彙数： 700語程度
- ・検定基準： 4～3級程度

■教科書

『セラヴィ (1)』倉方秀憲、S. Giunta、Th. Troude著、早美出版社
 ※近畿大学生協の書店で販売しています。

■参考文献

辞書 『ディコ仏和辞典』(白水社) 『クラウン仏和辞典』(三省堂) 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社) など
 参考書 『新リュミエール・フランス文法参考書』(駿河台出版社) 『大学で始めるフランス語』(駿河台出版社) など
 ※辞書・参考書については、教員の指示に従ってください。

■関連科目

フランス語基礎1,2、フランス語応用2
 語学センター開講科目:フランス語初級インテンシブ、フランス語中級回座、フランス語初級会話、フランス語中級会話

■試験方法

定期試験、平常小テスト (記述式、発音、聞き取り等)

■成績評価基準

定期試験 (50%)、小テスト (3回以上) (30%)、課題・レポート (20%)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 講義方針 これまでの復習

講義の方針について説明し、教科書や参考書などを指示する。
 これまで学んだことで基本的な動詞の活用などを復習する。

第2回 あいさつと自己紹介 (1)

Leçon 1-1.
 あいさつの表現を自由に使いこなせるように練習する。
 簡単な疑問文の作り方を復習する。

第3回 あいさつと自己紹介 (2)

Leçon 1-2.
 簡単な自己紹介ができるように練習する。
 職業を表す語彙を覚える。
 疑問詞を使ったいくつかの疑問文の作り方を学ぶ。

第4回 待ち合わせ (1) 第1回小テスト

Leçon 2-1.
 電話での会話のやり方を練習する。
 冠詞や指示形容詞などを復習する。

第5回 待ち合わせ (2)

Leçon 2-2.

人と待ち合わせをするために必要な表現を練習する。
時刻に関する語彙などを学ぶ。
「なぜ」「いつ」「何時」などの疑問詞を使った疑問文の作り方を知る。

第6回 文法 (1) 複合過去と半過去

フランス語の過去形で、複合過去について復習し、半過去について新たに学ぶ。

第7回 オデオン駅にて (1)

Leçon 3-1.

基本的な否定文の作り方を復習する。
Oui/Non/Siなどを使って疑問文に答えるやり方を学ぶ。

第8回 オデオン駅にて (2) 第2回小テスト

Leçon 3-2.

「私の」「あなたの」などの意味を表す所有形容詞の用法を学ぶ。
家族や親戚に関する語彙を覚える。

第9回 カルチエ・ラタンにて (1)

Leçon 4-1.

「目的」を表す表現を学ぶ。
場所に関する語彙を覚え、使いこなせるように練習する。

第10回 カルチエ・ラタンにて (2)

Leçon 4-2.

前置詞à, deと定冠詞の縮約、否定の冠詞deの用法について復習する。
道順を説明するための表現を練習する。

第11回 文法 (2) 関係代名詞と強調構文 所有代名詞

関係代名詞と強調構文の用法について詳しく学ぶ。
所有代名詞の形と用法について知る。

第12回 ドーバントン通り (1) 第3回小テスト

Leçon 5-1.

疑問形容詞quelの用法について学ぶ。
住居の内部についての語彙を覚え、使えるように練習する。

第13回 ドーバントン通り (2)

Leçon 5-2.

直接目的語を表す人称代名詞、強勢形の人称代名詞について復習する。
住居に関する表現の続き。

第14回 まとめと復習

これまで学んだ内容について、説明の不十分なところや、さらに練習が必要なおとところについて復習する。

第15回 定期試験

中 国 語

1111 1111 1111

中国語について

世界最大の人口、驚異的な経済成長、4千年の歴史を誇る中国。今後、同じクラスやサークル、またバイト先で中国の人と接する機会が多いにあるでしょう。また学生時代の思い出旅行で、就職したら出張で中国に行く機会もあると思います。国際化が急速に進展する今日、私たちにとって中国語を学び、中国への理解を深めていくことは、極めて重要なことだと言えるでしょう。

中国語は中国では「漢語」と言います。「漢語」とは漢民族の言語のことで、使用人口は10億人以上とされ、世界最大の使用者人口を誇ります。漢民族の言語ですから、その中には北京語も上海語も広東語も含まれます。中国は実は方言の多い国で、それらはまるで互いに外国語のようで、場合によっては通訳なしでは通じません。しかし、これでは困ります。1つの国には全国共通の標準語が必要です。そこで、全国にくじるといふ意味の「普通話」（標準語）が定められ、国民のコミュニケーションの円滑化がはかられました。私たちが学ぶ中国語とは、実はこの漢民族の言語の標準語「普通話」を意味するのです。

中国では「普通話」の制定と同時に、漢字を簡略化して識字率の向上もつとめました。こういう中国独自の簡略化された文字を「簡体字」といいます。現在台湾を除いて、シンガポールやマレーシアなどでもこの「簡体字」が使用されていますが、漢字であるとはいえ、外国語であることに変わりはありません。私たちが使っているものとはずいぶん形が違うものがありますし、また同じ漢字でも、表す意味が異なるものもたくさんあります。例えば「走」という字、日本では「走る」という意味ですが、中国では「歩く」という意味です。漢字文化圏に属するとはいえ、日本と中国の漢字とでは異なる点が多く、両国間の文化の相違を十分に垣間見ることができます。中国語を学ぶことから、中国への興味と理解を深め、より豊かな知識と感覚を備えた国際人になってほしいと願っています。

<辞書・参考書>

- 辞書 基礎中国語辞典（NHK出版） はじめての中国語学習辞典（朝日出版社）
クラウン中日辞典（三省堂） 中国語辞典（白水社）
中日辞典 第二版（講談社） 日中辞典 第二版（岩波書店）
日中辞典 第2版（小学館）
- 参考書 why?にこたえるはじめての中国語の文法書（同学社）
中国語文法・完成マニュアル（白帝社）
よくわかる中国語文法（白帝社）

中国語クラス担当者一覧

クラス名	担当者名
基礎	久田麻実子(木1)
(再)基礎	鈴木康予(火1)
応用	樋口昌敏(火1)

科目名： 中国語基礎1				
英文名： Basic Chinese 1				
担当者： <small>ヒサダ マミコ スズキ ヤスヨ</small> 久田 麻実子・鈴木 康子				
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	区 分：	必修選択の別： 選択科目

■授業概要

はじめて中国語を学ぶ人を対象に、中国語を「聞く」「話す」「書く」ための基礎力をつけることを目標とします。基礎1ではとにかく発音をよく聞いてまねること。中国語は一つ一つの音節に、高低や上げ下げの調子=声調 (tone) がついており、同じ発音でも声調が異なれば表す意味も違ってきます。また中国語の発音は、中国独自のローマ字つづり「ピンイン」で表記され、この「ピンイン」は私たちが英語で慣れ親しんだ読み方とはところどころ異なります。まずは声調を聞き分け、「ピンイン」に習熟すること、これが基礎1では特に重要になります。同時に簡単な自己紹介や日常会話ができるよう、文法の基礎もしっかりと学んでいきます。

■到達目標

- ・挨拶、自己紹介など日常的な表現を身につける。
- ・発音・文法の基礎事項を習得する。
- ・語彙数： 200語程度

■教科書

胡金定・吐山明月著『会話ツール24』（同学社）2,500円

■参考文献

（辞書）『基礎中国語辞典』（NHK出版）、『はじめての中国語学習辞典』（朝日出版社）、『クラウン中日辞典』（三省堂）など
（参考書）相原茂他著『why ? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）

■関連科目

語学センター開講科目：「中国語初級インテンシブ回座」「中国語初級会話」

■試験方法

定期試験、平常小テスト（記述式、発音、聞き取り等）

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（3回以上）（30%）、課題・レポート（20%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 発音編 短母音、声調、子音

第2回 発音編 複母音、鼻母音

第3回 発音編 発音と表記の注意点

第4回 第1課 名前の尋ね方、動詞「是」を用いた文、助詞「吗」、助詞「的」

第5回 前回の復習 小テスト

第6回 第2課 形容詞述語文、助詞「吧」、助詞「呢」、反復疑問文

第7回 前回の復習

第8回 第3課 動詞述語文、日時がある文の語順、動詞「有」、選択疑問文

第9回 前回の復習 小テスト

第10回 第4課 助詞「了」、「到～去・来」、介詞「在」、助動詞「想」

第11回 前回の復習

第12回 第5課 量詞、連動文、助詞「过」、介詞「离」「从」到」

第13回 前回の復習 小テスト

第14回 これまでの復習

第15回 定期試験

科目名：中国語基礎2				
英文名：Basic Chinese 2				
担当者： ^{ヒサダ} 久田 ^{マミコ} 麻実子・ ^{スズキ} 鈴木 ^{ヤスヨ} 康子				
単位：1単位	開講年次：1年次	開講期：後期	区分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

基礎2では、基礎1で習熟した「ピンイン」を見て、一字一句正確にかつていねいに発音できることを目指します。また平易な文章を自力で読めるように、中国語の構造をしっかりと理解し、文法の基礎力を築いてもらいます。中国語の発音をマスターするのは決して容易ではありません。授業以外の時間は、テキスト付録のCDを聞いたり、テレビやラジオなども利用して、進んで練習するようこころがけてください。基礎1に比べ、文法事項も増えていきます。予習・復習をしっかりとして授業に望みましょう。

■到達目標

- ・衣食住、家族関係など、一日の行動に必要な日常会話能力を身につける。
- ・簡単な読み書きが出来るための文法事項を習得する。
- ・語彙数： 500語程度
- ・検定基準： 4級程度

■教科書

胡金定・吐山明月著『会話ツール24』（同学社）2,500円

■参考文献

（辞書）『基礎中国語辞典』（NHK出版）、『はじめての中国語学習辞典』（朝日出版社）、『クラウン中日辞典』（三省堂）など
（参考書）相原茂他著『why?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）

■関連科目

語学センター開講科目：「中国語初級インテンシブ回座」「中国語初級会話」

■試験方法

定期試験、平常小テスト（記述式、発音、聞き取り等）

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（3回以上）（30%）、課題・レポート（20%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 第6課 副詞「在」「正在」「快要～了」、動詞の重ね型、数量補語

第2回 前回の復習

第3回 第7課 金額の言い方、比較の言い方、助動詞「能」「可以」、接続詞「要是」

第4回 前回の復習 小テスト

第5回 第8課 助詞「了」、助動詞「要」、助動詞「得」、助詞「着」

第6回 前回の復習

第7回 第9課 禁止の言い方、助動詞「会」「一边～一边」、程度補語

第8回 前回の復習 小テスト

第9回 第10課 「(是)～的」の構文、「把」の構文、方向補語、二重目的語

第10回 前回の復習

第11回 第11課 結果補語、助詞「着」、兼語文、助詞「地」

第12回 前回の復習 小テスト

第13回 第12課 「被」の構文 可能補語、「一点儿」介詞「被」

第14回 前回の復習

第15回 定期試験

科目名：中国語応用1				
英文名：Intermediate Chinese 1				
担当者：樋口 ^{ヒグチ} 昌敏 ^{マサトシ}				
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	区 分：	必修選択の別：選択科目

■授業概要

中国語基礎1・2を習得と文法の基礎をマスターした人を対象により進んだコミュニケーション能力を養成することを目標とします。会話式の教材による対話・反復練習、文法事項の説明、練習問題、ヒアリング、作文などを通して、「聞く」「話す」「読む」「書く」ための総合的な力をみにつけることを目標とします。

■到達目標

- ・日常生活の様々な場面で適切な会話ができる。
- ・基本文型を習得し、より長い文を読み書きできる。
- ・語彙数： 700語程度
- ・検定基準： 4～3級程度

■教科書

2年生のコミュニケーション中国語 塚本慶一監修 劉穎著 白水社 2,200円

■参考文献

相原茂他著『why?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）中日辞典

■関連科目

語学センター開講科目：「中国語中級会話」

■試験方法

定期試験、平常小テスト（記述式、発音、聞き取り等）

■成績評価基準

定期試験（50%）、小テスト（3回以上）（30%）、課題・レポート（20%）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 動詞が二つ以上ある文・AなのでBの形の複文

第2回 動詞句主語・数詞+多

第3回 復習

第4回 小テスト 疑問詞「どうして・どう」・AしてからBするの表現

第5回 「もう～だ」という表現・反復疑問文

第6回 「少し～だ」という表現・比較表現

第7回 復習

第8回 小テスト 名詞修飾語・禁止を表す「別」

第9回 結果補語・おつりを渡す時の言い方

第10回 様態補語・完了と持続の「了」

第11回 復習

第12回 小テスト 経験相・動詞「请」の表現

第13回 主述述語文・動詞「喜欢」の表現・「多」+動詞の表現

第14回 応用1の総復習

第15回 定期試験

近畿大學